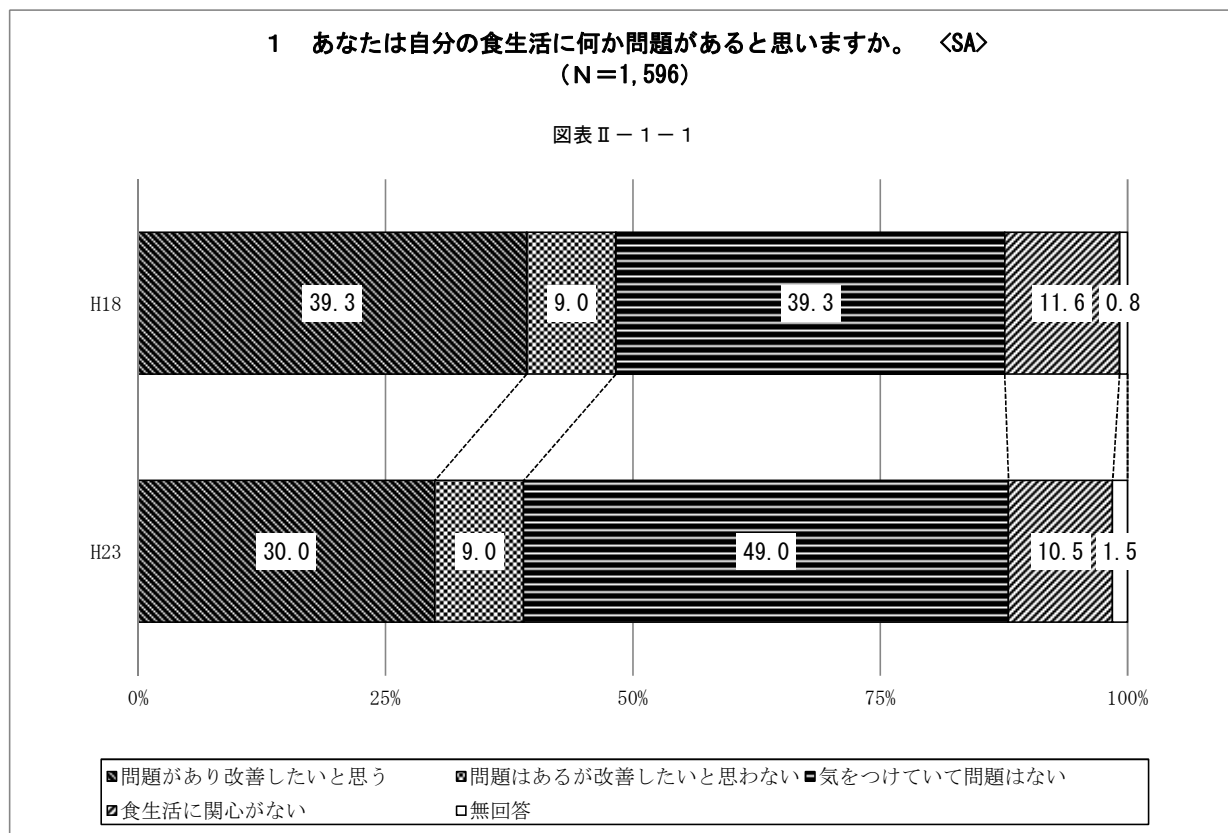


I 食生活や食習慣について

(1) 食生活の問題点の有無

1 あなたは自分の食生活に何か問題があると思いますか。

◆「気をつけていて問題はない」がほぼ半数



自分の食生活に問題があるか聞いたところ、「気をつけていて問題はない」(49.0%)がほぼ半数を占めており、平成18年度調査から10%近く増加している。逆に、「問題があり改善したいと思う」(30.0%)は3割に留まり、「問題があり改善したいと思う」と「問題はあるが改善したいと思わない」(9.0%)を合わせた「問題あり」は39.0%となり、平成18年度調査から9.3%減少している。(図表Ⅱ-1-1)

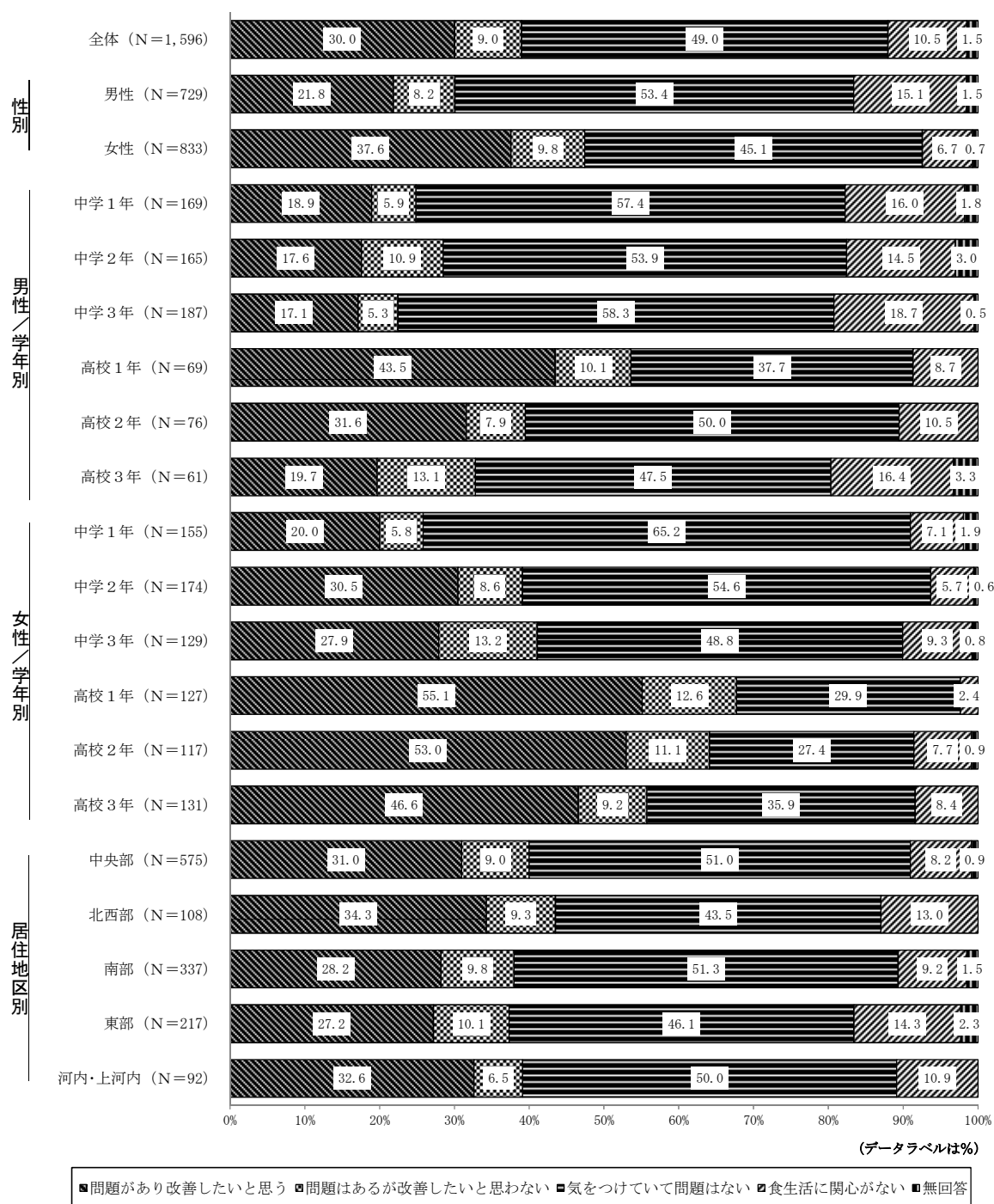
【性別／性・学年別／地区別】

性別で見ると、「問題あり」（「問題があり改善したいと思う」と「問題はあるが改善したいと思わない」の合計）の割合は、女性（47.4%）が男性（30.1%）よりも約17%高くなっている。

性・学年別では、男女とも「高校1年」で「問題あり」と回答している割合が高く、女性「高校1年」は67.7%に上っている。特に女性の高校生は、「問題あり」と回答している割合が高い。

居住地区別では、特に大きな開きは見られないが、「北西部」と「東部」で、「食生活に関心がない」の割合が1割台半ばとなっている。（図表Ⅱ－1－2）

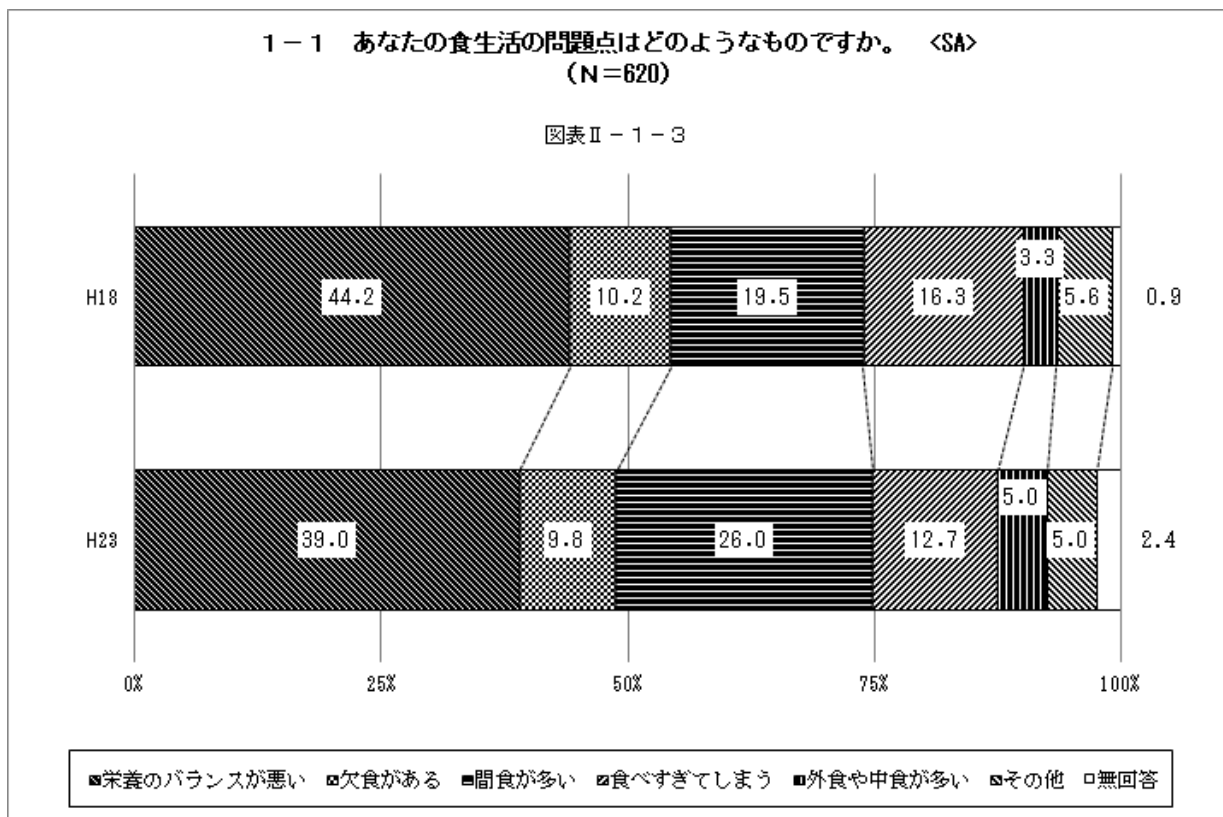
図表Ⅱ－1－2



(1-1) 問題点の内容

1-1 あなたの食生活の問題点はどのようなものですか。

◆「間食が多い」が増加



前問で、食生活に「問題あり」と答えた人に問題点を聞いたところ、「栄養バランスが悪い」(39.0%) が約4割を占め、最も高くなっているが、平成18年度調査からはやや減少している。次いで「間食が多い」(26.0%) となっているが、平成18年度調査では19.5%であったのに対し、今回調査で26.0%と6.5%増加している。また、「外食や中食などが多い」(5.0%) も微増となっている。(図表Ⅱ-1-3)

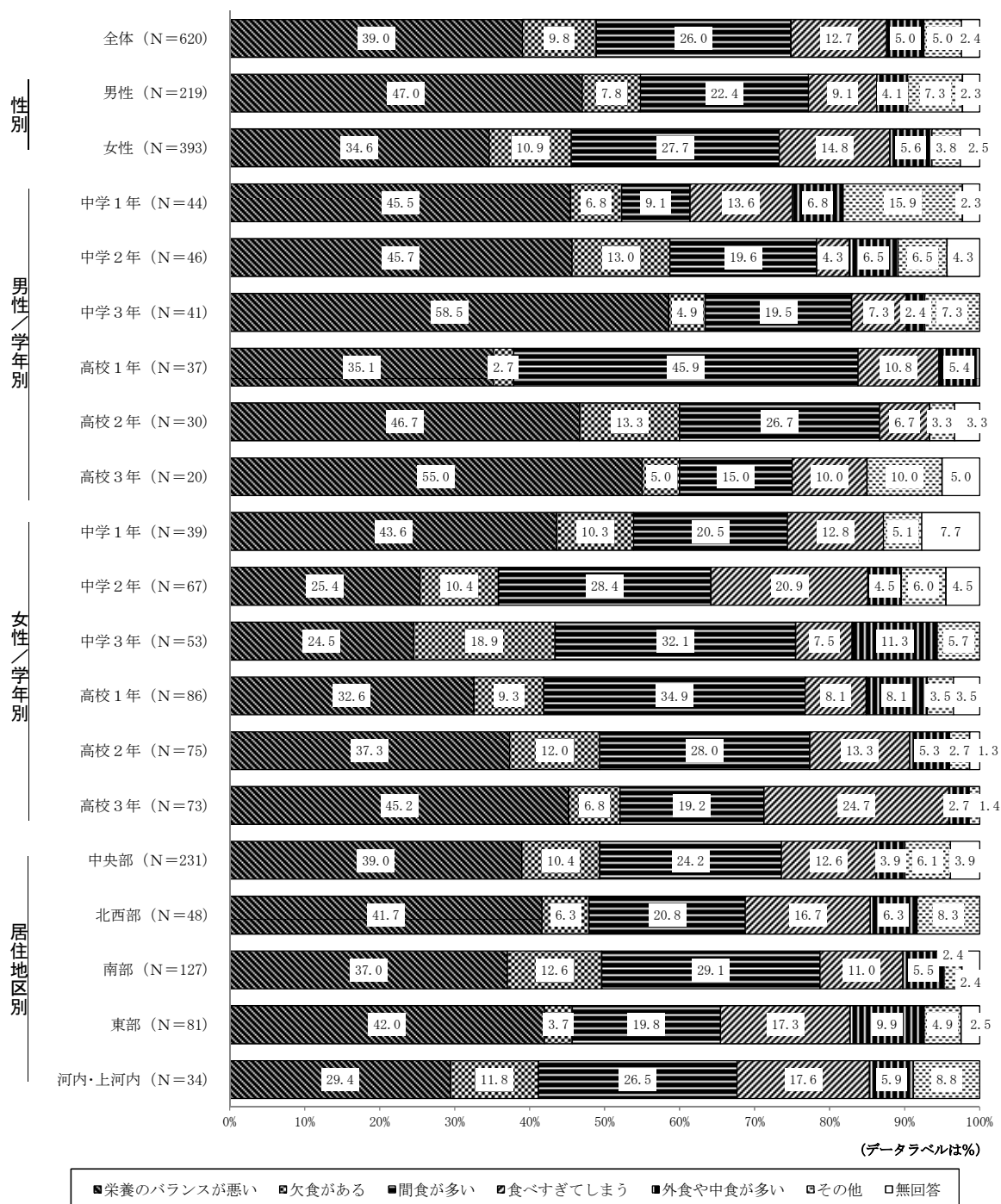
【性別／性・学年別／地区別】

性別で見ると、男女とも「栄養バランスが悪い」が多くなっているが、男性は47.0%と、高い値を示している。また、女性は、「間食が多い」(27.7%)、「食べすぎてしまう」(14.8%)、「欠食がある」(10.9%)で、男性よりも高くなっている。

性・学年別で見ると、「栄養バランスが悪い」の割合が高いのは「中学3年」(58.5%)、「高校3年」(55.0%)で、半数以上となっている。また、女性高校生は、中学生よりも「間食が多い」の割合が高い。

居住地区別に見ると、「河内・上河内」では「栄養バランスが悪い」(29.4%)の割合が、他地区に比べ低くなっている。(図表Ⅱ-1-4)

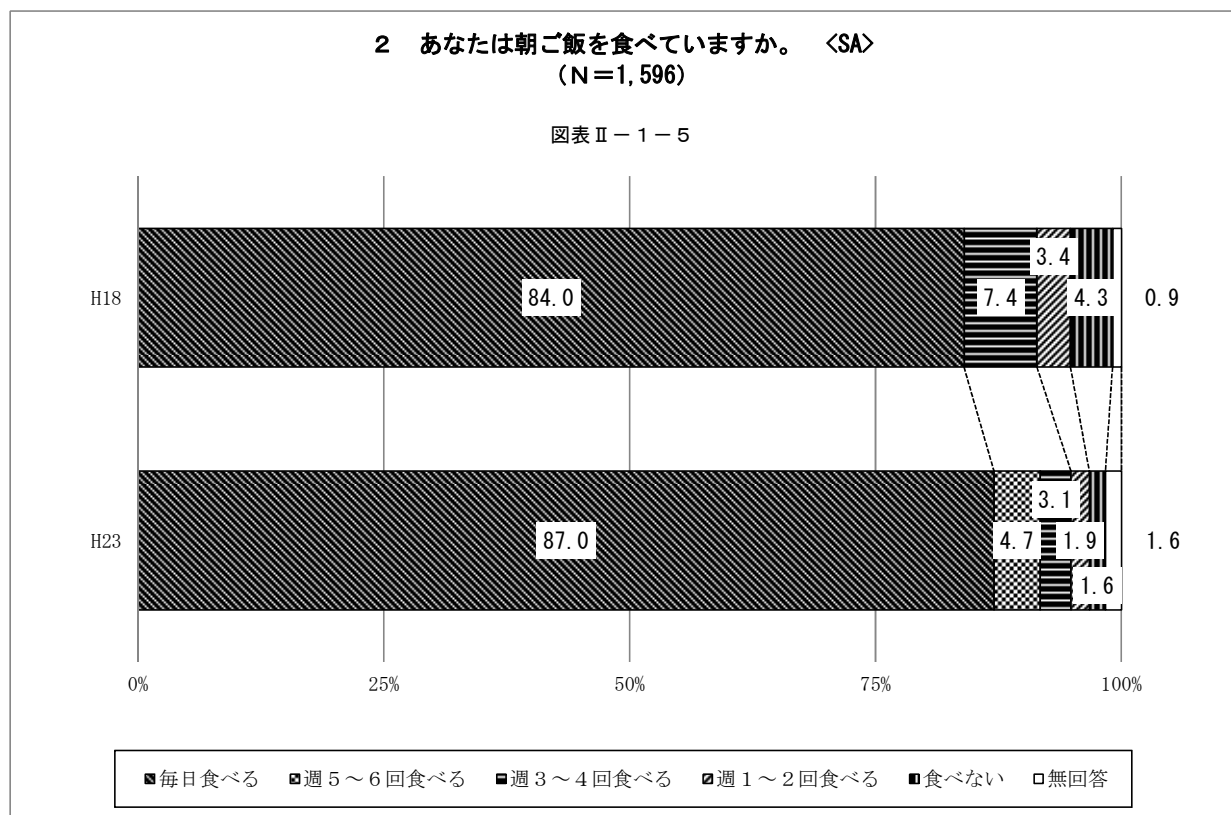
図表Ⅱ-1-4



(2) 朝食摂取度

2 あなたは朝ごはんを食べていますか。

◆「毎日食べる」が8割台後半



朝食の摂取状況は、「毎日食べる」が87.0%と最も高く、平成18年度調査から3.0%増加している。「週3~4回食べる」(3.1%)、「週1~2回食べる」(1.9%)や「食べない」(1.6%)は、軒並み減少している。

なお、「5~6回食べる」(4.7%)は、平成18年度調査では設問がない。(図表Ⅱ-1-5)

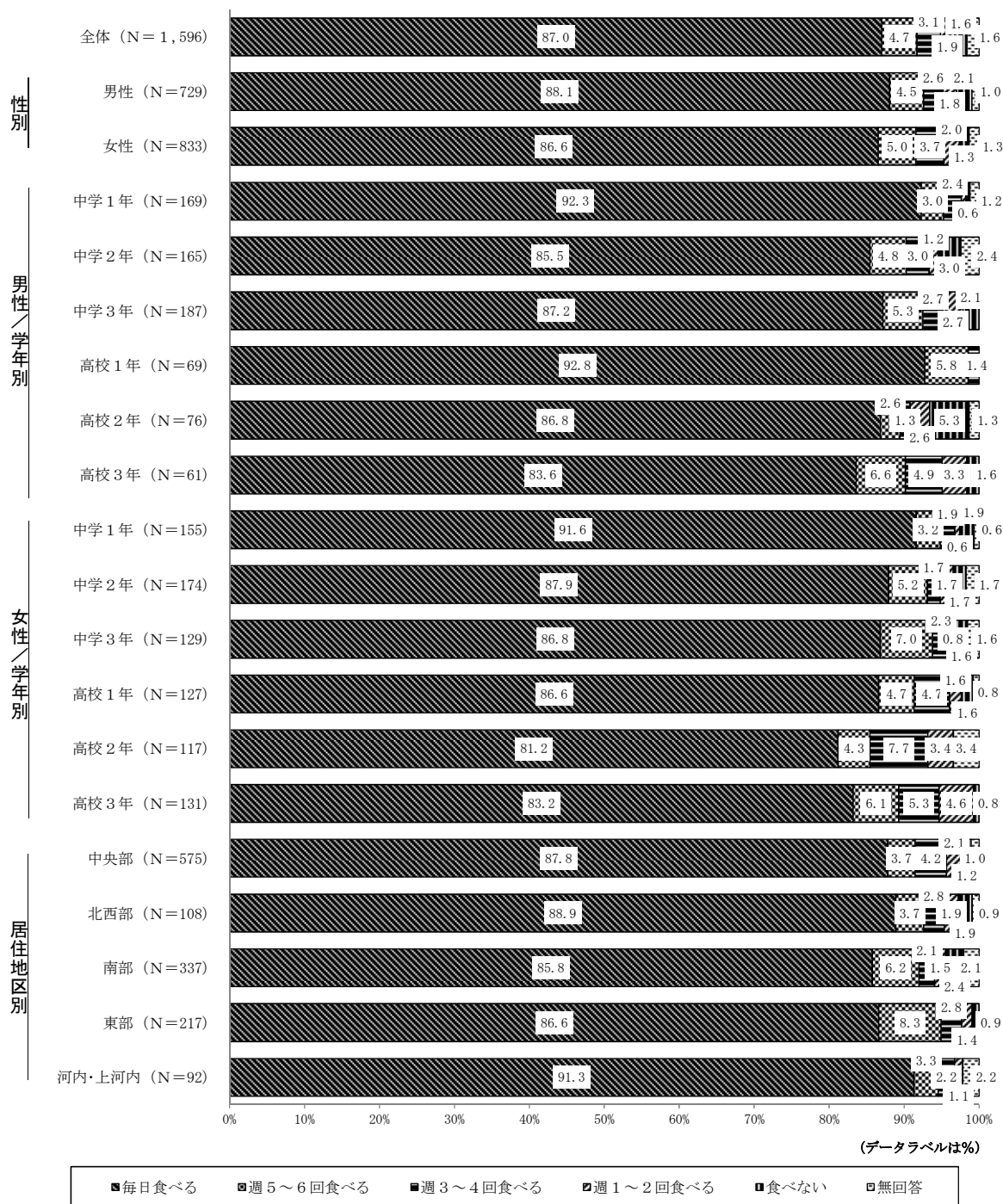
【性別／性・学年別／地区別】

性別で見ると、男女間で大きな差は見られない。

性・学年別で見ると、「毎日食べる」割合は男性「高校3年」(83.6%)、女性「高校2年」(81.2%)がやや低くなっている。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。(図表Ⅱ－1－1)

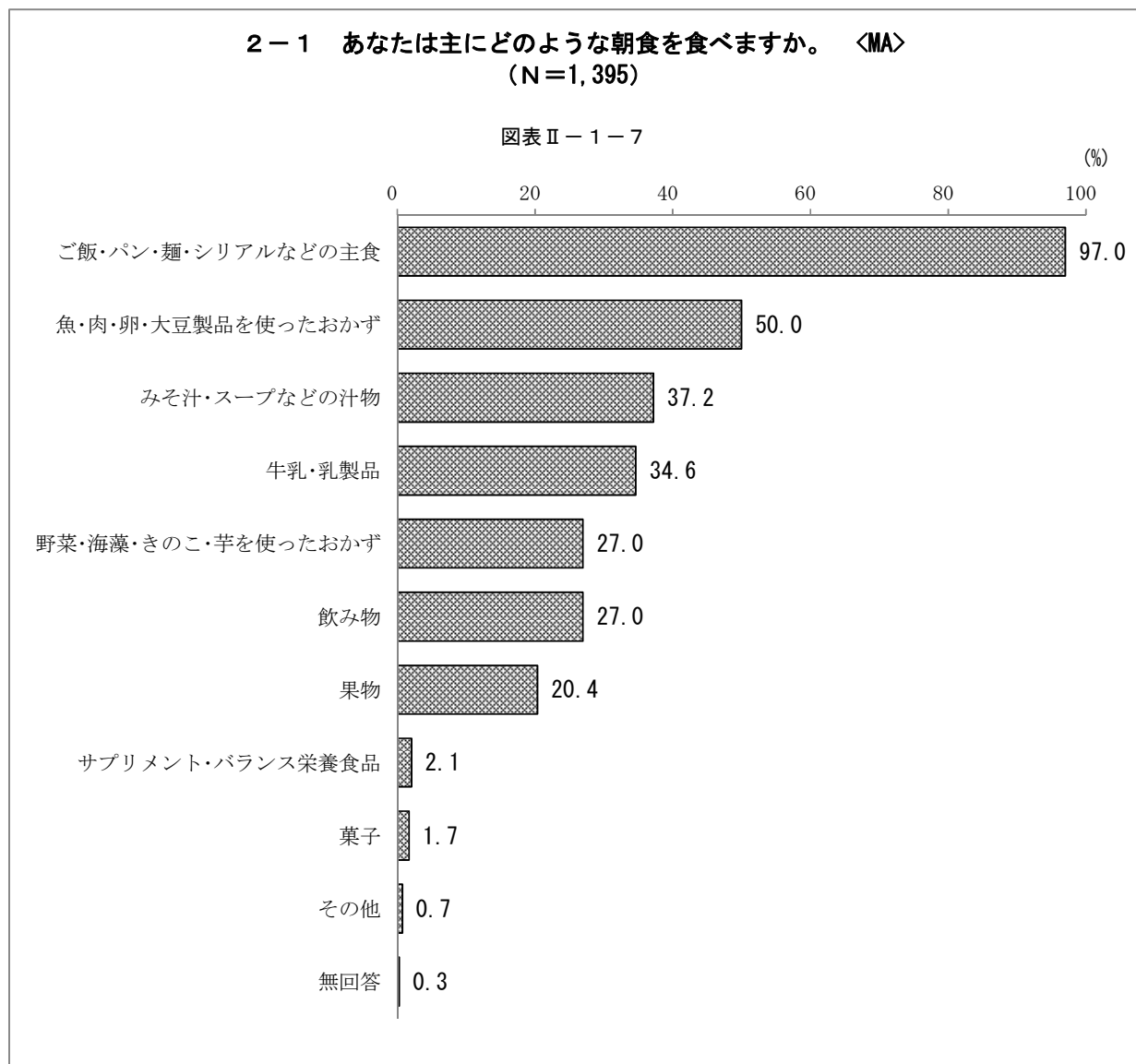
図表Ⅱ－1－6



(2-1) 朝食の内容

2-1 あなたは主にどのような朝食を食べますか。

◆「ご飯・パン・麺・シリアルなどの主食」が9割台後半



朝食を毎日食べる人にその内容を聞いたところ、「ご飯・パン・麺・シリアルなどの主食」が97.0%と突出している。以下、「魚・肉・卵・大豆製品を使ったおかず」(50.0%)、「みそ汁・スープなどの汁物」(37.2%)、「牛乳・乳製品」(34.6%)の順となっている。(図表Ⅱ-1-7)

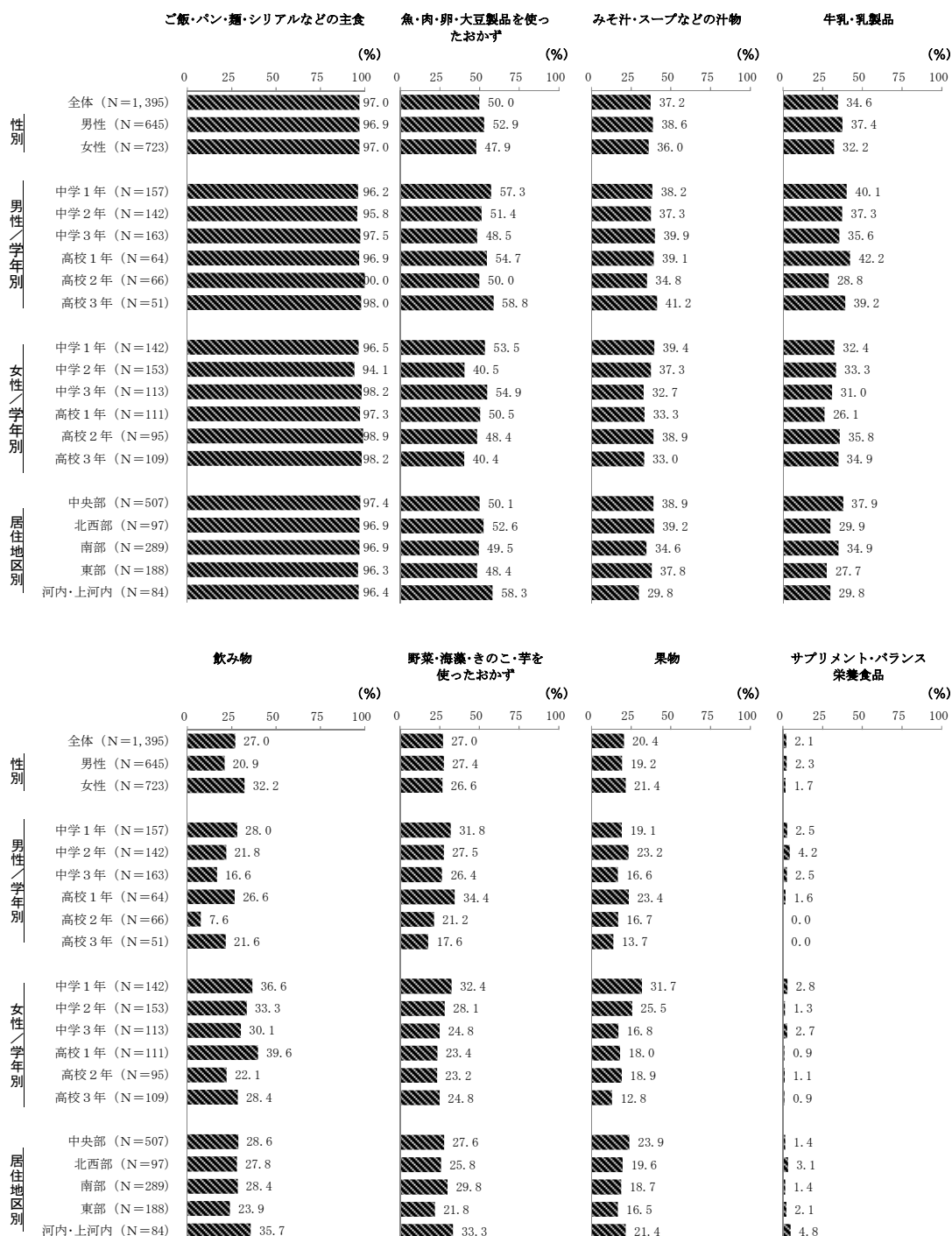
【性別／性・学年別／地区別】

上位8項目を性別で見ると、ほとんどの項目で男性の方が高くなっており、女性が高いのは「飲み物」(32.2%)、「果物」(21.4%)のみとなっている。

性・学年別でみると、「魚・肉・卵・大豆製品を使ったおかず」は、男性高校生では全学年で50%を超えている。また、「中学1年」では、男女とも50%を超えている。「牛乳・乳製品」は、男性「高校2年」(28.8%)、女性「高校1年」(26.1%)の低さが目立つ。

居住地区別では、「河内・上河内」では「魚・肉・卵・大豆製品を使ったおかず」(58.3%)が6割近くに上っているが、「味噌汁・スープなどの汁物」(29.8%)では2割台となっている。(図表Ⅱ-1-8)

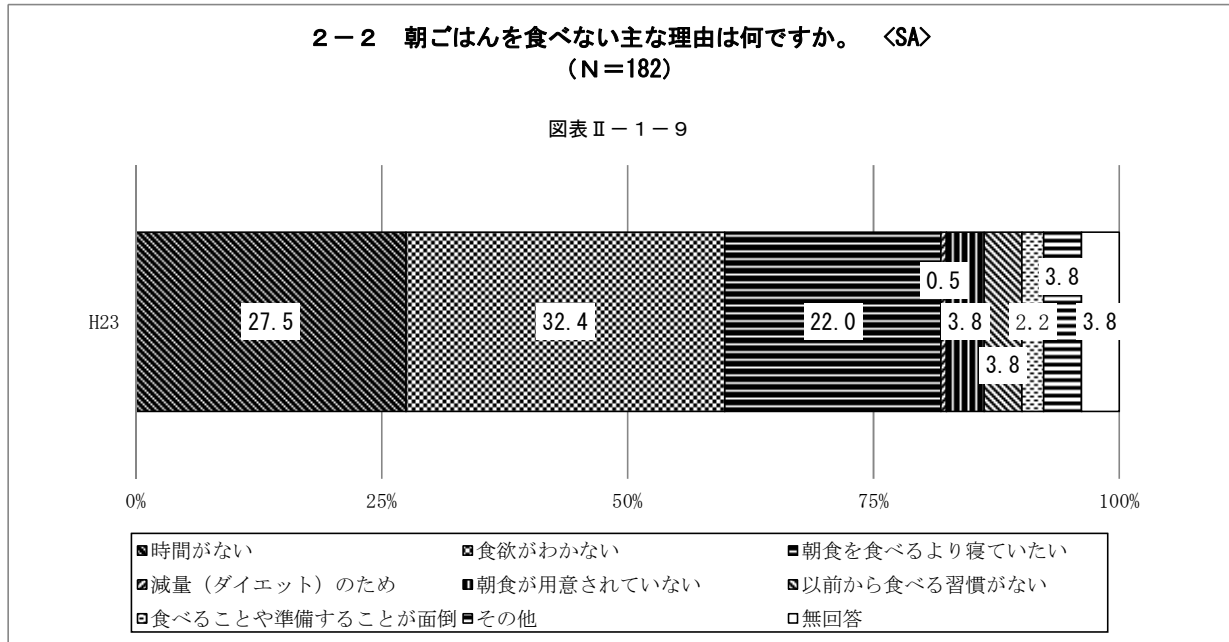
図表Ⅱ-1-8 (上位8項目)



(2-2) 食べない理由

2-2 朝ごはんを食べない主な理由は何ですか。

◆「食欲がわからない」が3割強



朝食を毎日食べない、もしくは食べないと答えた人に、朝食を食べない理由を聞いたところ、「食欲がわからない」(32.4%)が3割以上を占め、以下、「時間がない」(27.5%)、「朝食を食べるより寝ていたい」(22.0%)となっている。(図表Ⅱ-1-9)

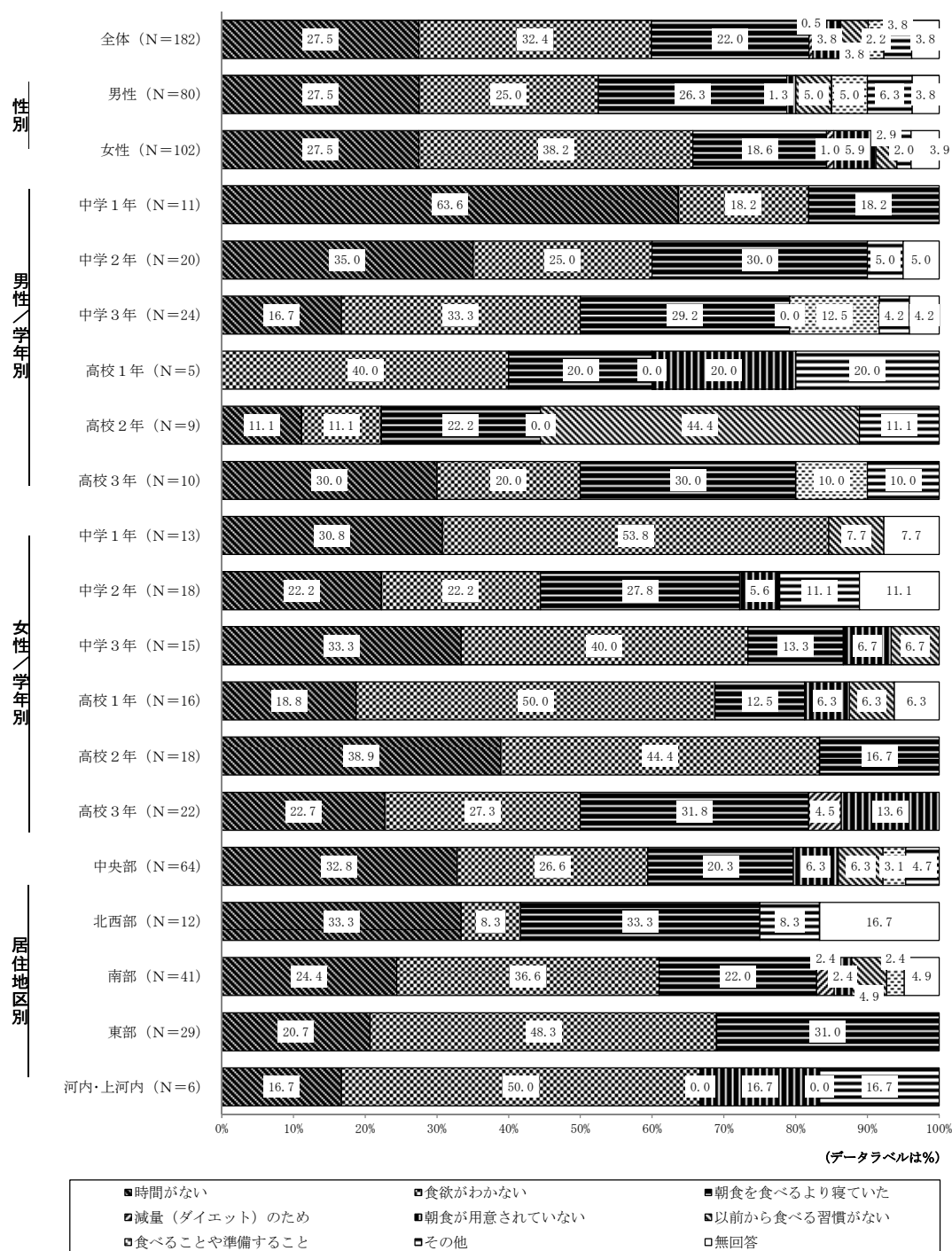
【性別／性・学年別／地区別】

性別で見ると、女性は「食欲がわからない」(38.2%)が高く、男性は「朝食を食べるより寝ていたい」(26.3%)が高くなっている。

性・学年別で見ると、男性「中学1年」で「時間がない」(63.6%)が6割を超え、女性「中学1年」では「食欲がわからない」(53.8%)が5割を超えている。女性「高校3年」では、「朝食が用意されていない」(13.6%)が見られる。

居住地区別では、「中央部」(32.8%)、「北西部」(33.3%)では「時間がない」、「南部」(36.6%)、「東部」(48.3%)、「河内・上河内」(50.0%)では「食欲がわからない」多くなっている。(図表Ⅱ-1-10)

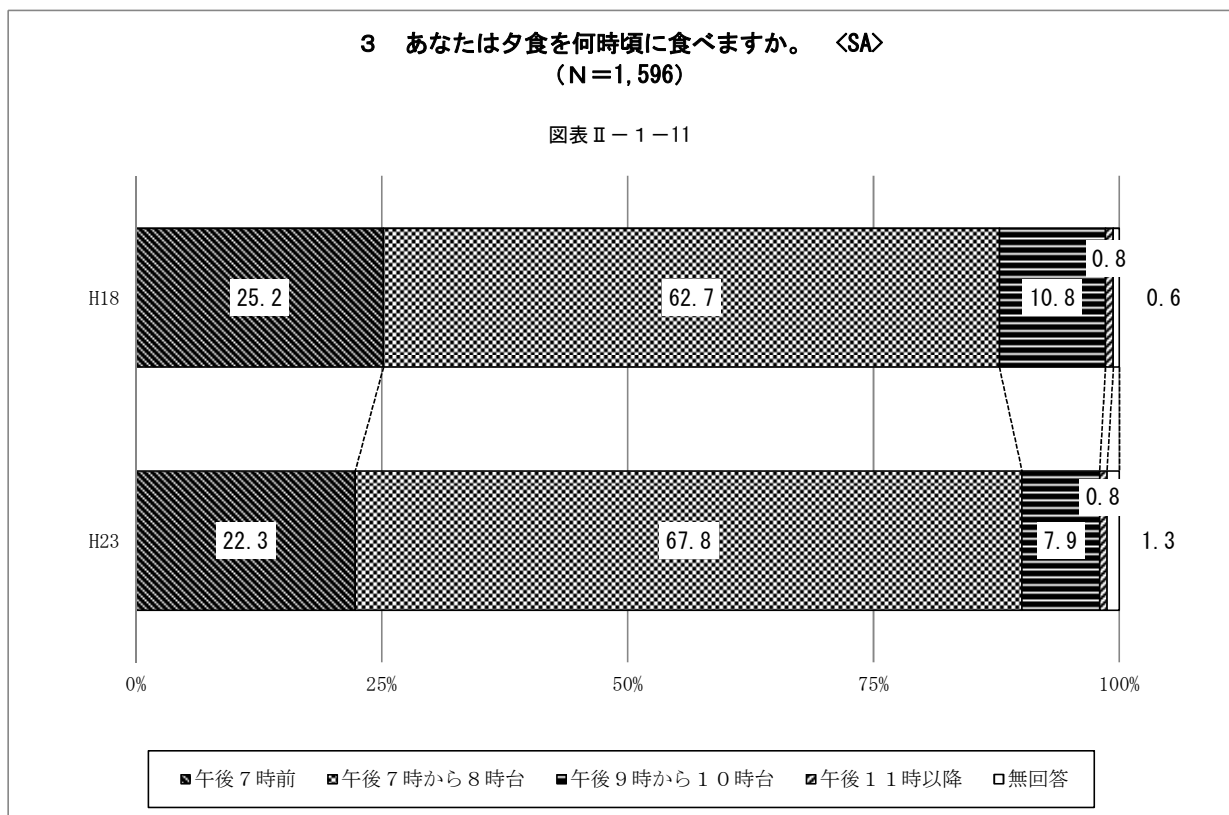
図表Ⅱ-1-10



(3) 夕食摂取時刻

3 あなたは夕食を何時頃食べますか

◆「午後7時台から8時台」が約7割



夕食を食べる時刻は、「午後7時台から8時台」(67.8%)が約7割を占め、平成18年度調査から約5%増加している。以下、「午後7時前」(22.3%)、「午後9時から10時台」(7.9%)となっている。(図表Ⅱ-1-11)

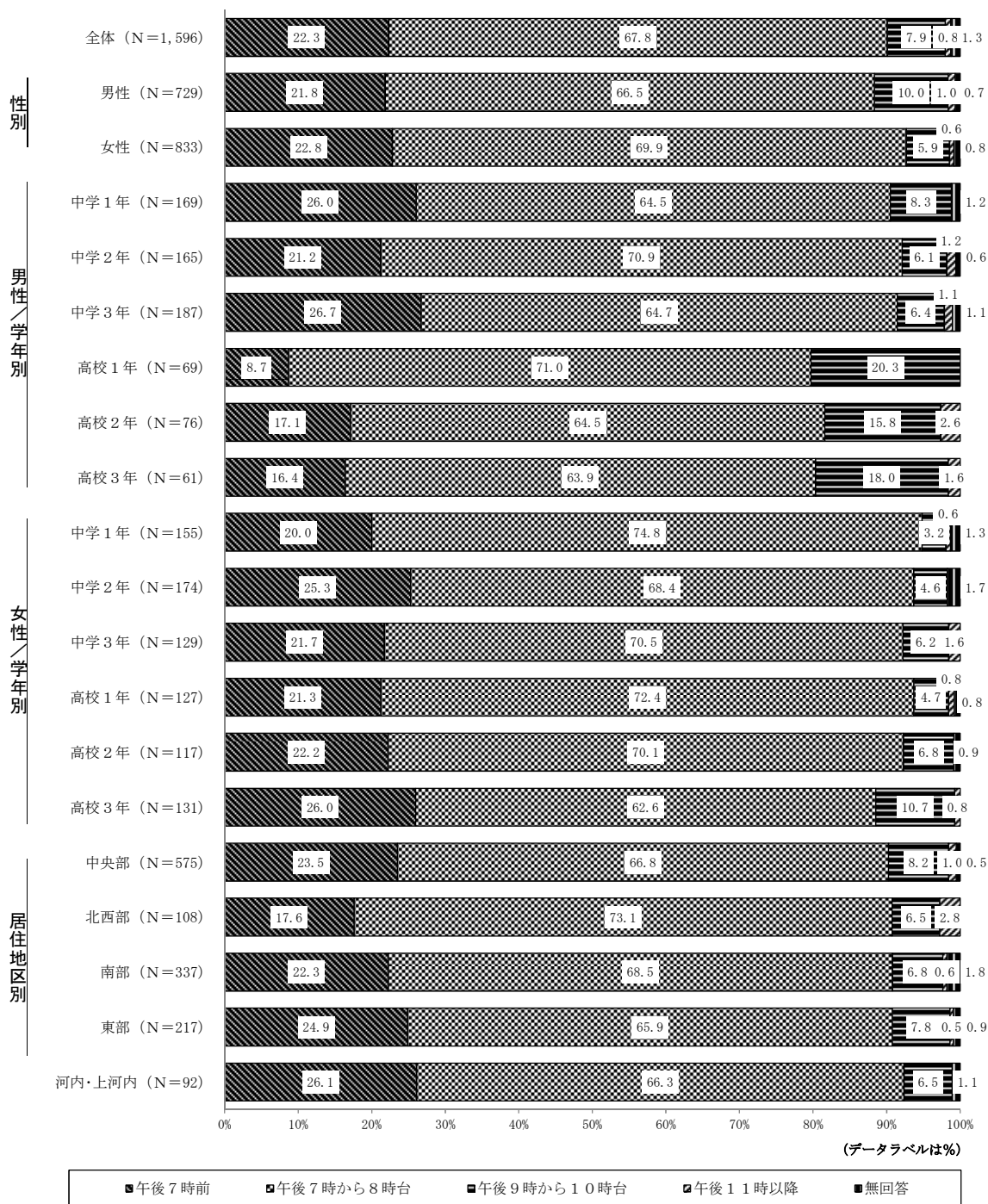
【性別／性・学年別／地区別】

性別で見ると、男女間で大きな差は見られない。

性・学年別に見ると、「午後7時前」は、男女とも中学生の割合が高くなっているが、女性「高校3年」(26.0%)が2割台半ばとなっている。また、男性高校生では全学年で「午後9時から10時台」の割合が高くなっている。

居住地区別では、「北西部」で「午後7時から8時台」(73.1%)が7割を超えている他は、大きな差は見られない。(図表Ⅱ-1-12)

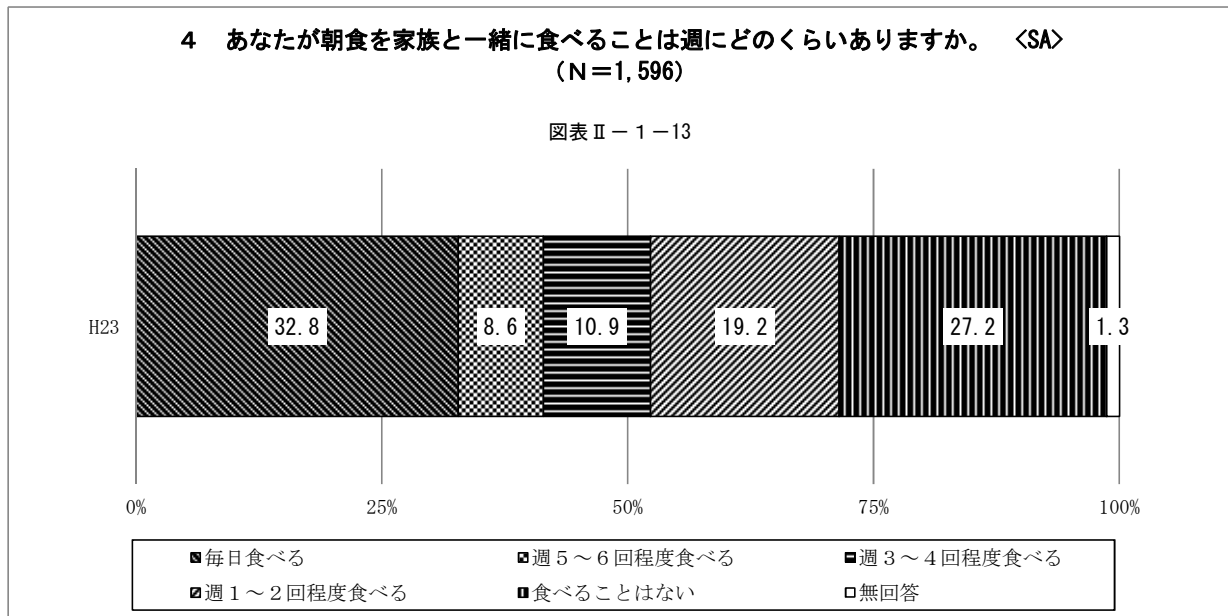
図表Ⅱ-1-12



(4) 家族との朝食（共食）

4 あなたが朝食を家族と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。

◆「毎日食べる」が3割強



朝食を家族と一緒に食べる頻度は、「毎日食べる」(32.8%)が3割強を占めているが、「食べることはない」が27.2%と、4人に一人が回答しており、次いで、「週1～2回程度食べる」(19.2%)が5人に一人となっている。(図表Ⅱ-1-13)

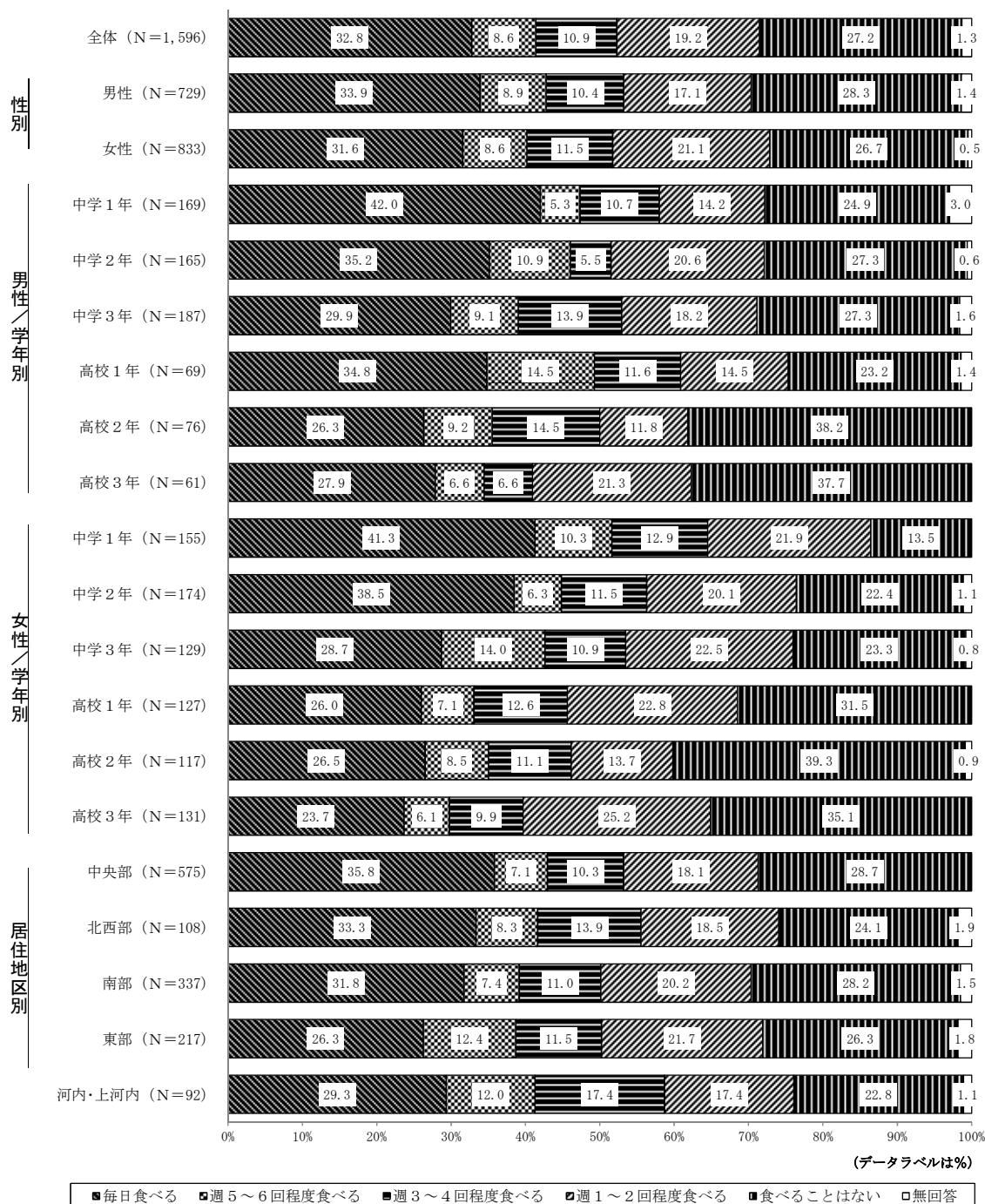
【性別／性・学年別／地区別】

性別で見ると、男性では「食べることはない」(28.3%)が女性(26.7%)よりも若干高くなっている。

性・学年別では、男女とも、学年が低いほど「毎日食べる」が多くなり、学年が高いほど「食べることはない」の割合が高くなる。特に、女性「高校2年」では39.3%に上っている。

居住地区別で見ると、「東部」(26.3%)、「河内・上河内」(29.3%)で「毎日食べる」の割合が、他地区に比べ低くなっている。「食べることはない」は、各地区とも4分の一程度となっている。(図表Ⅱ-1-14)

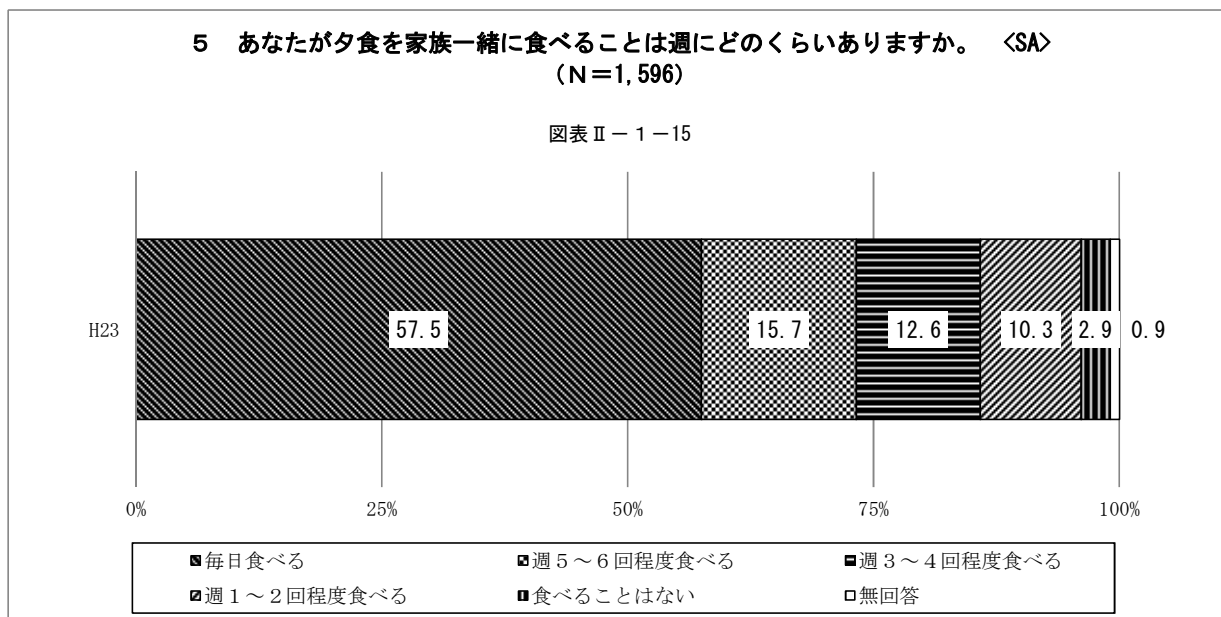
図表Ⅱ-1-14



(5) 家族との夕食（共食）

5 あなたが夕食を家族と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。

◆「毎日食べる」が約6割



夕食を家族と一緒に食べる頻度は、「毎日食べる」(57.5%) が約6割となっており、「食べない」と答えた人は2.9%に留まっている。(図表Ⅱ-1-15)

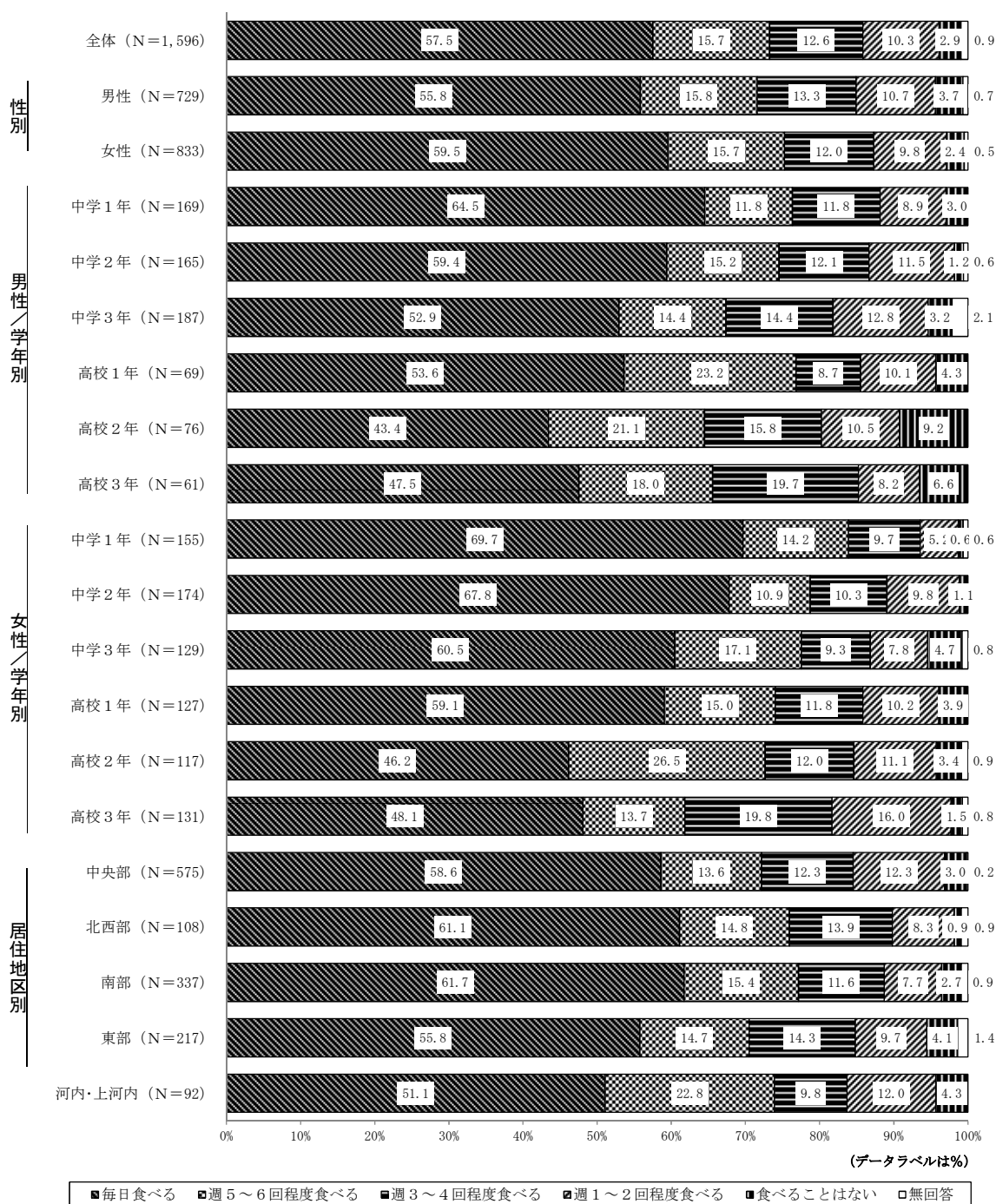
【性別／性・学年別／地区別】

性別で見ると、女性の方が、「毎日食べる」(59.5%)の割合が若干高くなっている。

性・学年別では、学年が低いほど「毎日食べる」の割合が高くなっている。「食べることはない」は「朝食」ほど多くはなく1割程度となっているが、「高校3年」男女とも、約2割が「食べることはない」となっている。

居住地区別では、「河内・上河内」では、他地区に比べ「週5～6回程度食べる」(22.8%)が高くなっている。(図表Ⅱ-1-16)

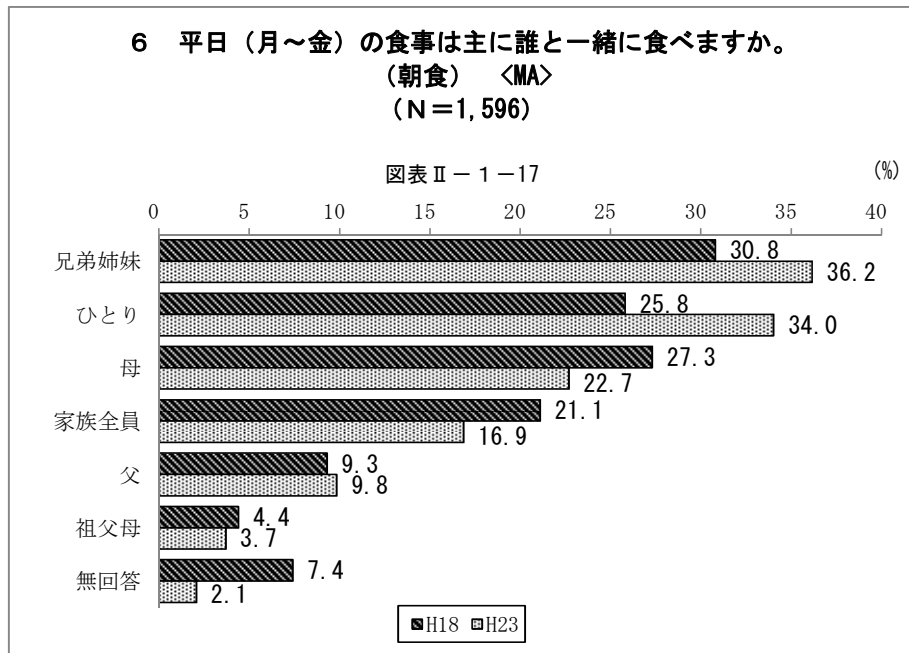
図表Ⅱ-1-16



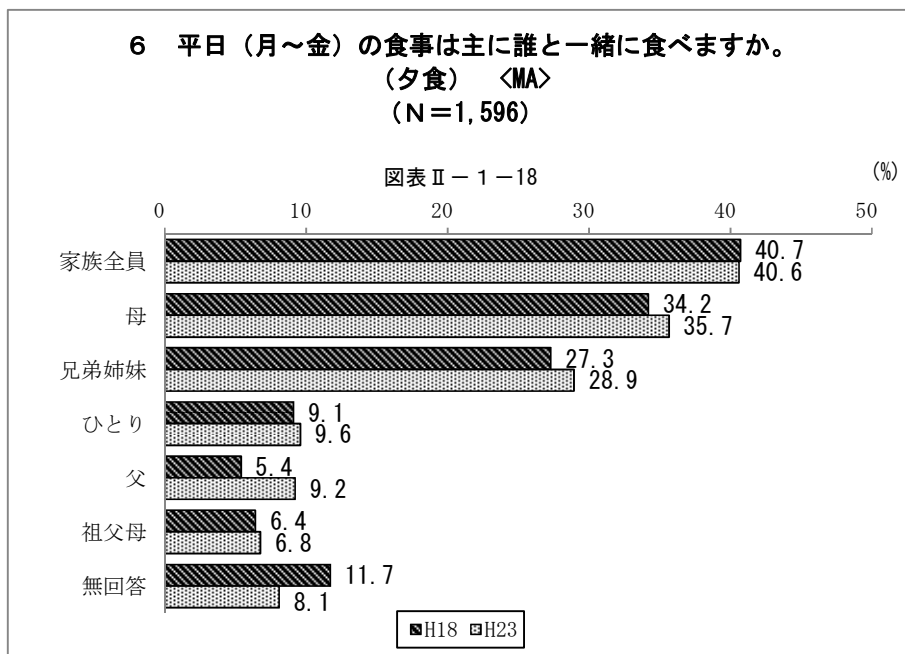
(6) 食事を一緒に食べる人

6 平日（月～金）の食事は主に誰と一緒に食べますか。

◆「家族全員」は朝食で約2割、夕食で4割



朝食を「家族全員」（16.9%）で食べる人は約2割で、「兄弟姉妹」が36.2%と最も多くなっている。また、平成18年度調査と比べ、「ひとり」が増加している。（図表Ⅱ-1-17）



夕食を「家族全員」（40.6%）で食べる人は約4割で、朝食よりも20%以上高くなっている。（図表Ⅱ-1-18）

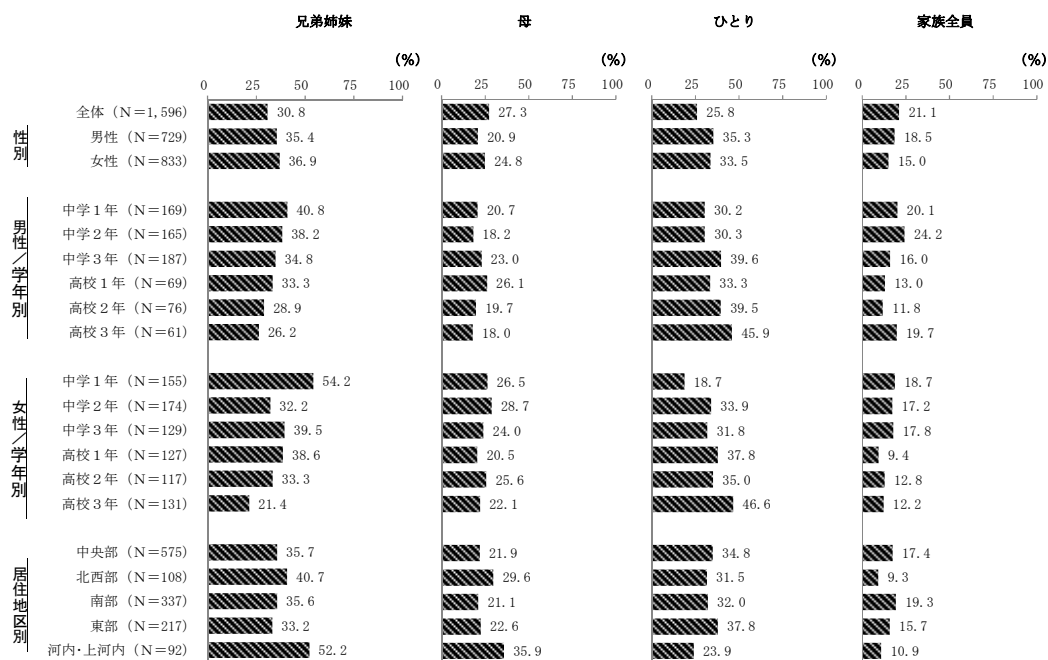
【性別／性・学年別／地区別】

性別で見ると、女性の方が「兄弟姉妹」(36.9%)、「母」(24.8%)が男性に比べ高くなっている。

性・学年別では、男女とも、学年が上がるに従い「ひとり」の割合が増加している。

居住地区別では、「河内・上河内」で「兄弟姉妹」(52.2%)が5割を超えている。(図表Ⅱ-1-19)

図表Ⅱ-1-19 (朝食)

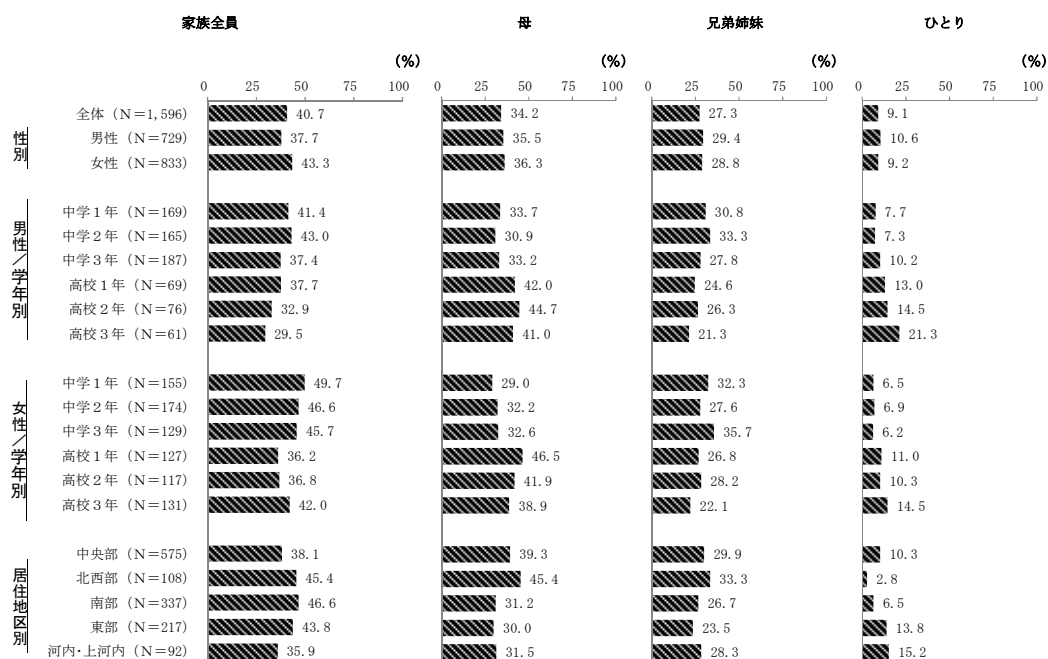


性別で見ると、男性に比べ、女性の方が「家族全員」(43.3%)の割合が高くなっている。

性・学年別では、男女とも高校生全学年で「母」の割合が高くなっている。

居住地区別では、「北西部」で「母」(45.4%)の割合が高くなっている。(図表Ⅱ-1-20)

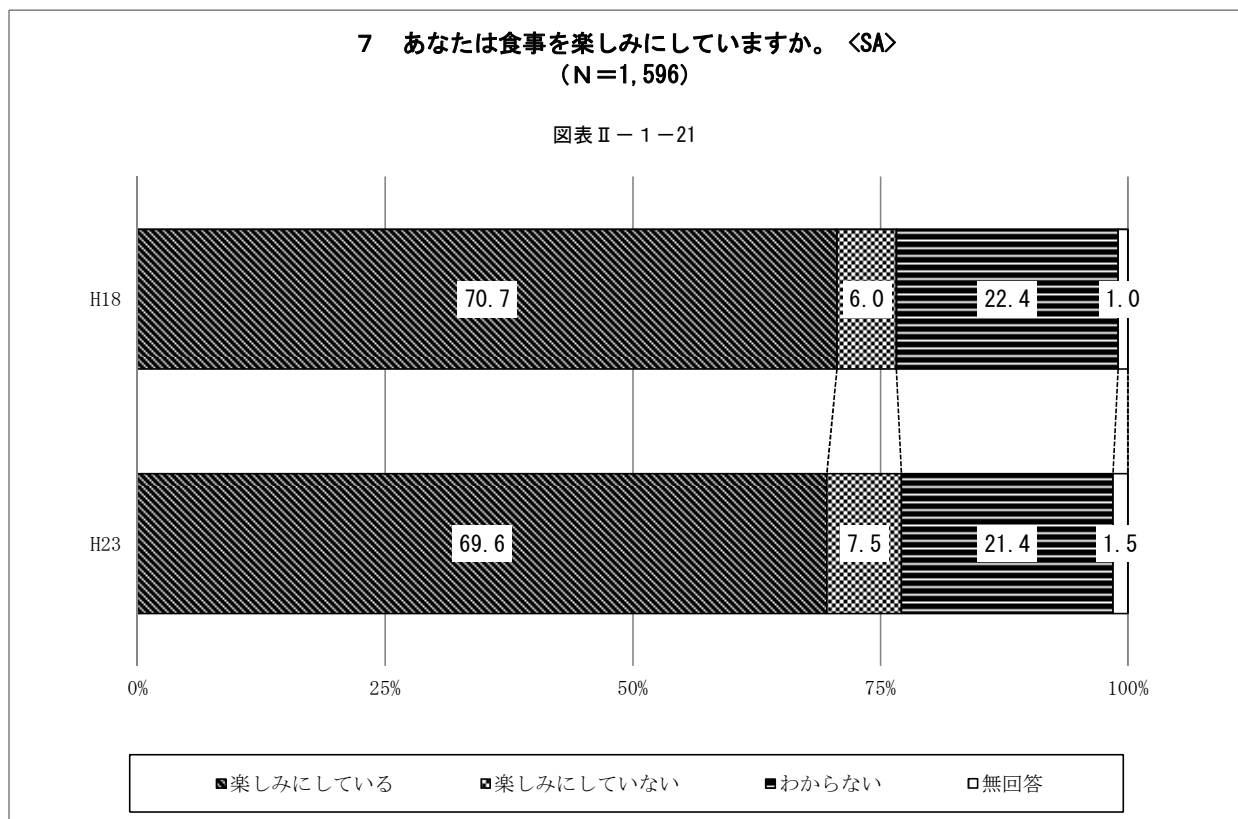
図表Ⅱ-1-20 (夕食)



(7) 食事の楽しみ

7 あなたは食事を楽しみにしていますか。

◆「楽しみにしている」が約7割



食事を楽しみにしているかどうかは、「楽しみにしている」(69.6%)が約7割を占めるが、「楽しみにしていない」(7.5%)が、平成18年度調査と比べ微増となっている。(図表Ⅱ-1-21)

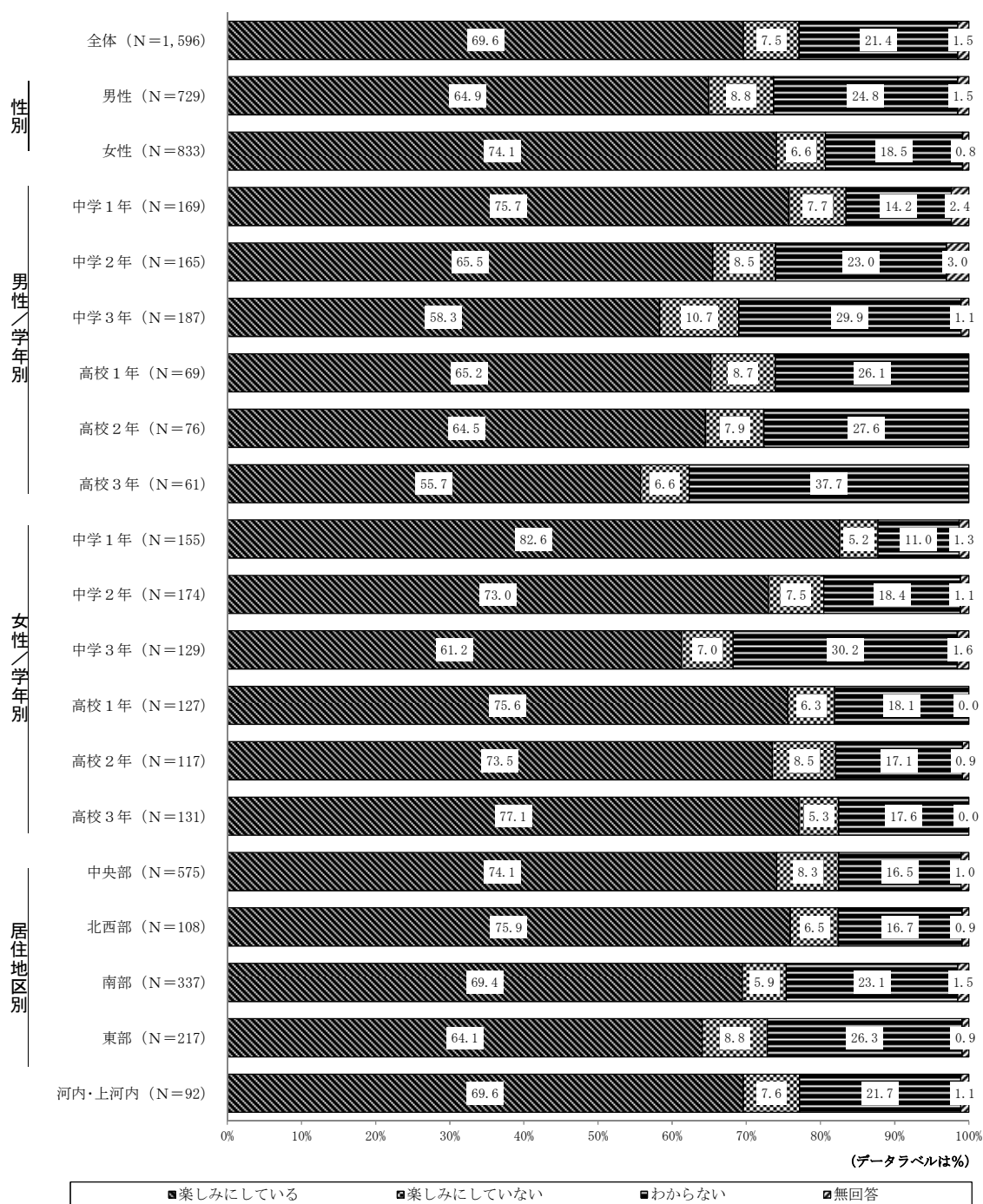
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、「楽しみにしている」割合は、女性（74.1%）が男性（64.9%）より、10%程度高くなっている。

性・学年別では、男女とも「中学1年」が最も高く、男性では7割、女性では8割を超えている。また、「中学3年」は男女とも「わからない」の割合が高くなっている。

居住地区別では、「東部」で「楽しみにしていない」（8.8%）、「わからない」（26.3%）割合が、他地区に比べ、若干高くなっている。（図表Ⅱ－1－22）

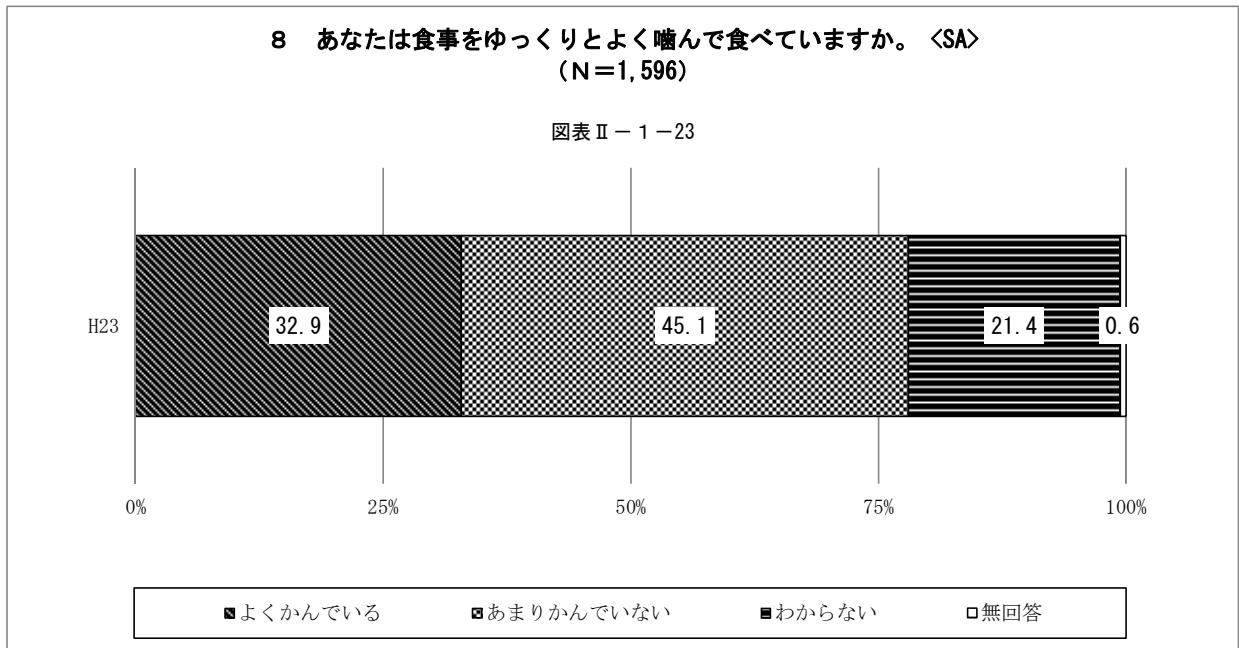
図表Ⅱ－1－22



(8) 咀嚼

8 あなたは食事をゆっくりとよく噛んで食べていますか。

◆「あまりかんでいない」が4割台半ば



食事の時によく噛んでいるか聞いたところ、「あまりかんでいない」(45.1%)が半数近くに上っている。以下、「よくかんでいる」(32.9%)、「わからない」(21.4%)の順となっている。(図表Ⅱ-1-23)

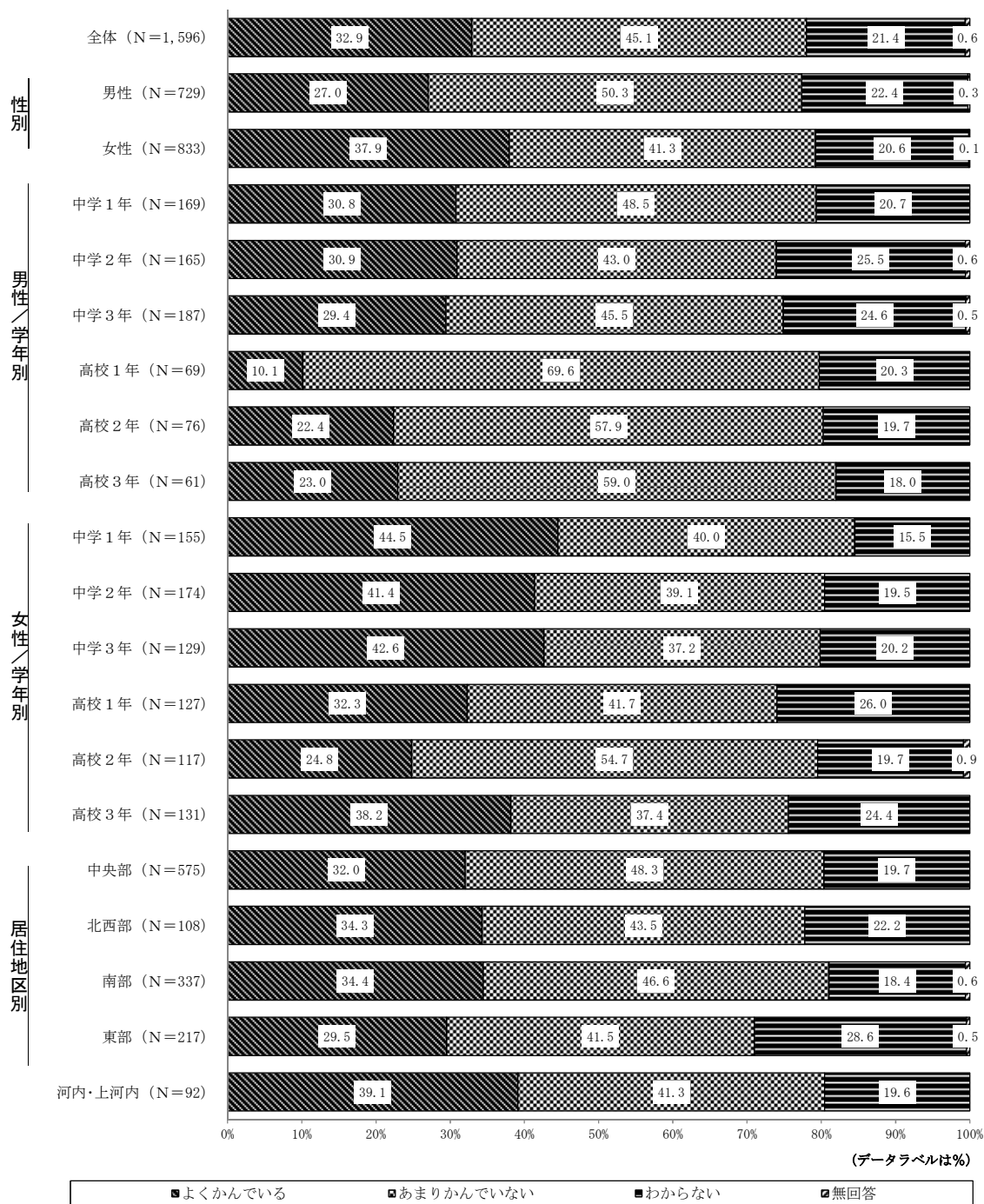
【性別／性・学年別／地区別】

性別で見ると、「よくかんでいる」の割合は、女性（37.9%）が男性（27.0%）より10%以上高くなっている。男性は、「あまりかんでいない」（50.9%）が5割を超えている。

性・学年別では、男性「高校1年」で「あまりかんでいない」（69.6%）が7割近くに上り、「高校2年」、「高校3年」も5割を超えている。女性中学生は、全学年で「よくかんでいる」が「あまりかんでいない」を上回っている。

居住地区別では、「東部」で「よくかんでいる」（29.5%）が3割程度と低くなっている他は、大きな差は見られない。（図表Ⅱ－1－24）

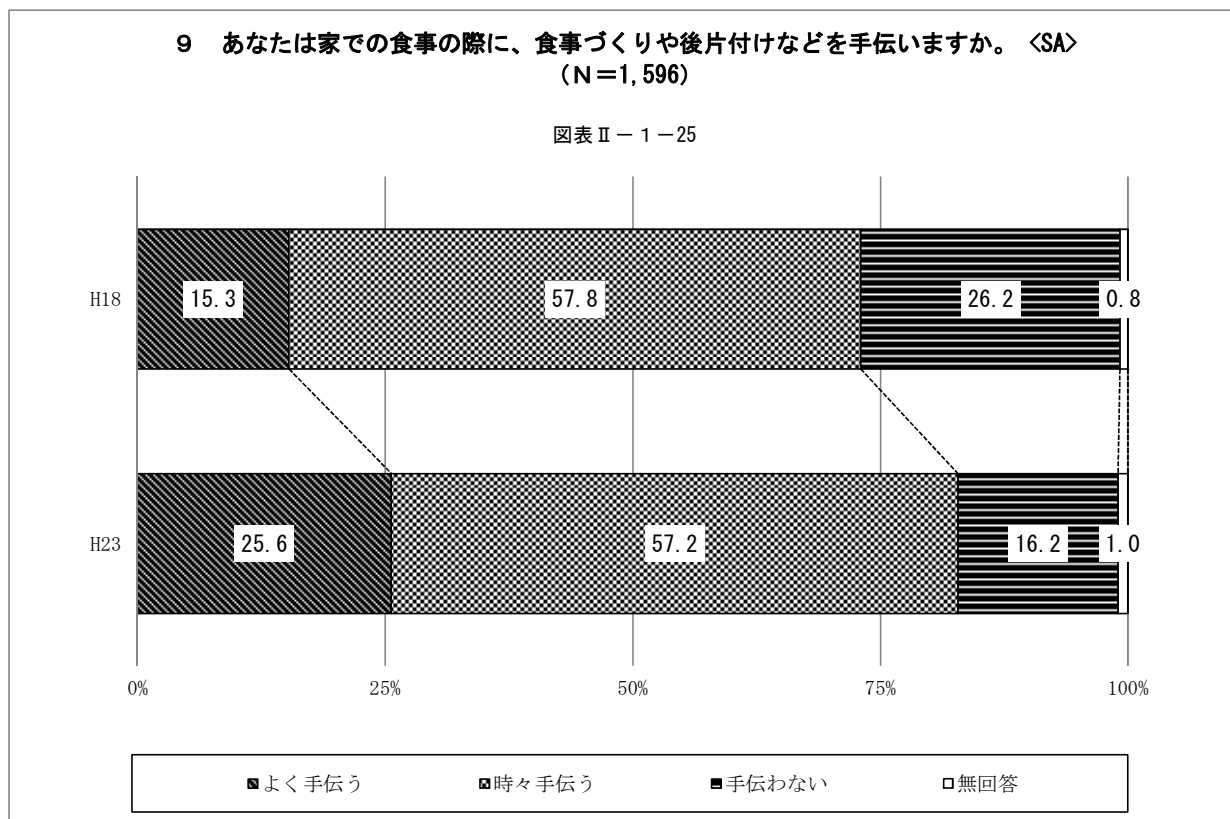
図表Ⅱ－1－24



(9) 食事の手伝い

9 あなたは家での食事の際に、食事づくりや後片付けなどを手伝いますか。

◆「よく手伝う」が増加



食事づくりや後片付けの手伝いは、「時々手伝う」(57.2%)と6割近くを占め、「よく手伝う」(25.6%)と合わせた「手伝う」は8割を超える。「よく手伝う」は、平成18年度調査では15.3%であったのに対し、本調査では25.6%と、10%以上の増加が見られる。(図表Ⅱ-1-25)

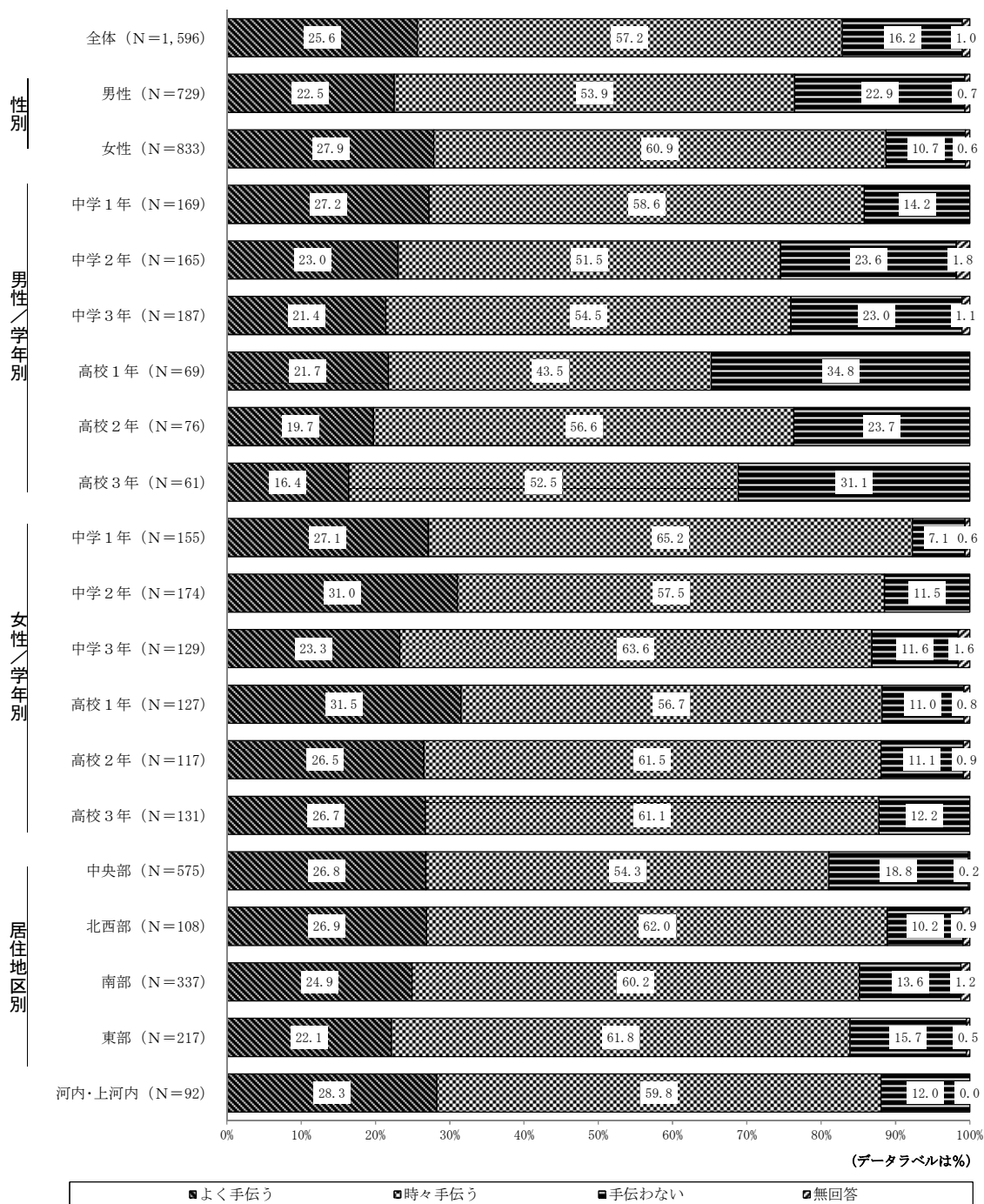
【性別／性・学年別／地区別】

性別で見ると、「手伝う」（「よく手伝う」と「時々手伝う」の合計）は、女性（88.8％）が男性（76.4％）より、12％以上高くなっている。

性・学年別で見ると、男性では、高学年になるに従い「よく手伝う」の割合が減少している。また、男性高校生では全学年で「手伝わない」の割合が3割前後と高くなっている。

居住地区別では、「中央部」で「手伝わない」（18.8％）の割合が高くなっている他は、大きな差は見られない。（図表Ⅱ－1－26）

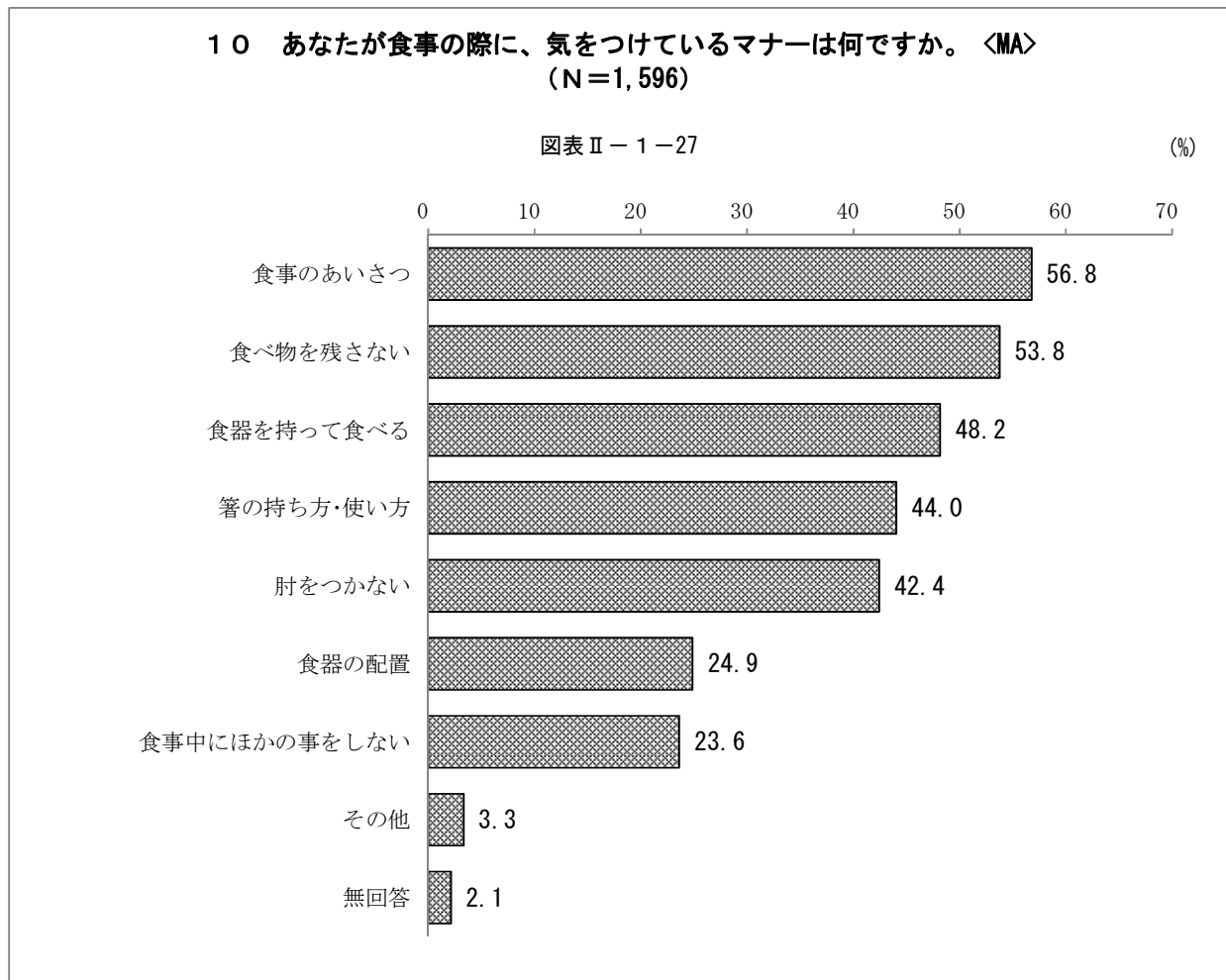
図表Ⅱ－1－26



(10) 食事の際のマナー

10 あなたが食事の際に気をつけているマナーは何ですか。

◆「食事のあいさつ」、「食べ物を残さない」が5割超



食事の際に気をつけているマナーは、「食事のあいさつ」(56.8%)と「食べ物を残さない」(53.8%)が50%を超えている。以下、「食器を持って食べる」(48.2%)、「箸の持ち方・使い方」(44.0%)、「肘をつかない」(42.4%)の順となっている。(図表Ⅱ-1-27)

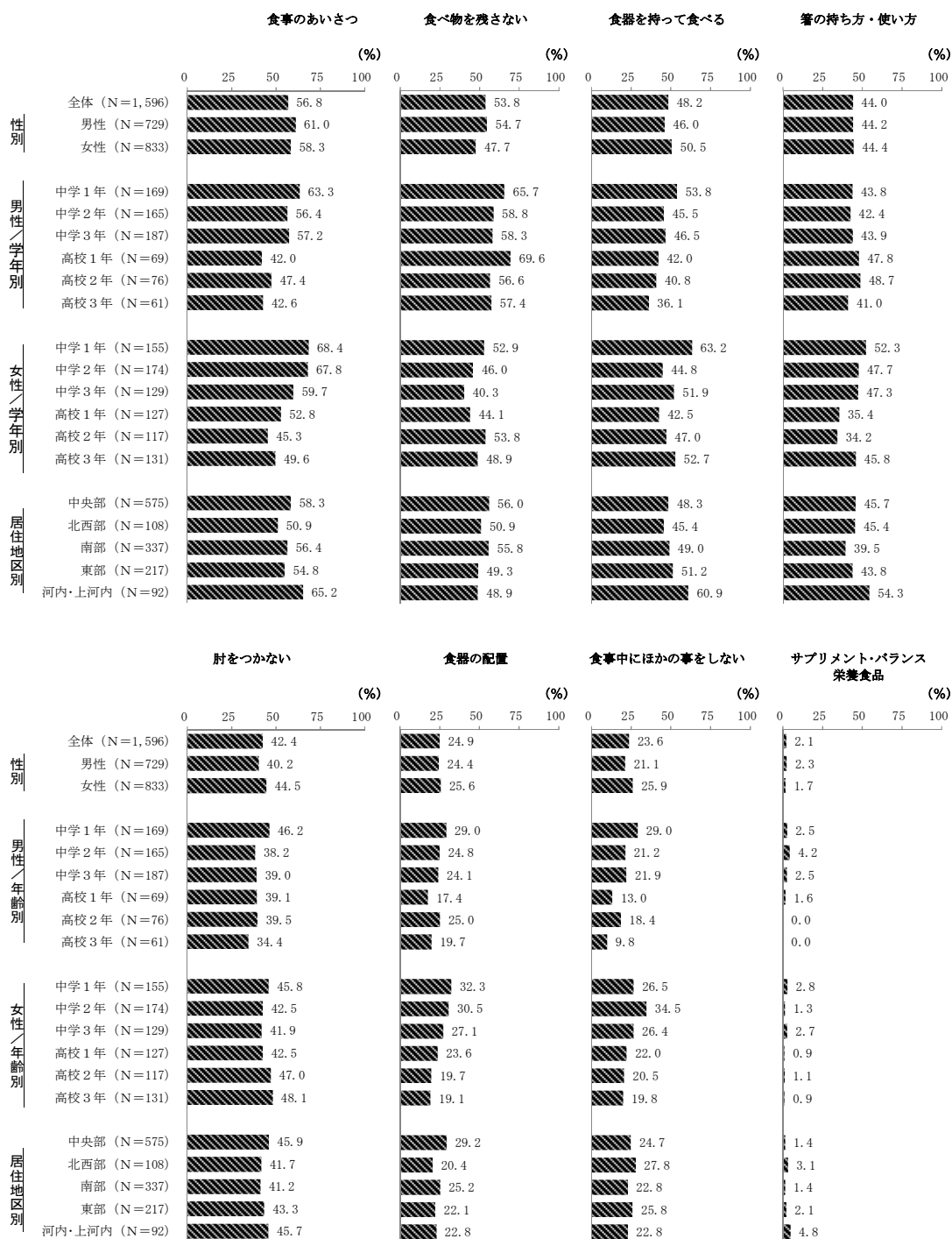
【性別／性・学年別／地区別】

性別で見ると、「食事のあいさつ」(61.0%)、「食べ物を残さない」(54.7%)で男性の方が高くなっており、「食器を持って食べる」(50.5%)、「肘をつかない」(44.5%)では女性の方が高くなっている。

性・学年別では、男女とも「食事のあいさつ」、「食器の配置」は高学年になるほど低くなっている。「食器を持って食べる」は、男女とも「中学1年」が高くなっており、女性「中学1年」(63.2%)は6割を超えている。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。(図表Ⅱ-1-28)

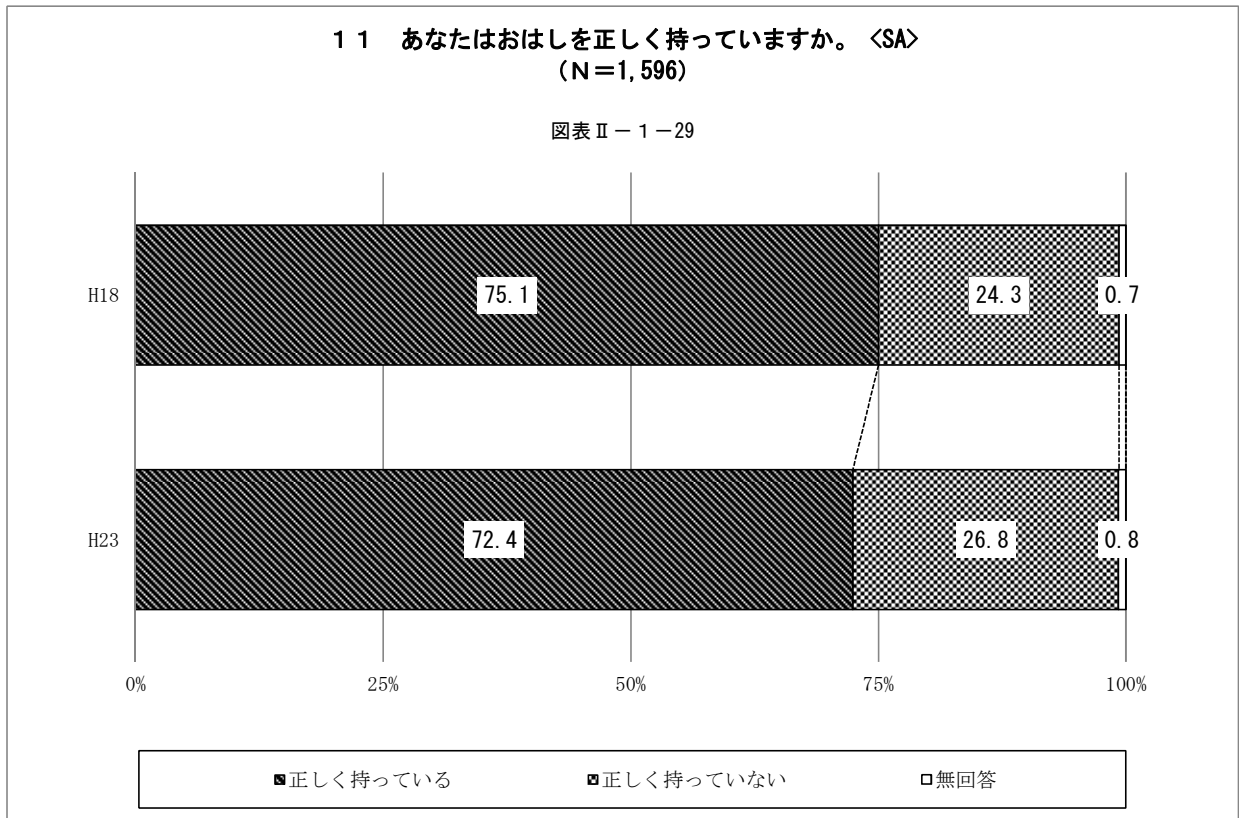
図表Ⅱ-1-28



(1.1) 箸の持ち方

1.1 あなたはおはしを正しく持っていますか。

◆「正しく持っている」が減少



箸の持ち方は、「正しく持っている」が72.4%と最も多くなっているが、平成18年度調査から2.7%減少している。逆に、「正しく持っていない」は26.8%で、2.5%増加している。(図表Ⅱ-1-29)

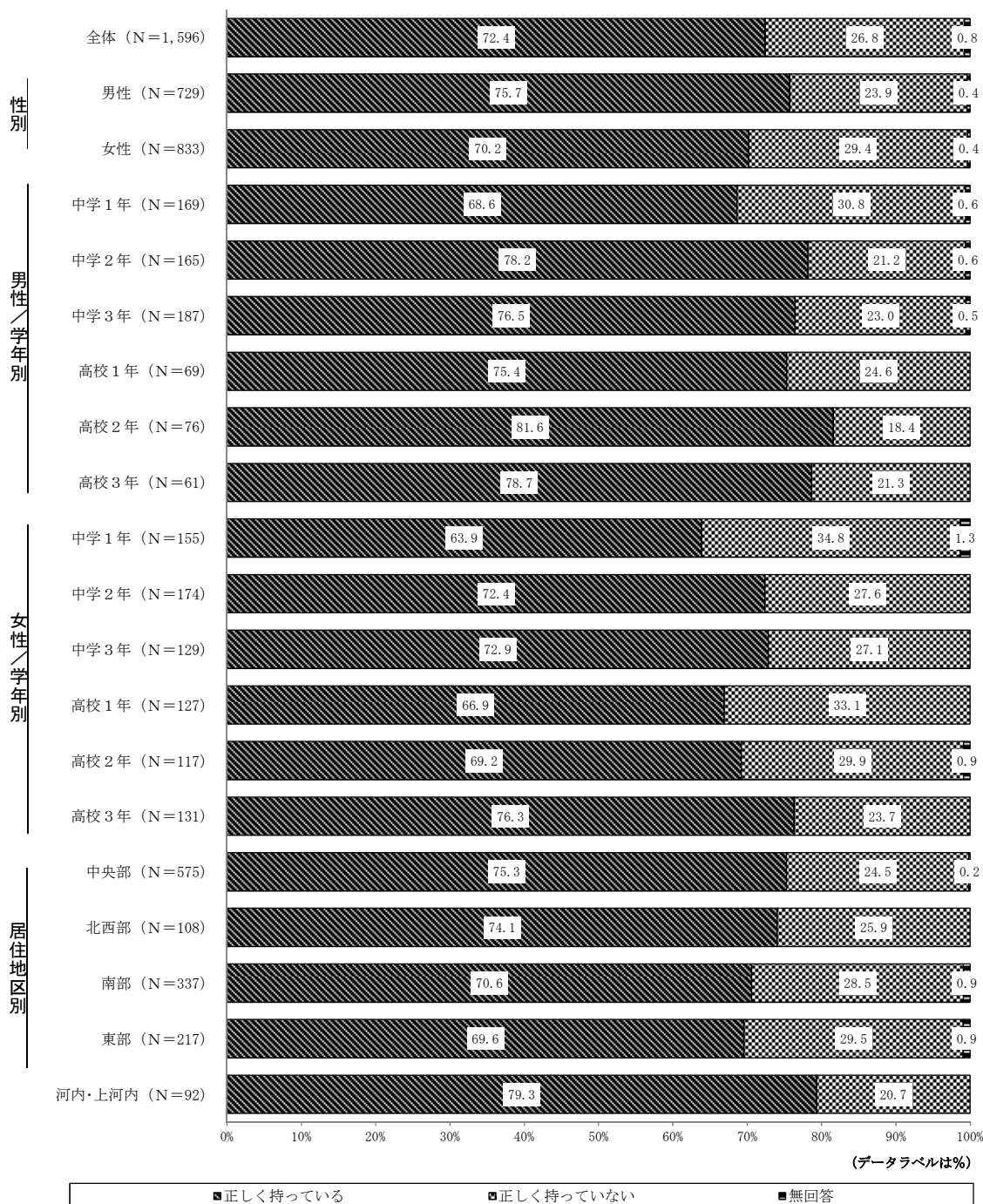
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、「正しく持っている」割合は、男性（75.7%）が女性（70.2%）よりも約5%高くなっている。

性・学年別では、男性「高校2年」が「正しく持っている」（81.6%）割合が8割以上となっている。「正しく持っていない」割合は、女性「中学1年」（34.8%）、女性「高校1年」（33.1%）、男性「中学1年」（30.8%）で、3割を超えている。

居住地区別では、「正しく持っている」割合は、各地区とも7割前後となっており、中でも「河内・上河内」（79.3%）では8割近くに上っている。（図表Ⅱ－1－30）

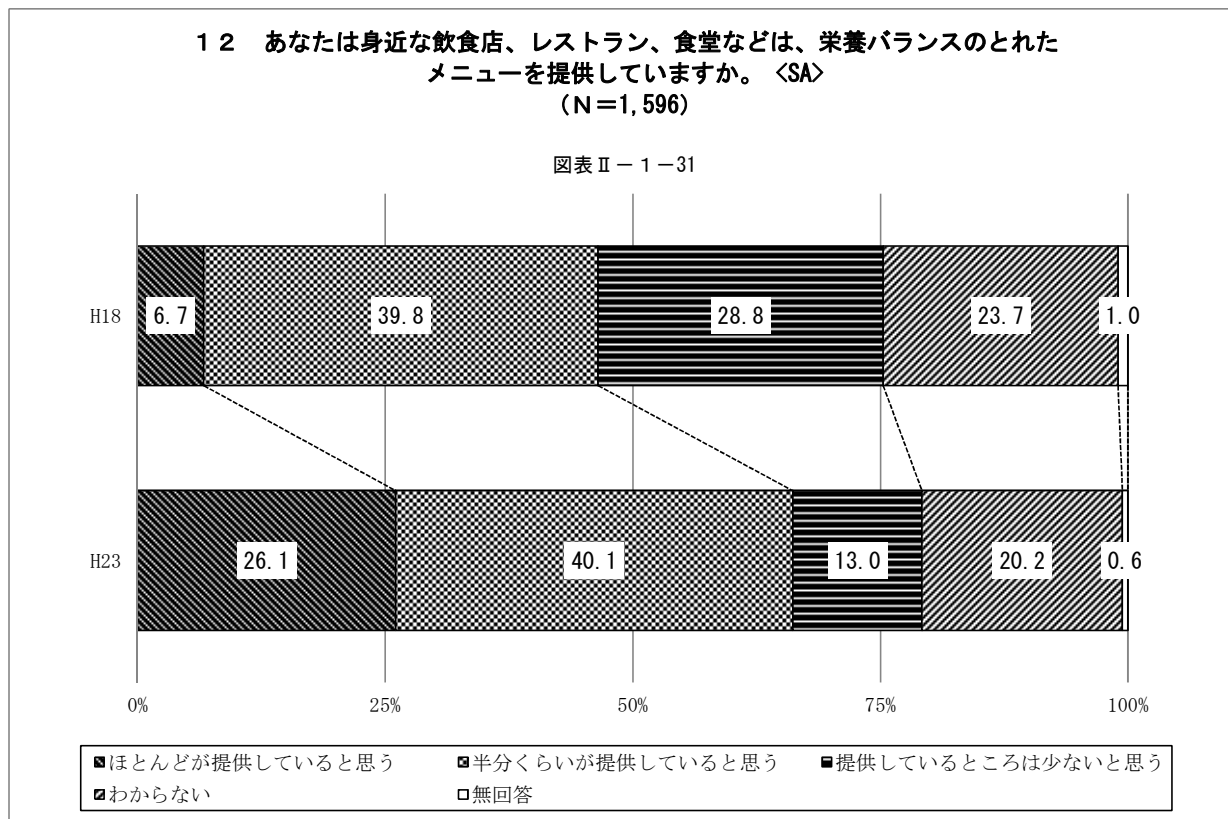
図表Ⅱ－1－30



(12) 外食の栄養バランス

12 あなたの身近な飲食店、レストラン、食堂などは、栄養バランスのとれたメニューを提供していると思いますか。

◆「ほとんどが提供していると思う」が約4倍、「提供しているところは少ないと思う」が半減



外食の場合、栄養バランスのとれたメニューを「半分くらいが提供していると思う」(40.1%)が4割で最も多くなっている。「ほとんどが提供していると思う」(26.1%)は、平成18年度調査では6.7%に留まっていたのに対し、今回調査では26.1%と、約4倍に増加している。逆に、「提供しているところは少ないと思う」は、平成18年度調査では28.8%であったが、今回調査では13.0%に半減している。(図表Ⅱ-1-31)

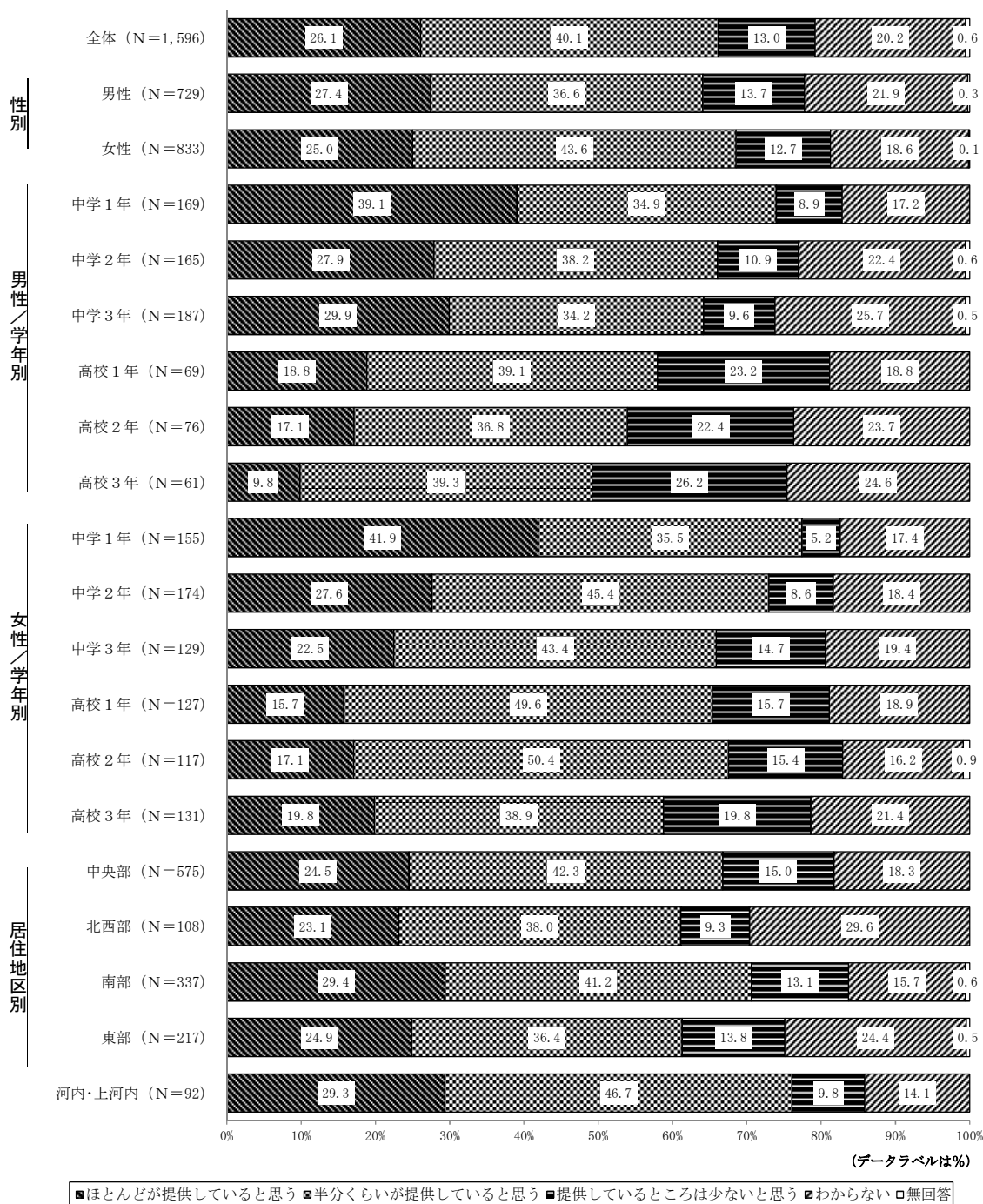
【性別／性・学年別／地区別】

性別で見ると、男女間で大きな差は見られない。

性・学年別で見ると、男性高校生は「ほとんどが提供していると思う」の割合が、学年が上がるに従って低くなっており、「提供しているところは少ないと思う」割合が増加している。女性では、「ほとんどが提供していると思う」割合は、高校生より中学生の方が高くなっている。

居住地区別では、「わからない」の割合が、「北西部」と「東部」で高くなっており、2割台となっている。(図表Ⅱ－1－32)

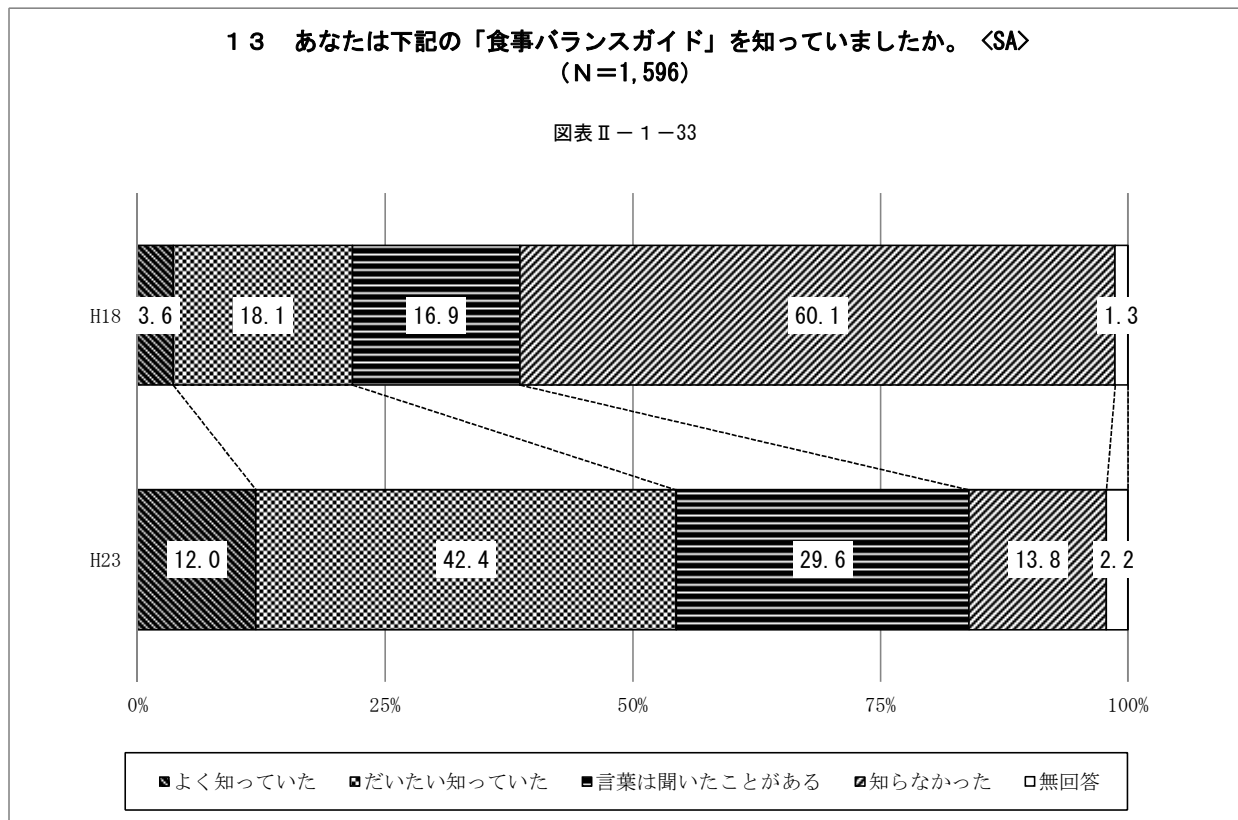
図表Ⅱ－1－32



(13) 食事バランスガイド認知度

13 あなたは下記の「食事バランスガイド」を知っていましたか。

◆「知っていた」が5割超



「食事バランスガイド」の認知度は、平成18年度調査では「知らなかった」(60.1%)が6割を占めていたのに対し、今回調査では、「知っていた」(「よく知っていた」と「だいたい知っていた」の合計)は54.4%と、逆転している。また、「言葉は聞いたことがある」(29.6%)についても、10%以上増加している。(図表Ⅱ-1-33)

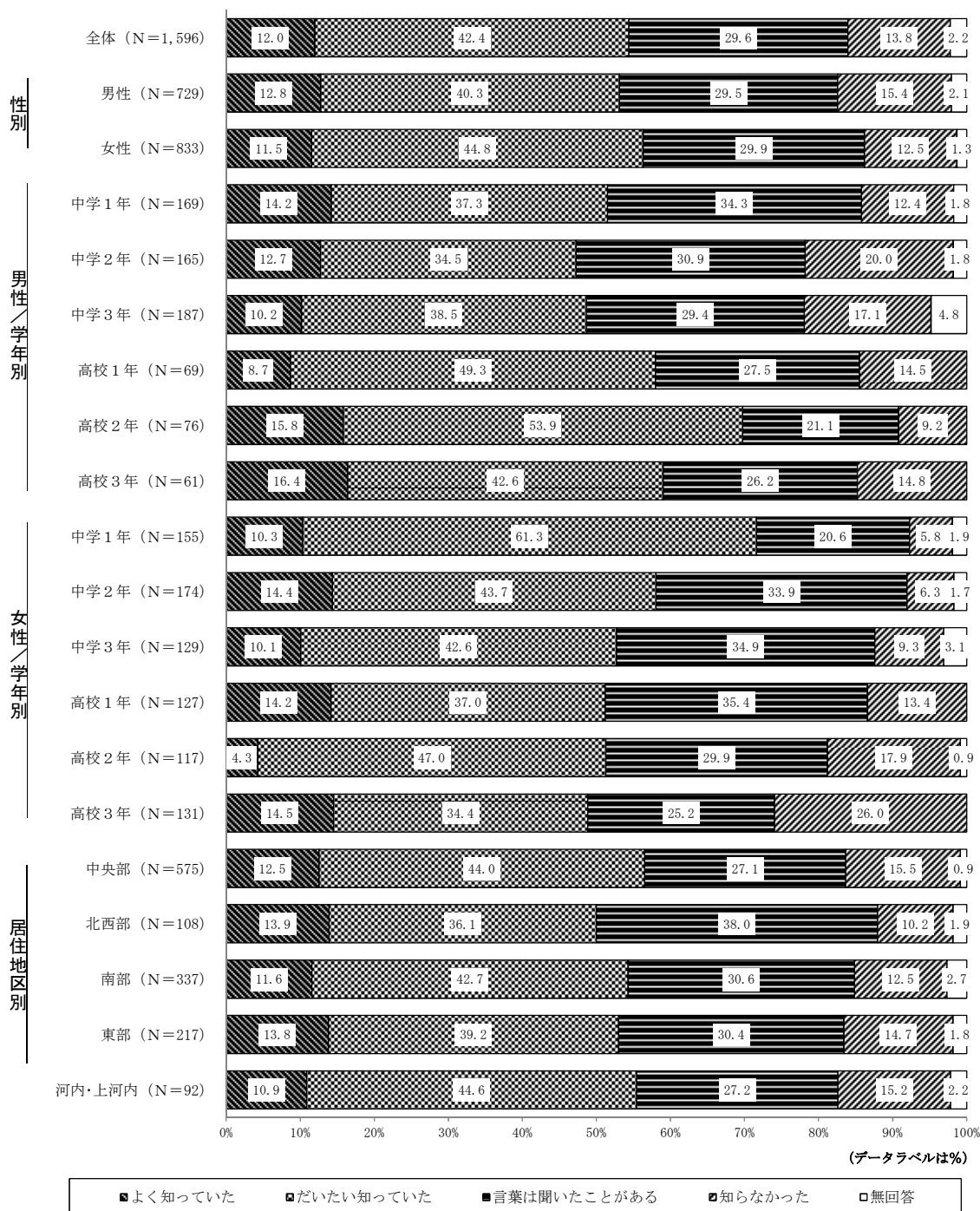
【性別／性・学年別／地区別】

性別では、男女間で大きな差は見られない。

性・学年別で見ると、女性「中学1年」で「知っていた」(71.6%) 割合が7割、男性「高校2年」(69.7%) 7割近くに上っている。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。(図表Ⅱ－1－34)

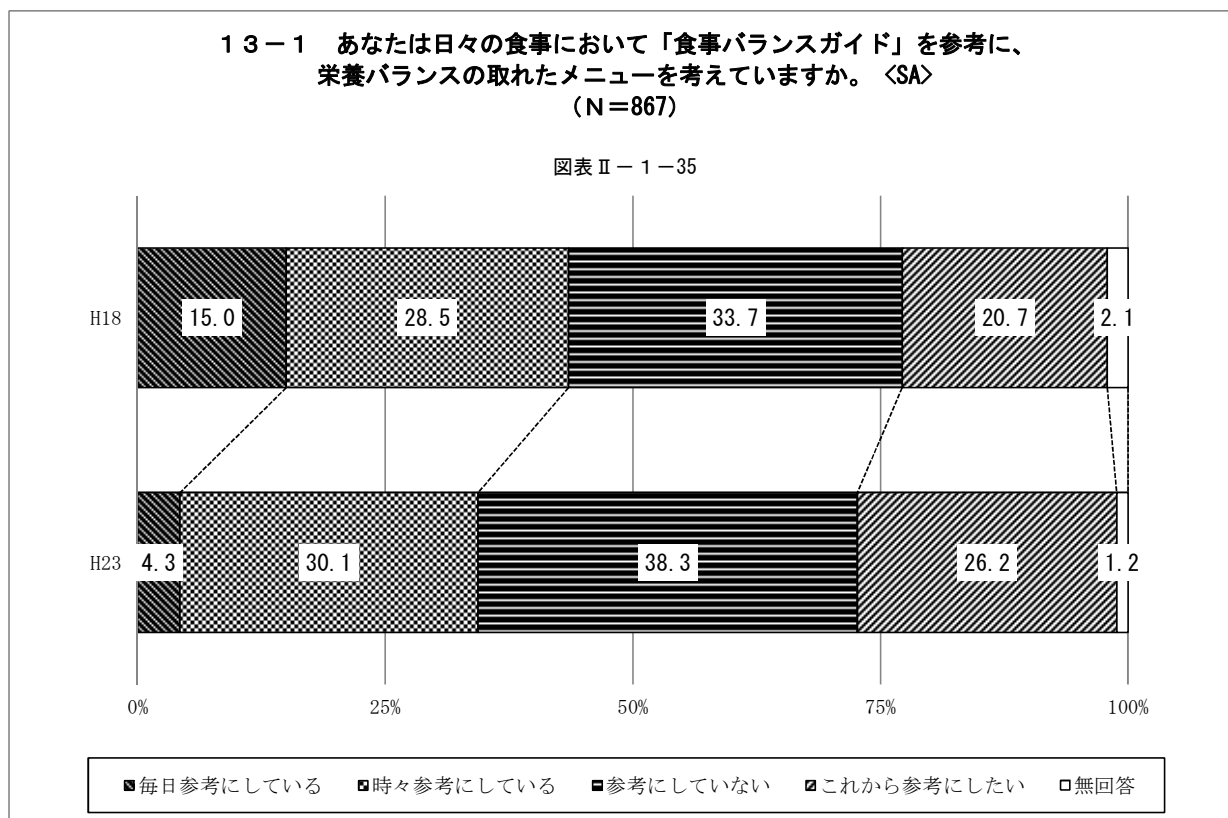
図表Ⅱ－1－34



(13-1) 食事バランスガイドの利用度

13-1 あなたは日々の食事において「食事バランスガイド」を参考に、栄養バランスのとれたメニューを考えていますか。

◆「参考にしていない」が約4割



前問で、「食事バランスガイド」を「知っていた」と答えた人に、ガイドの利用度を聞いたところ、「参考にしていない」(38.3%)が約4割を占め、平成18年度調査(33.7%)からは微増(4.6%)となっている。また、「これから参考にしたい」(26.2%)も同様に、平成18年度調査から5.5%増加している。

なお、平成18年度調査では、「毎日参考している」の次に、「毎日1食は参考している」という設問が入れられている。(図表Ⅱ-1-35)

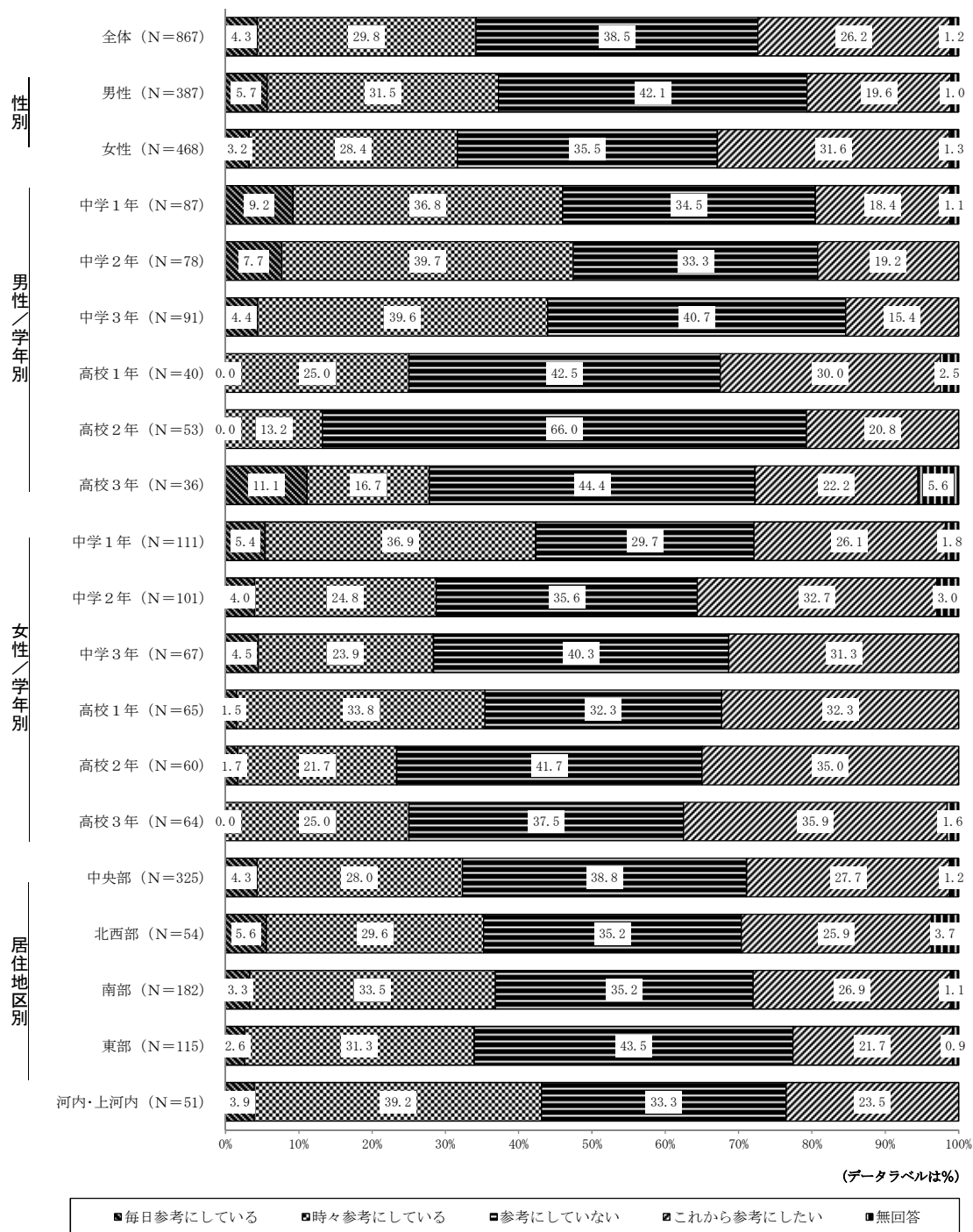
【性別／性・学年別／地区別】

性別で見ると、「参考にしていない」割合は、男性（42.1%）、女性（35.5%）で、男性の方が約7%高くなっている。また、女性では、「これから参考にしたい」（31.6%）が3割超となっている。

性・学年別では、男性「高校2年」で「参考にしていない」割合が66.0%に上っている。また、女性高校生では、「これから参考にしたい」が、学年が上がるに従い増加している。

居住地区では、地区間で大きな差は見られない。（図表Ⅱ－1－36）

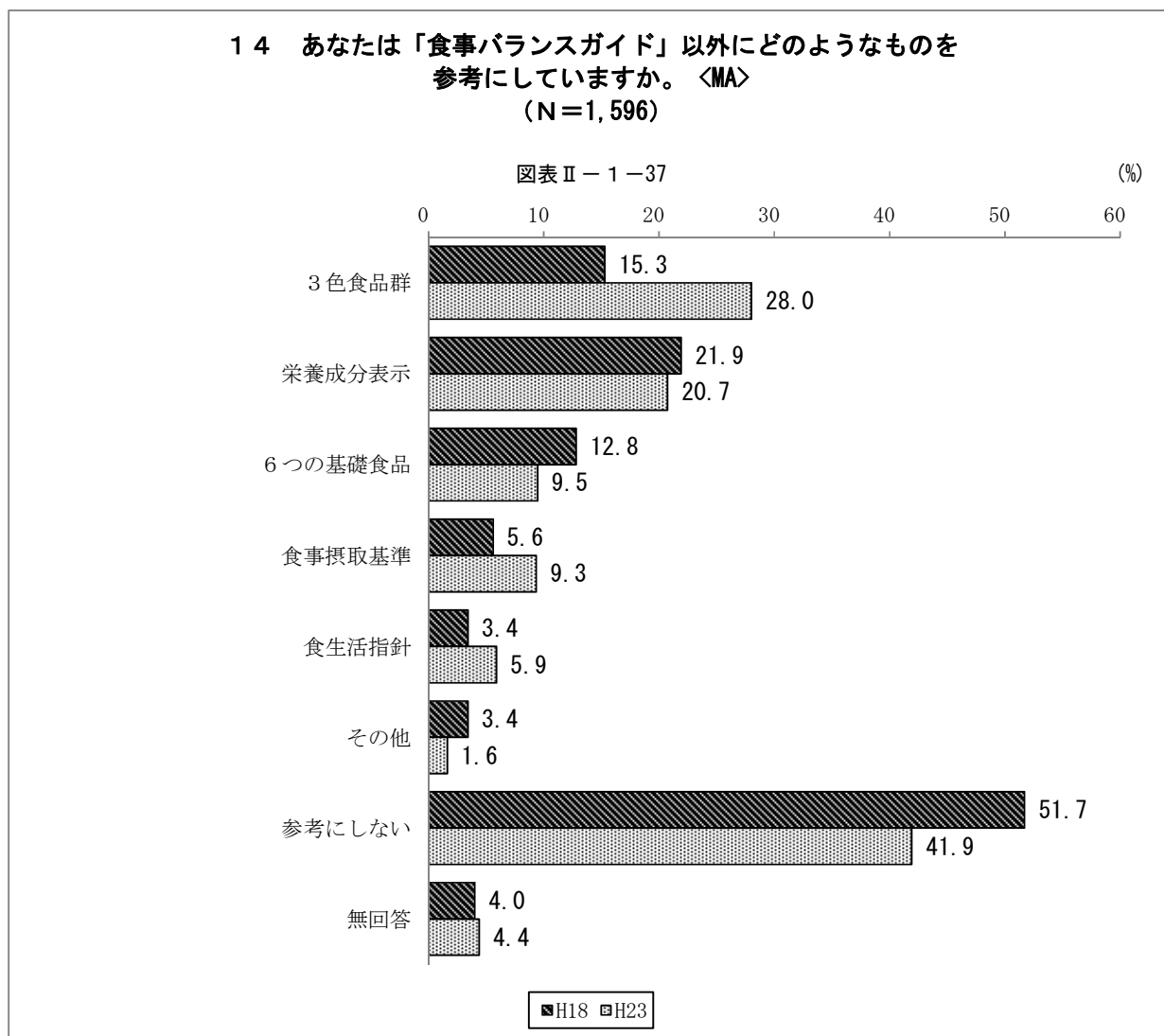
図表Ⅱ－1－36



(14) ガイド以外の参考

14 あなたは「食事バランスガイド」意外にどのようなものを参考にしていますか。

◆「参考にしない」が4割超



「食事バランスガイド」以外に参考にしているものは、約4割が「参考にしない」(41.9%)と回答している。参考にしているものの中では、「3色食品群」(28.0%)が最も高く、平成18年度調査から、約1.8倍増加している。(図表Ⅱ-1-37)

【性別／性・学年別／地区別】

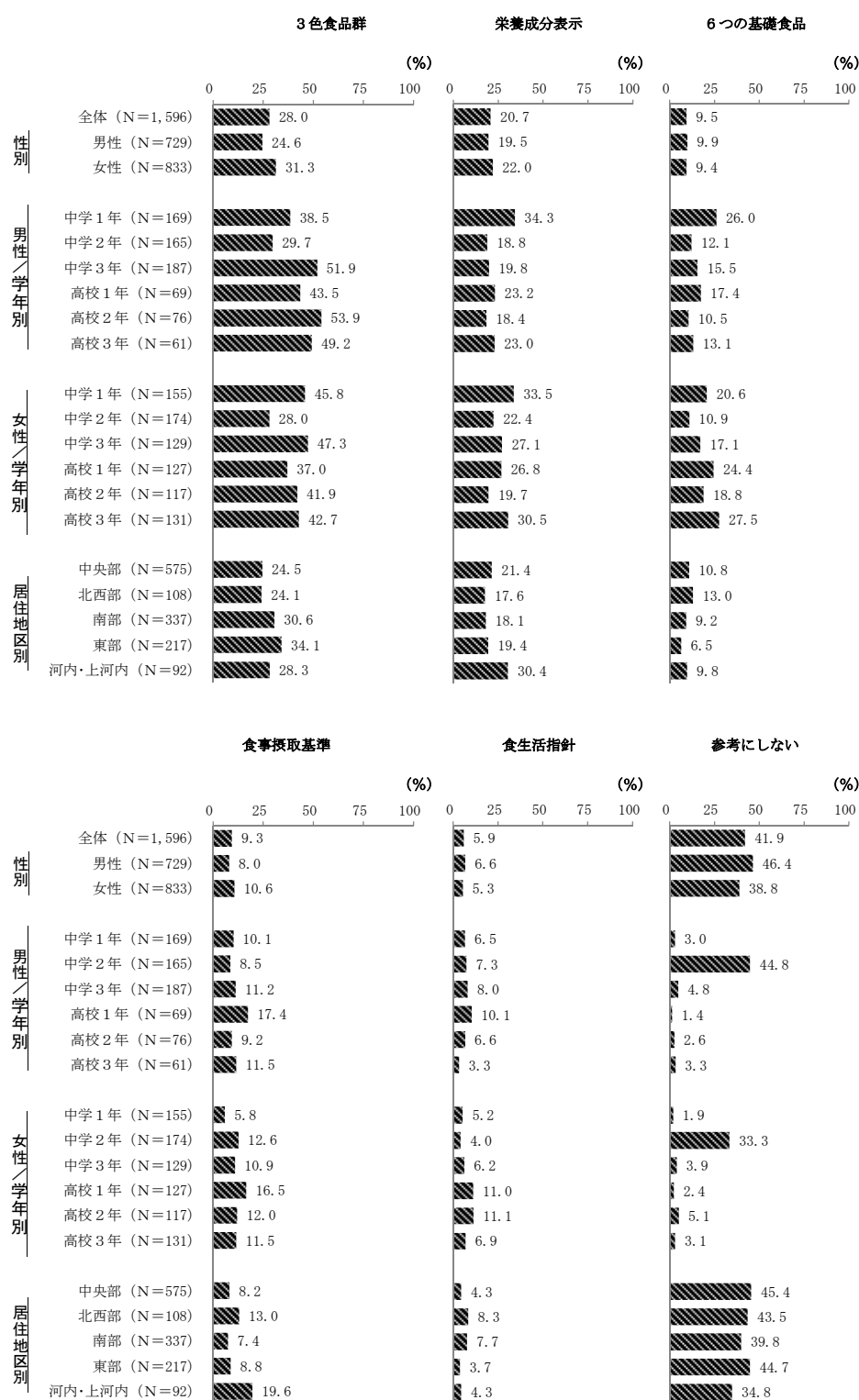
性別で見ると、「参考にしない」は女性（38.8%）よりも男性（46.4%）で高くなっている。

性・学年別では、「3色食品群」は、男性「中学3年」、男性「高校2年」で5割を超えている。

「参考にしない」は、男女とも「中学2年」が突出している。

居住地区別では、「河内・上河内」で、「栄養成分表示」（30.4%）、「食事摂取基準」（19.6%）が高くなっている。（図表Ⅱ－1－38）

図表Ⅱ－1－38

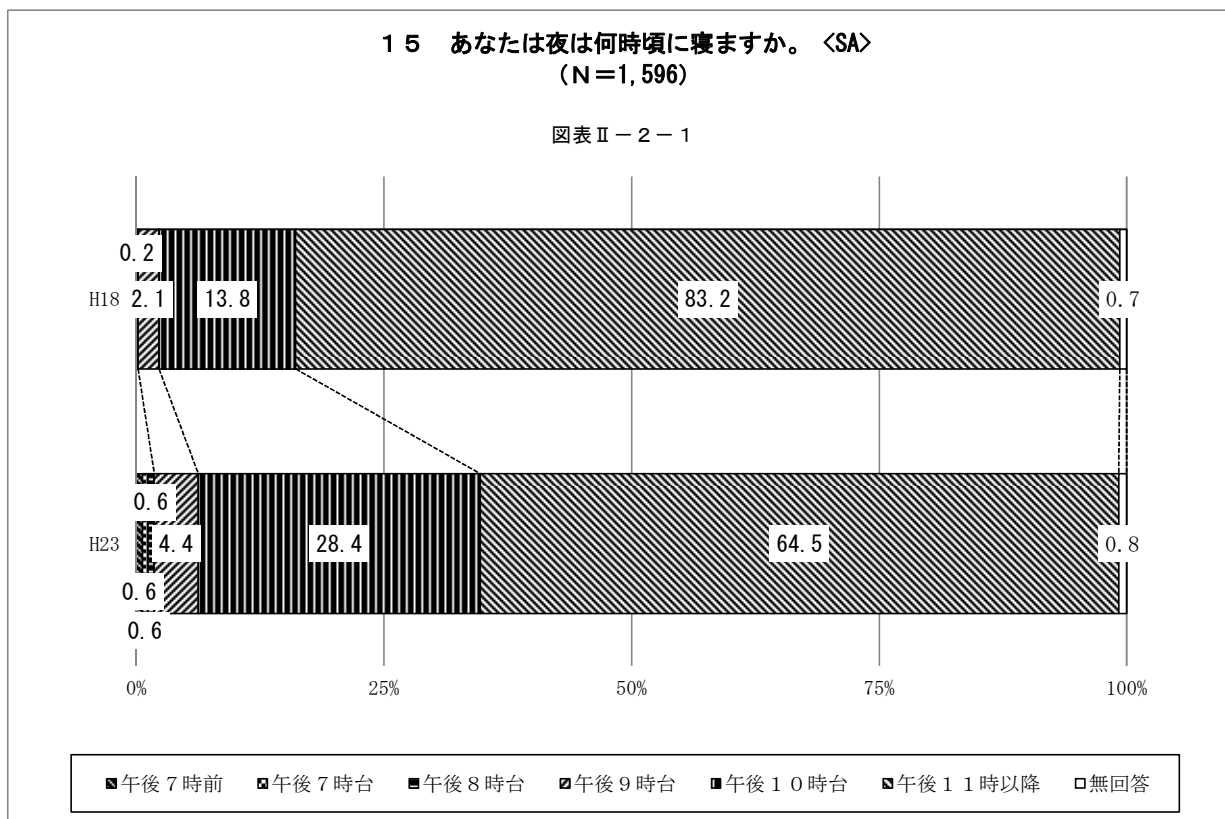


II 生活や体格について

(1) 就寝時刻

15 あなたは夜は何時頃に寝ますか。

◆「午後10時台」が倍増



就寝時刻は、平成18年度調査では「午後11時台」(83.2%)が8割を超えていたのに対し、今回調査では最も回答数が多い(64.5%)ものの、約20%減少している。逆に、「午後10時台」(28.4%)が、2倍以上の増加となっている。(図表Ⅱ-2-1)

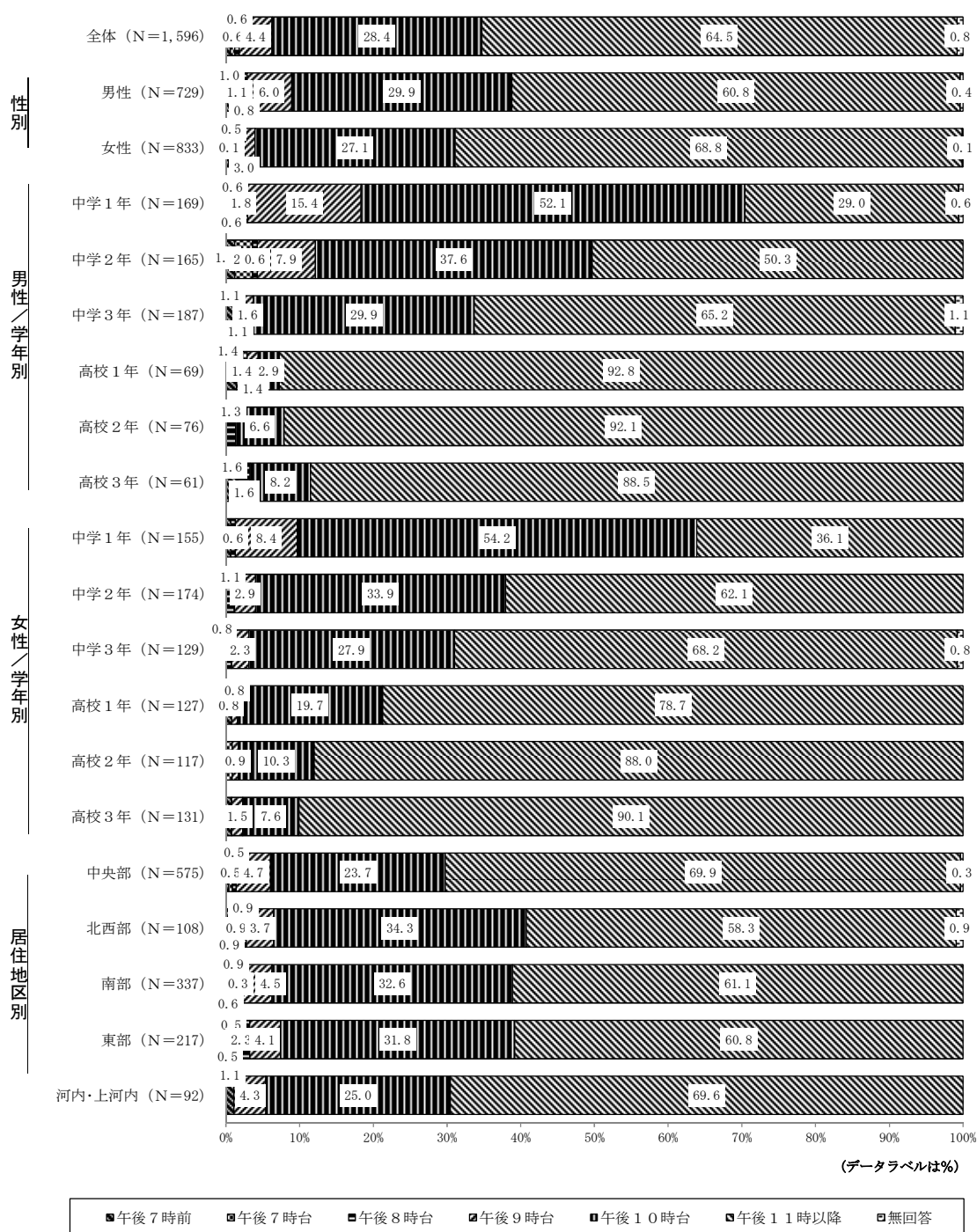
【性別／性・学年別／地区別】

性別で見ると、「午後 1 1 時以降」は、女性（68.8%）が男性（60.8%）よりも 8%高くなっている。

性・学年別では、男女とも中学生は学年が上がるに従い、「夜 1 1 時以降」の割合が増加する。高校生では、男女とも「夜 1 1 時以降」が約 8 割から 9 割を占めている。

居住地区別では、「中央部」（69.9%）と「河内・上河内」（69.6%）で、「夜 1 1 時以降」が約 7 割を占めている。（図表Ⅱ－2－2）

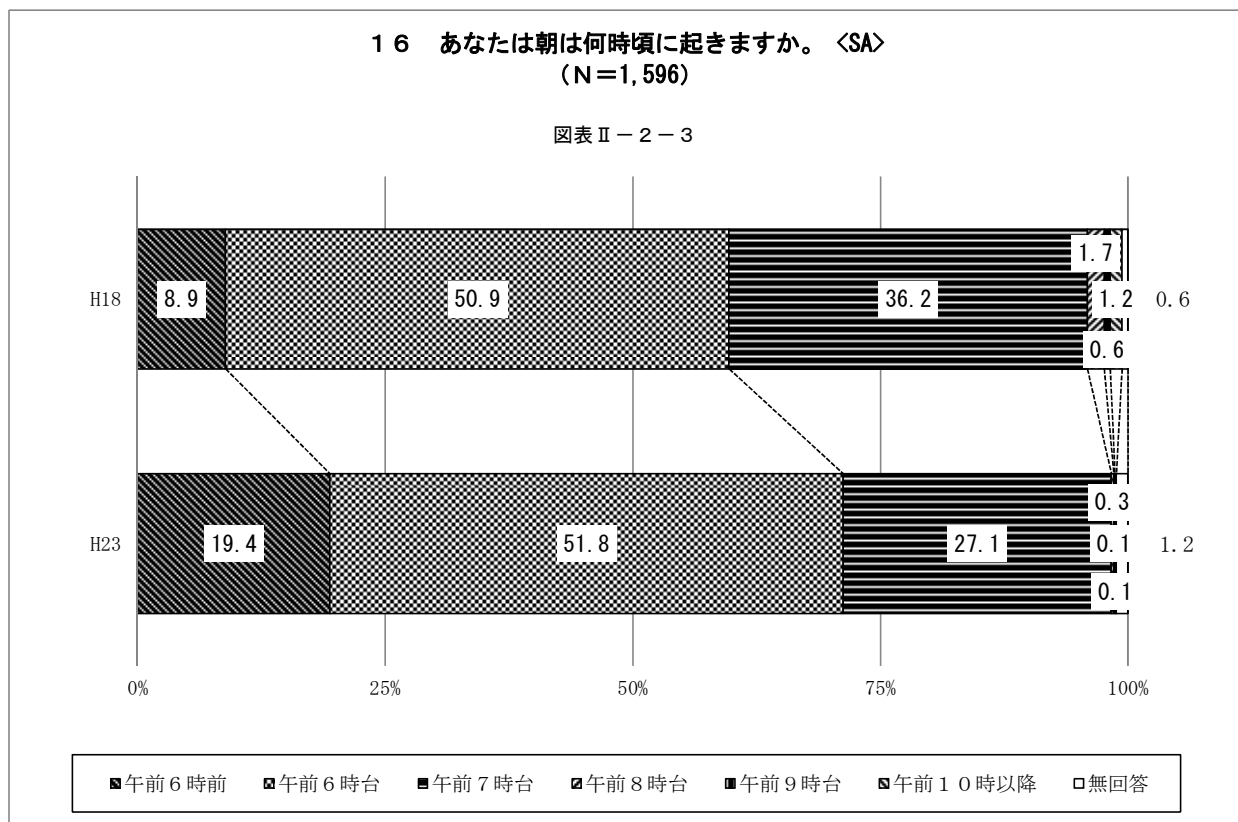
図表Ⅱ－2－2



(2) 起床時刻

16 あなたは朝は何時頃に起きますか。

◆「午前6時台」が過半数



起床時刻は、「午前6時台」(51.8%)が5割を超えている。また、「午前6時前」(19.4%)は、平成18年度調査では8.9%に留まっていたのに対し、今回調査では、19.4%と倍以上に増加している。逆に、「午前7時台」(27.1%)が、36.2%から27.1%と、約9%減少している。(図表Ⅱ-2-3)

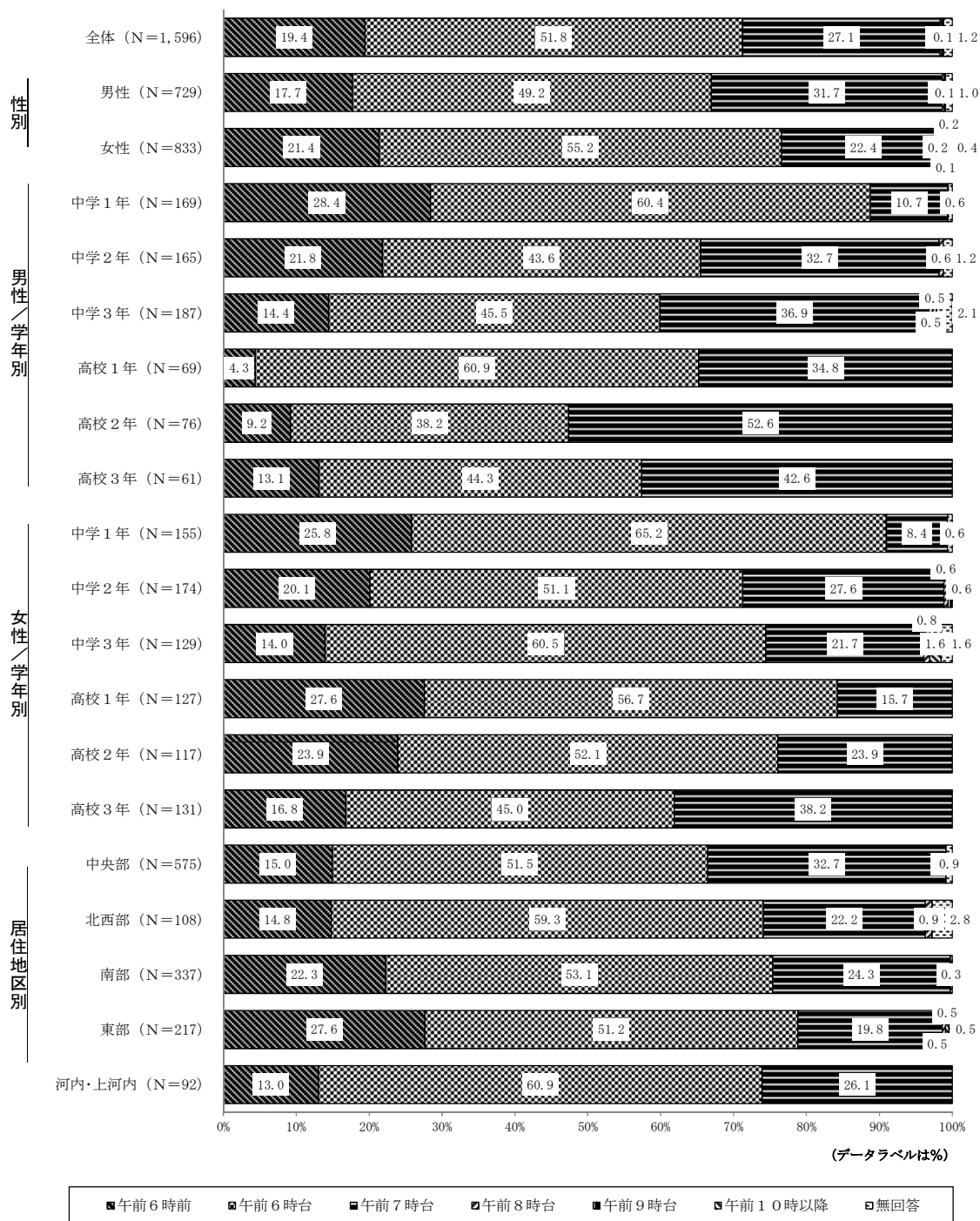
【性別／性・学年別／地区別】

性別で見ると、「午前6時台」は、女性（55.2%）が5割を占め、男性（49.2%）も約5割となっている。また、男性（31.7%）は、「午前7時台」が約3割を占めている。

性・学年別では、男女とも「中学1年」では「朝6時台」が6割以上を占めているが、学年が上がるに従い「午前7時台」が増加する。高校生では、男子「高校2年」で、「朝7時台」（52.6%）が5割以上を占めている。

居住地区別では、「中央部」で「朝7時台」（32.7%）が3割以上となっており、「河内・上河内」では「朝6時台」が6割以上を占めている。（図表Ⅱ-2-4）

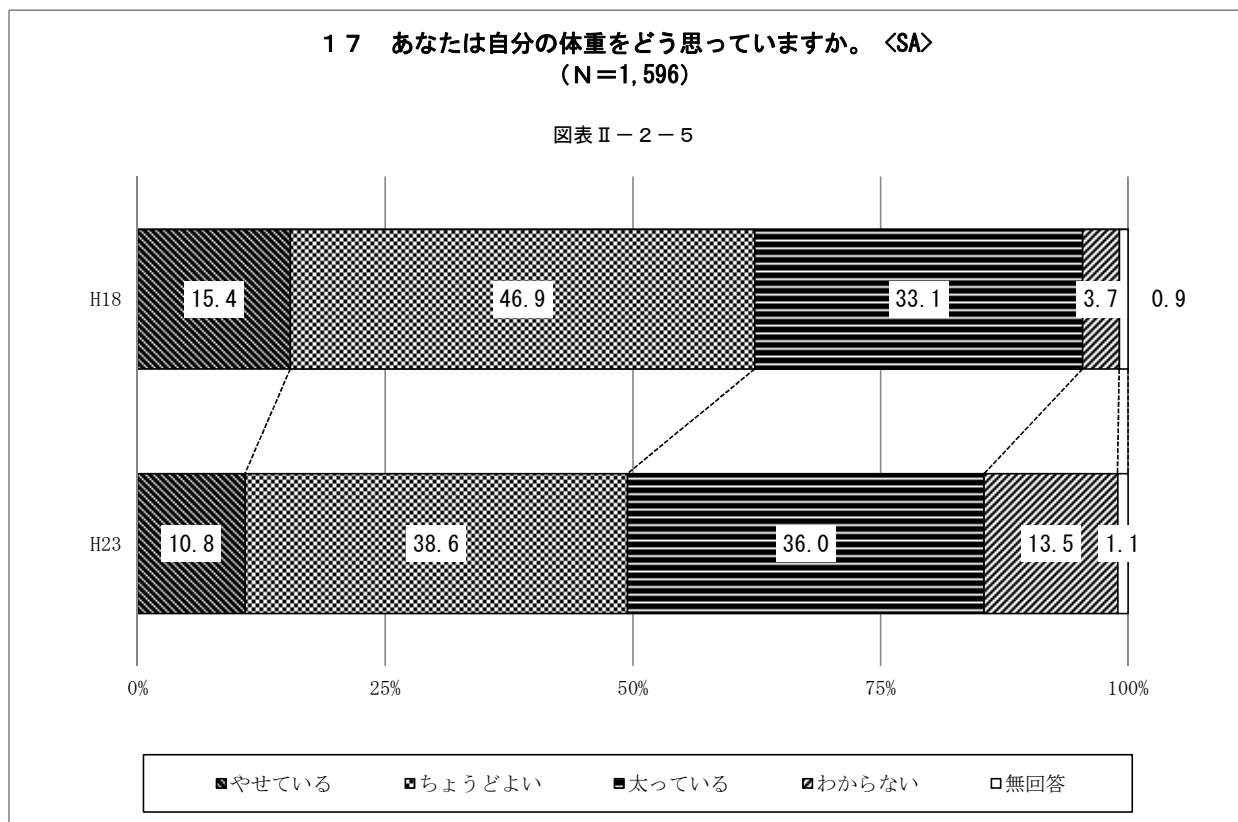
図表Ⅱ-2-4



(3) 自分の体重の現状

17 あなたは自分の体重をどう思っていますか。

◆3人に1人が「太っている」



自分の体重をどう思っているかは、「ちょうどよい」(38.6%)が4割近くを占めているが、平成18年度調査では半数近く(46.9%)を占めていたのに対し、約8%減少している。また、「やせている」も、平成18年度調査では15.4%であったのに対し、10.8%に減少している。逆に、「太っている」(36.0%)は、平成18年度調査では33.1%であったのに対し、36.0%と、約3%増加している。(図表Ⅱ-2-5)

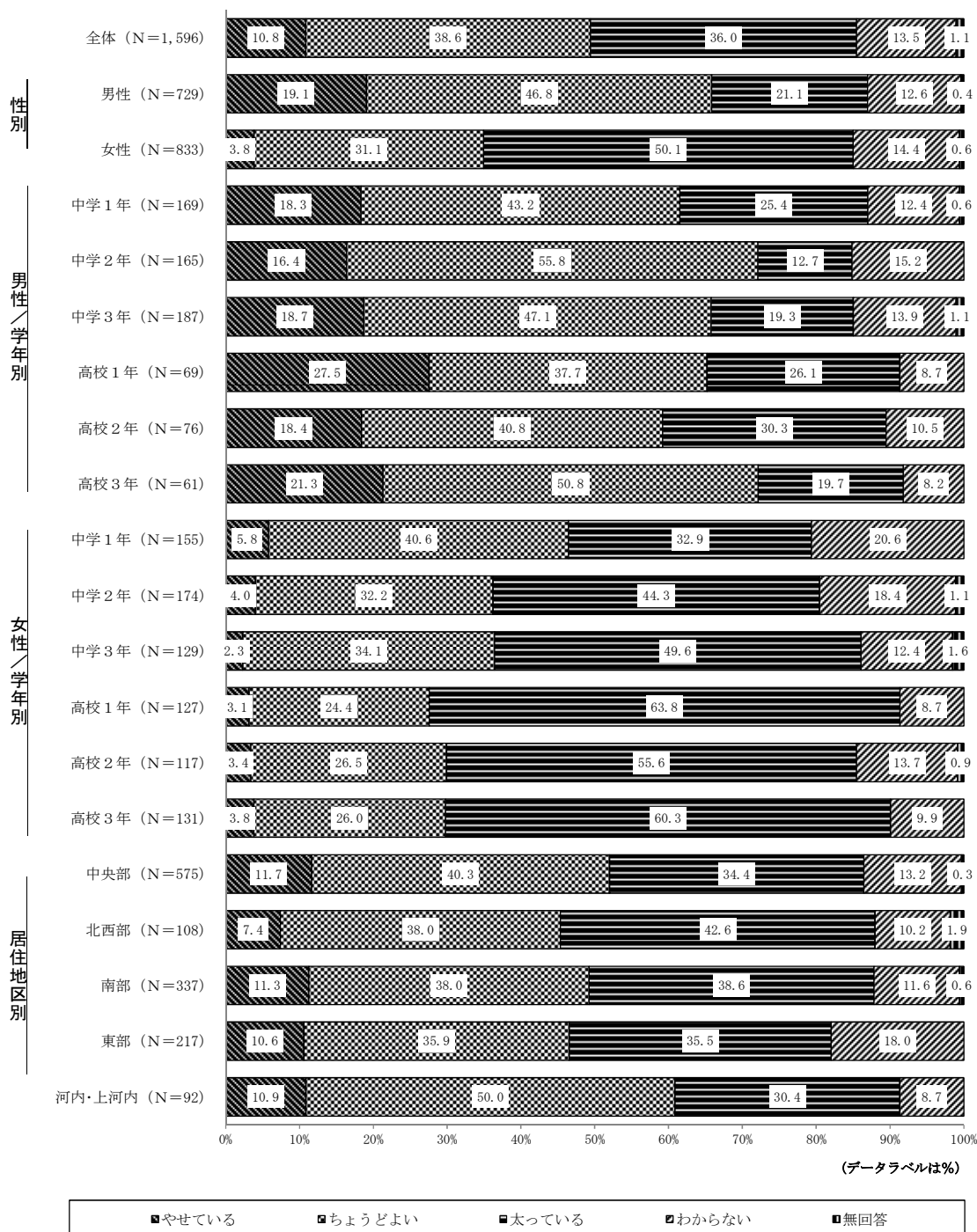
【性別／性・学年別／地区別】

性別で見ると、男性は「やせている」(19.1%)と「太っている」(21.1%)がほぼ同率だが、女性は「太っている」(50.1%)が「やせている」(3.8%)を大幅に上回っている。

性・学年別も同様に、男性では全学年で「やせている」と「太っている」が近い値であるのに対し、女性は、「太っている」が大幅に上回っている。特に高校生でその傾向は顕著で、5割台半ばから6割以上となっている。

居住地区別では、全地区で「太っている」が3割から4割以上となっている。「河内・上河内」では、「ちょうどよい」が50.0%となっている。(図表Ⅱ-2-6)

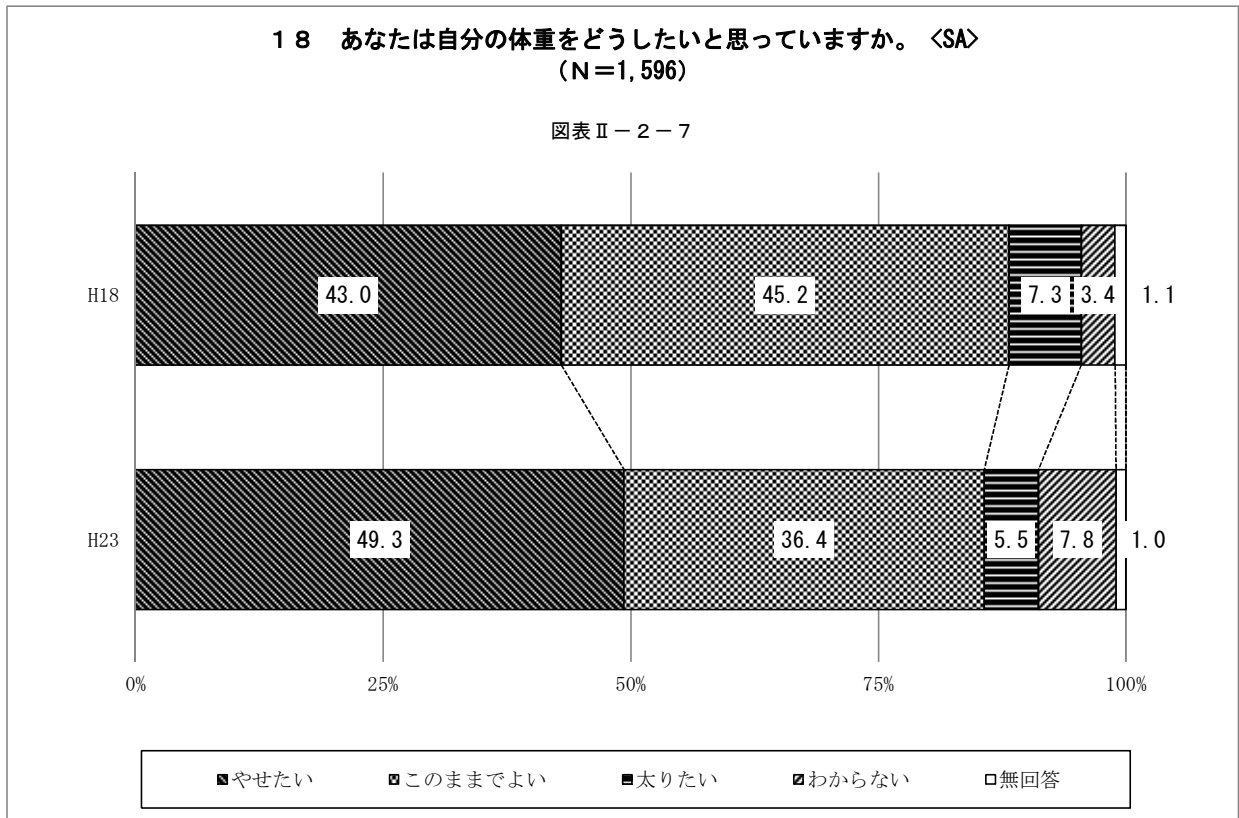
図表Ⅱ-2-6



(4) 自分の体重について

18 あなたは自分の体重をどうしたいと思っていますか。

◆約半数が「やせたい」



自分の体重をどうしたいかは、平成18年度調査では「このままでよい」(45.2%)が最も高かったが、今回調査では「やせたい」(49.3%)が半数近くを占めている。「このままでよい」(36.4%)、「太りたい」(5.5%)は、いずれも微減となっている。(図表Ⅱ-2-7)

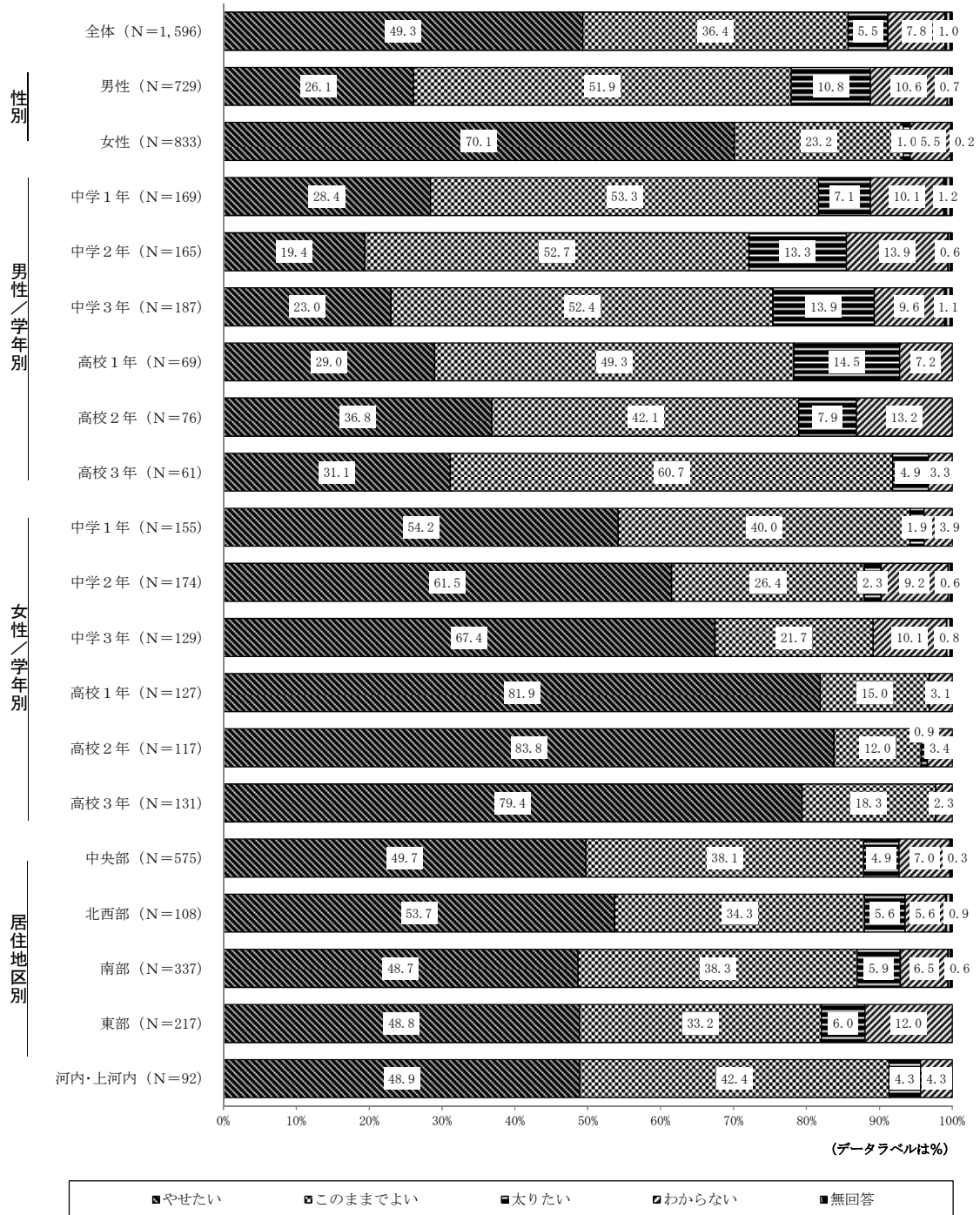
【性別／年齢別／地区別】

性別で見ると、「やせたい」は女性（70.1%）では7割以上を占め、男性（26.1%）を大幅に上回っている。

性・学年別で見ると、男性「高校2年」（36.8%）、男性「高校3年」（31.1%）で「やせたい」が3割台となっているが、他の学年は約2割台となっている。女性は、高学年になるほど「やせたい」が高くなる傾向にある。

居住地区別では、「北西部」で「やせたい」（53.7%）が5割を超えているものの、「やせたい」と「このままでよい」がほぼ同数となっている。（図表Ⅱ－2－8）

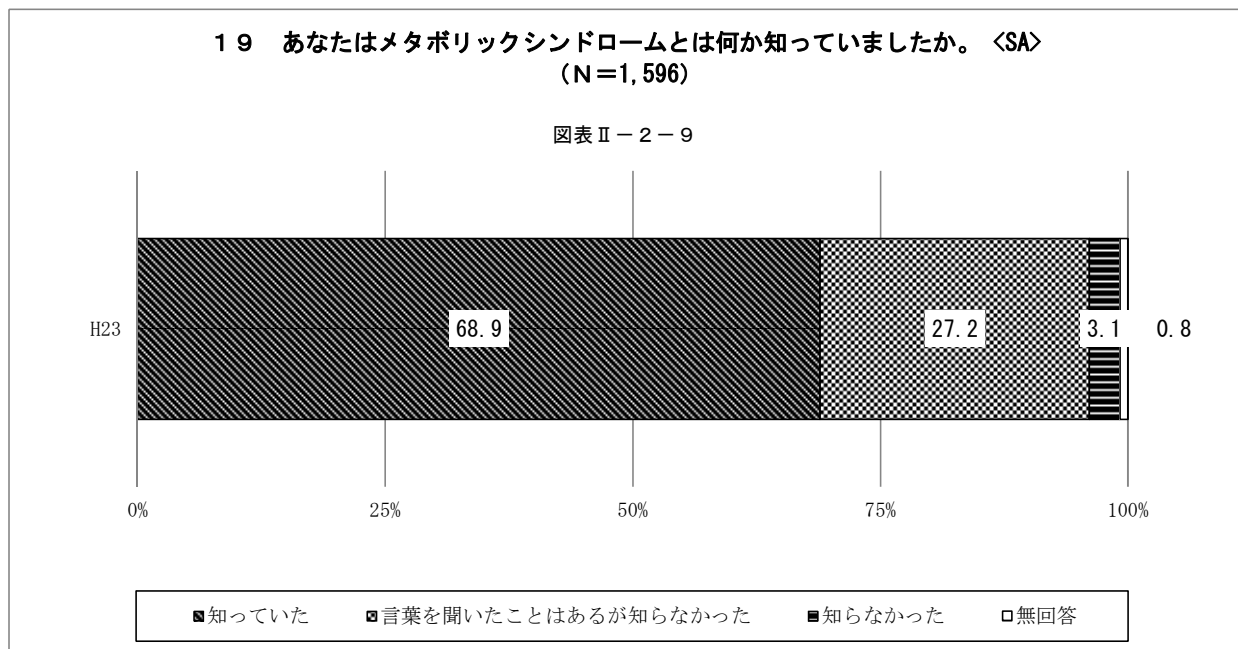
図表Ⅱ－2－8



(5) メタボリックシンドロームの認知度

19 あなたはメタボリックシンドロームとは何か知っていましたか。

◆「知っていた」が約7割



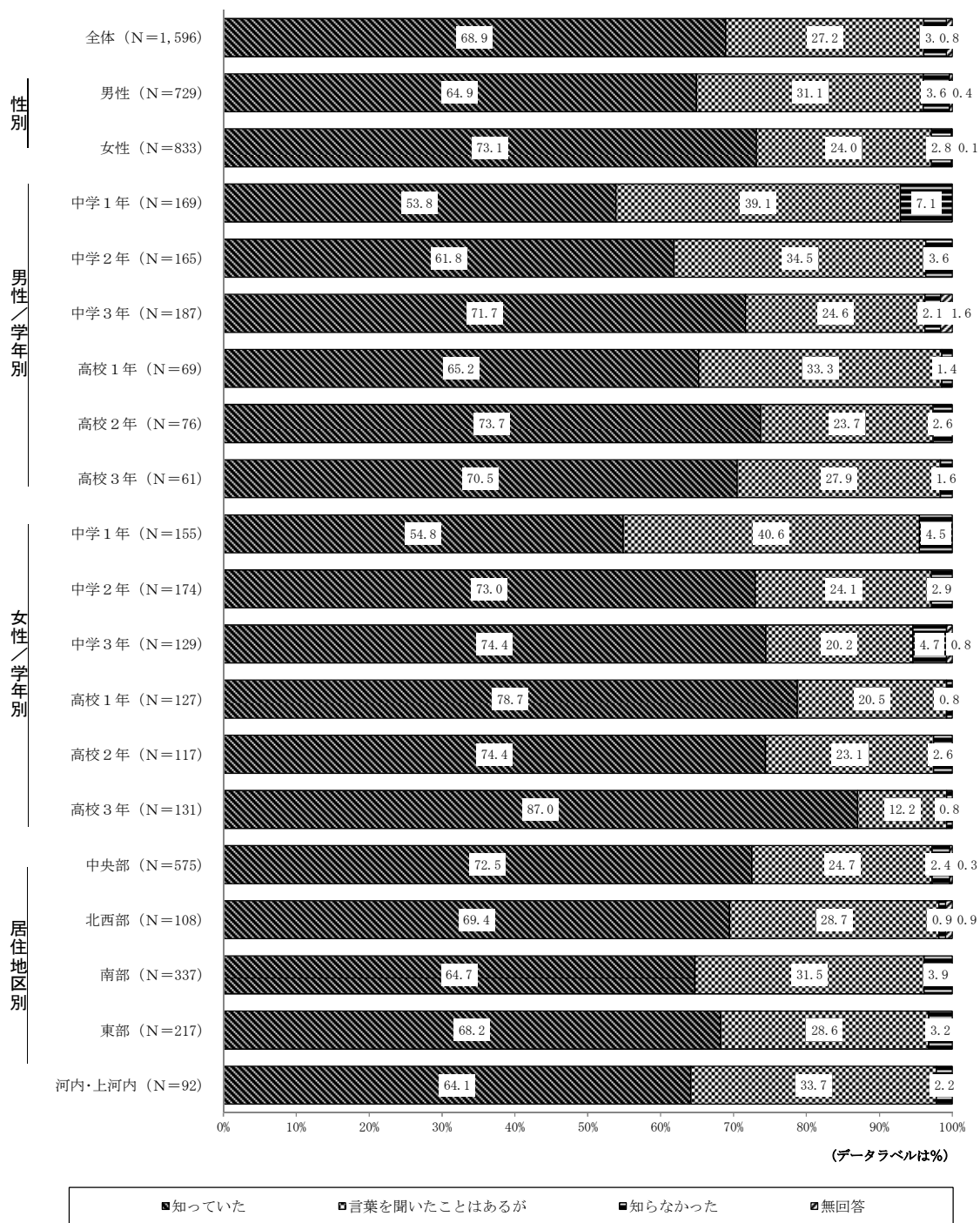
メタボリックシンドロームの認知度は、「知っていた」(68.9%)が約7割を占め、「言葉を聞いたことがあるが知らなかった」(27.2%)は2割台後半で、「知らなかった」は3.1%に留まっている。(図表Ⅱ-2-9)

【性別／性・学年別／地区別】

性別で見ると、「知っていた」は、女性（73.1%）が男性（64.9%）よりも約8%高くなっている。性・学年別で見ると、男女ともほぼ同率となっているが、女性「高校3年」では、「知っていた」（87.0%）が8割以上となっている。

居住地区別では、「中央部」で「知っていた」（72.5%）が7割を超えているが、地区間で大きな差は見られない。（図表Ⅱ－2－10）

図表Ⅱ－2－10

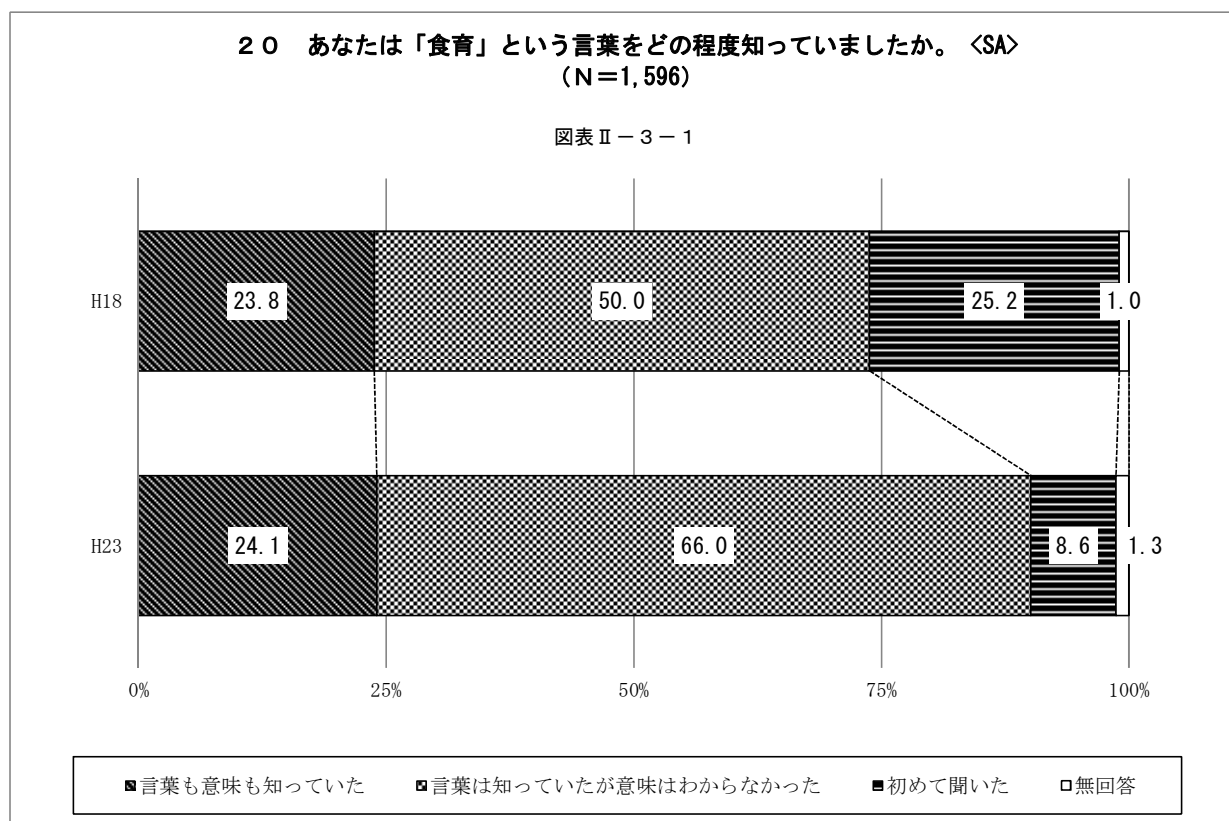


Ⅲ 食育について

(1) 食育の認知度

20 あなたは「食育」という言葉をどの程度知っていましたか。

◆「知っていた」が9割



「食育」という言葉をどの程度知っているか聞いたところ、「知っていた」（「言葉も意味も知っていた」と「言葉は知っていたが意味はわからなかった」の合計）が90.1%を占め、平成18年度調査（73.8%）から、20%近く増加している。「初めて聞いた」（8.6%）は、平成18年度調査では25.2%であったのに対し、8.6%と15%以上減少している。（図表Ⅱ-3-1）

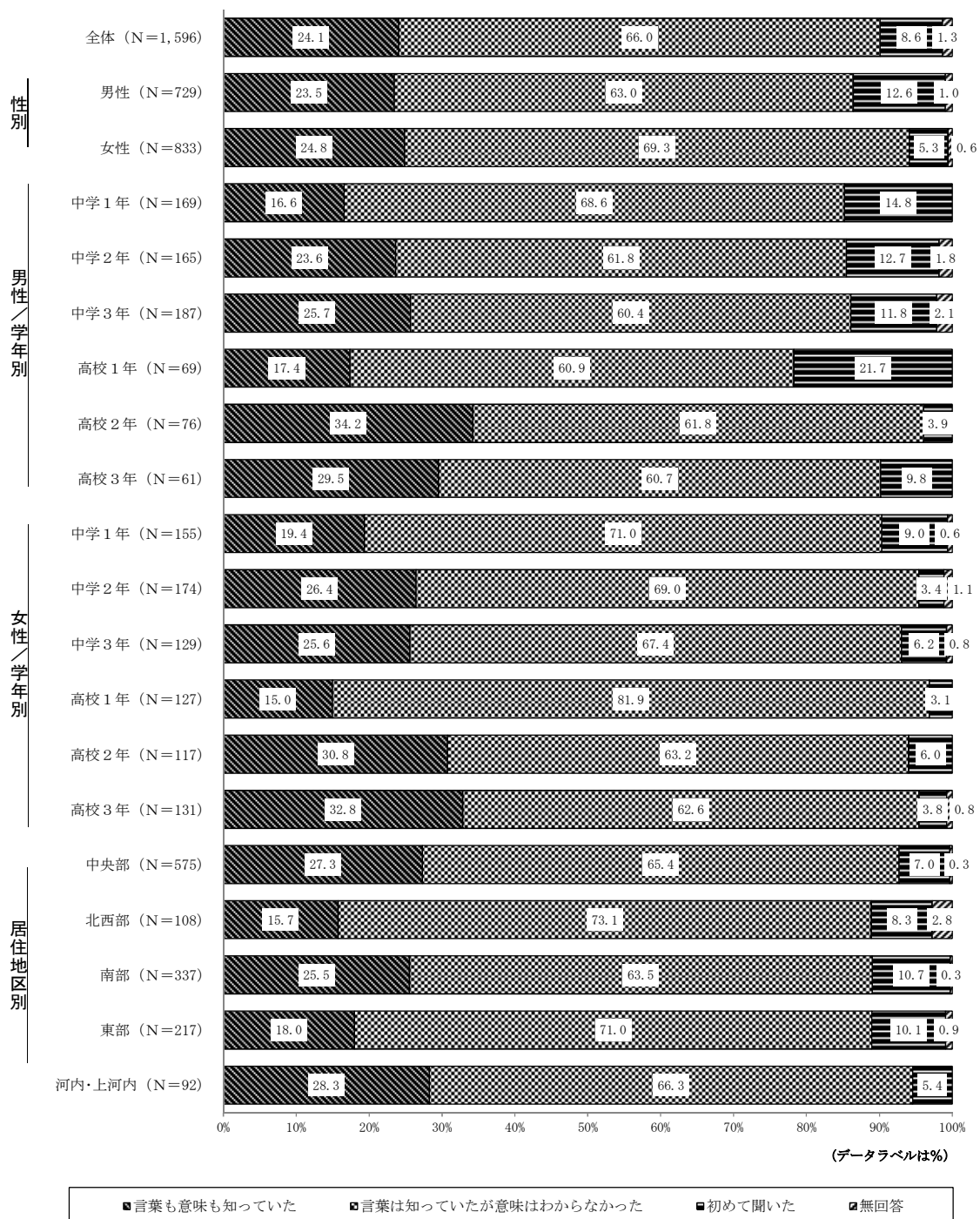
【性別／性・学年別／地区別】

性別で見ると、男女間で大きな差は見られない。

性・学年別では、男女とも「高校2年」、「高校3年」で「言葉も意味も知っていた」割合が高く、3割を超えている。また、男性「高校1年」では、「初めて聞いた」(21.7%)が2割以上となっている。

居住地区別では、「北西部」と「東部」で「言葉も意味も知っていた」の割合が2割以下となっている。また、「南部」と「東部」では、「初めて聞いた」が1割程度となっている。(図表Ⅱ-3-2)

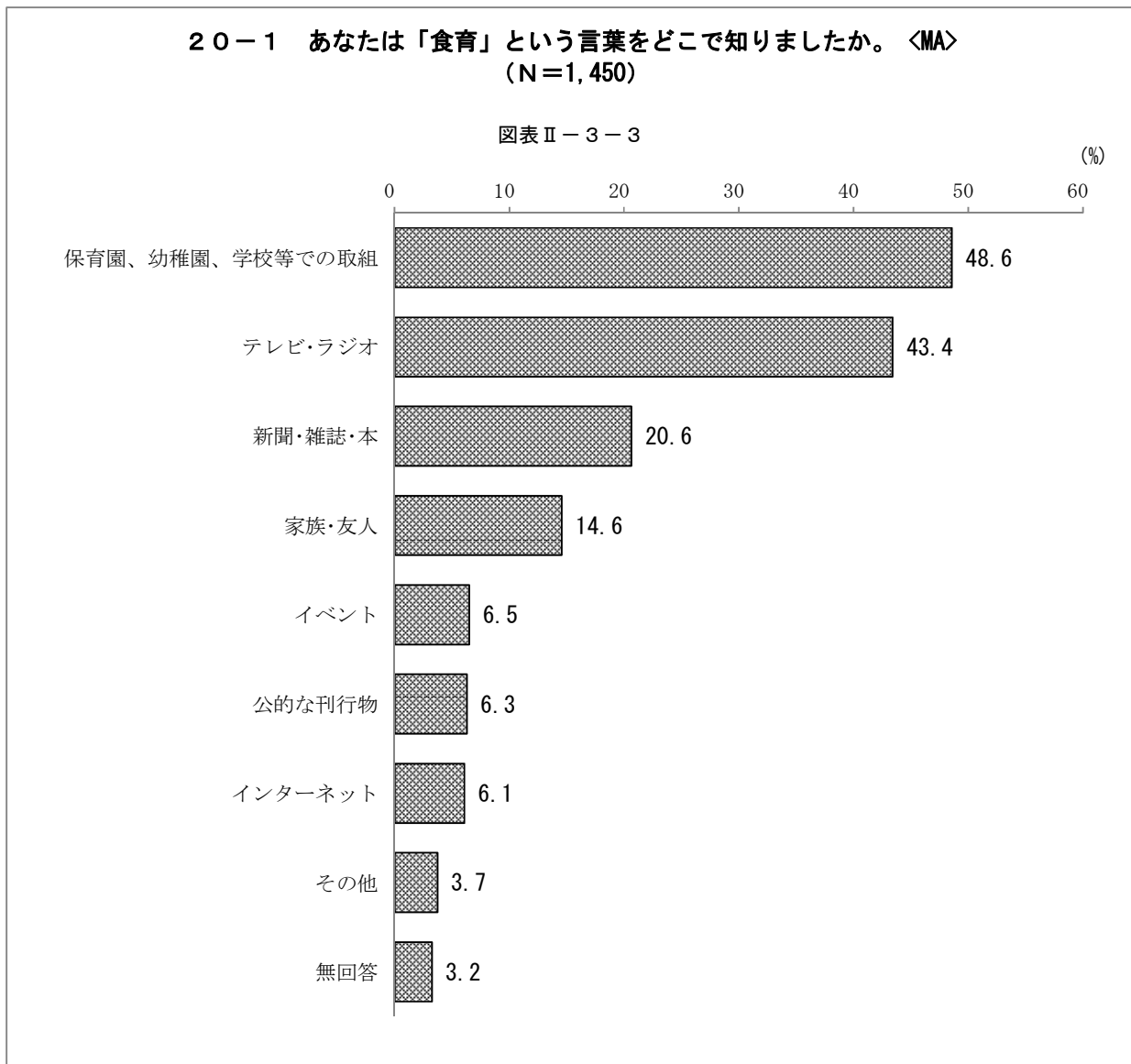
図表Ⅱ-3-2



(1-1) 言葉を知った場所・媒体

20-1 あなたは「食育」という言葉をどこで知りましたか。

◆「保育園、幼稚園、学校等での取組」、「テレビラジオ」が4割超



「食育」という言葉を知った場所や媒体は、「保育園、幼稚園、学校等での取組」(48.6%)と「テレビ・ラジオ」(43.4%)が4割を超えている。以下、「新聞・雑誌・本」(20.6%)、「家族・友人」(14.6%)の順となっている。(図表Ⅱ-3-3)

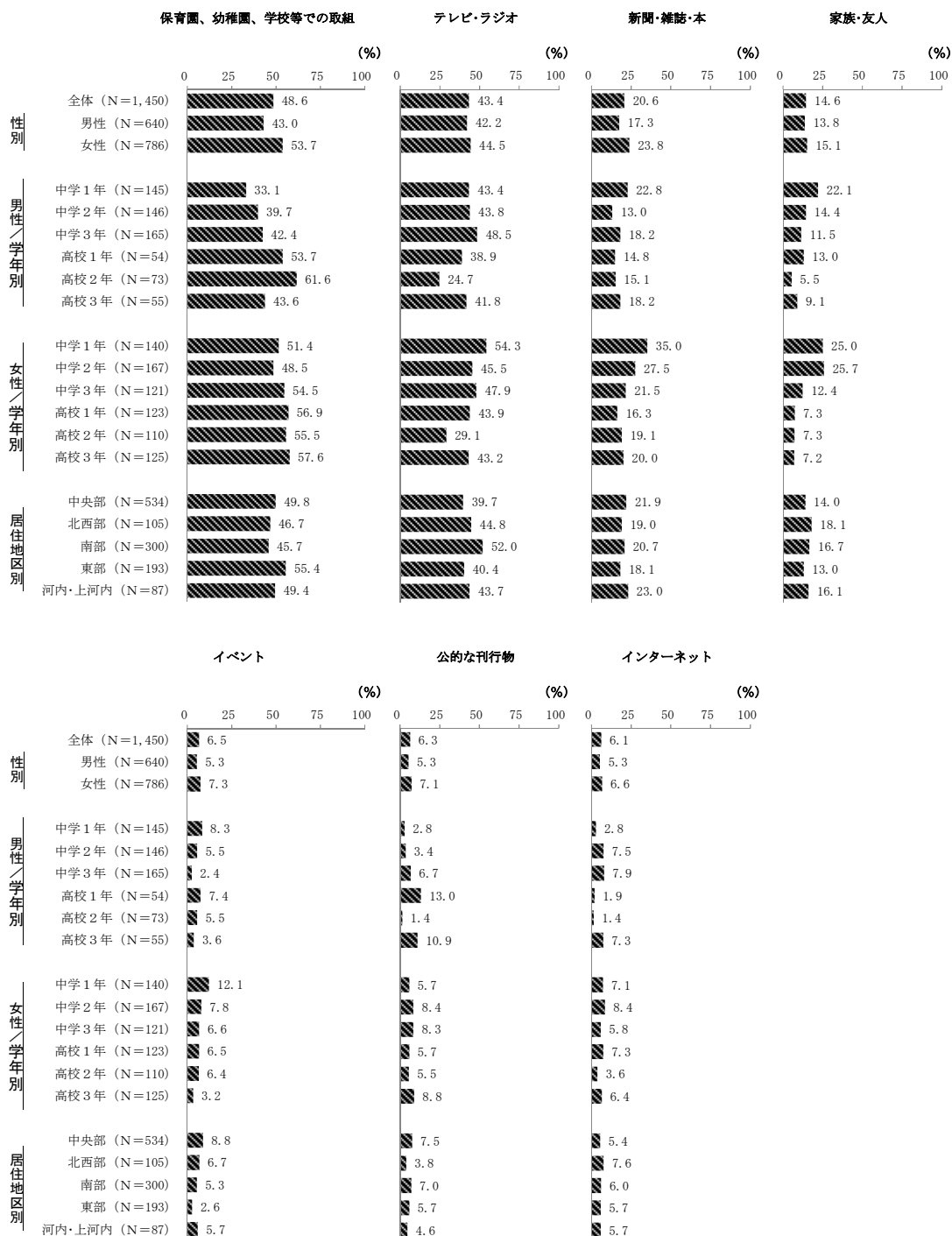
【性別／性・学年別／地区別】

性別で見ると、「保育園、幼稚園、学校等での取組」は、女性（53.7%）が男性（43.0%）より約10%高くなっている。

性・学年別でみると、「保育園、幼稚園、学校等での取組」で、男性中学生は、学年が上がるに従い増加している。一方で、男性中学生は、「テレビ・ラジオ」での割合が高くなっている。

居住地区別では、「東部」で「保育園、幼稚園、学校等での取組」（55.4%）、「南部」で「テレビ・ラジオ」（52.0%）が5割を超えているが、他は大きな差は見られない。（図表Ⅱ－3－4）

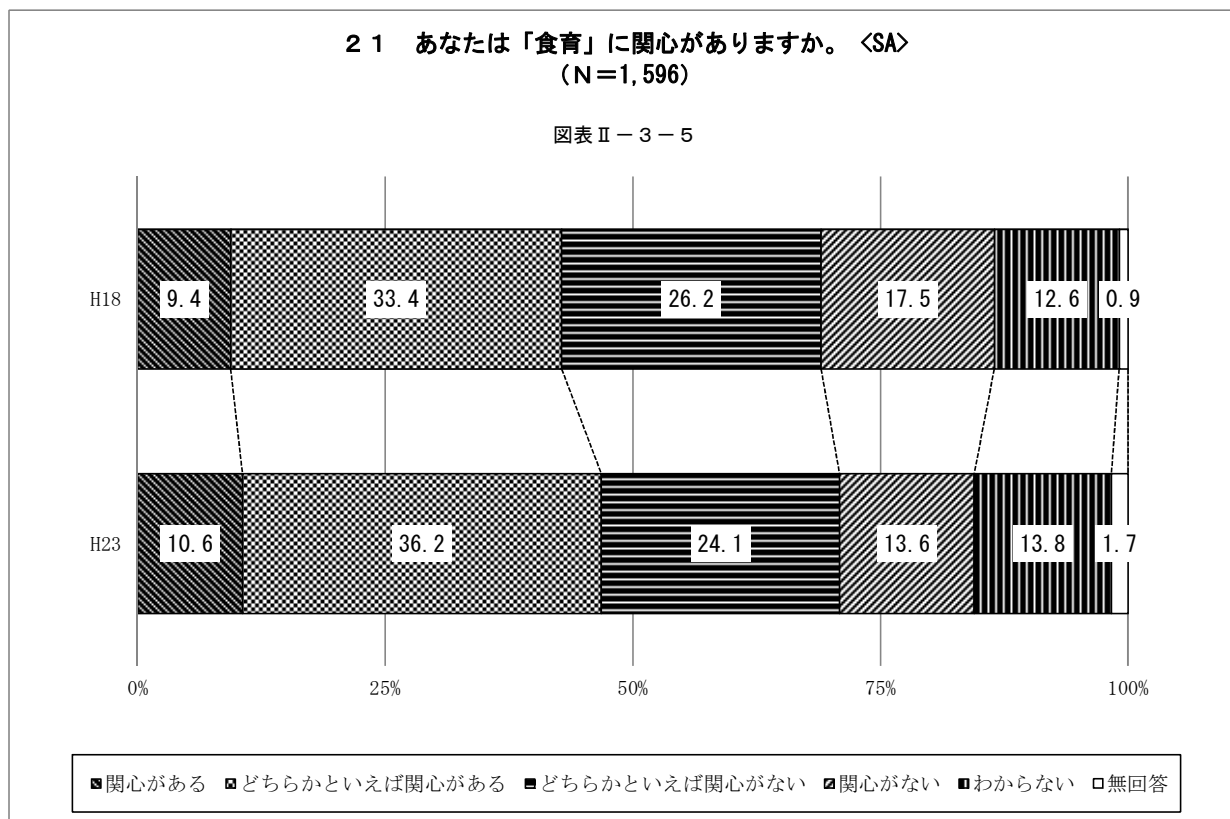
図表Ⅱ－3－4



(2) 食育関心度

2 1 あなたは「食育」に関心がありますか。

◆「関心がある」が4割強



「食育」への関心は、「関心がある」（「関心がある」（10.6%）と「どちらかといえば関心がある」（36.2%）の合計）は46.8%と、5割近くを占めており、平成18年度調査（42.8%）から、4%増加している。「関心がない」（「どちらかといえば関心がない」（24.1%）と「関心がない」（13.6%）の合計）は37.7%となっており、平成18年度調査（43.7%）から6%減少している。（図表Ⅱ-3-5）

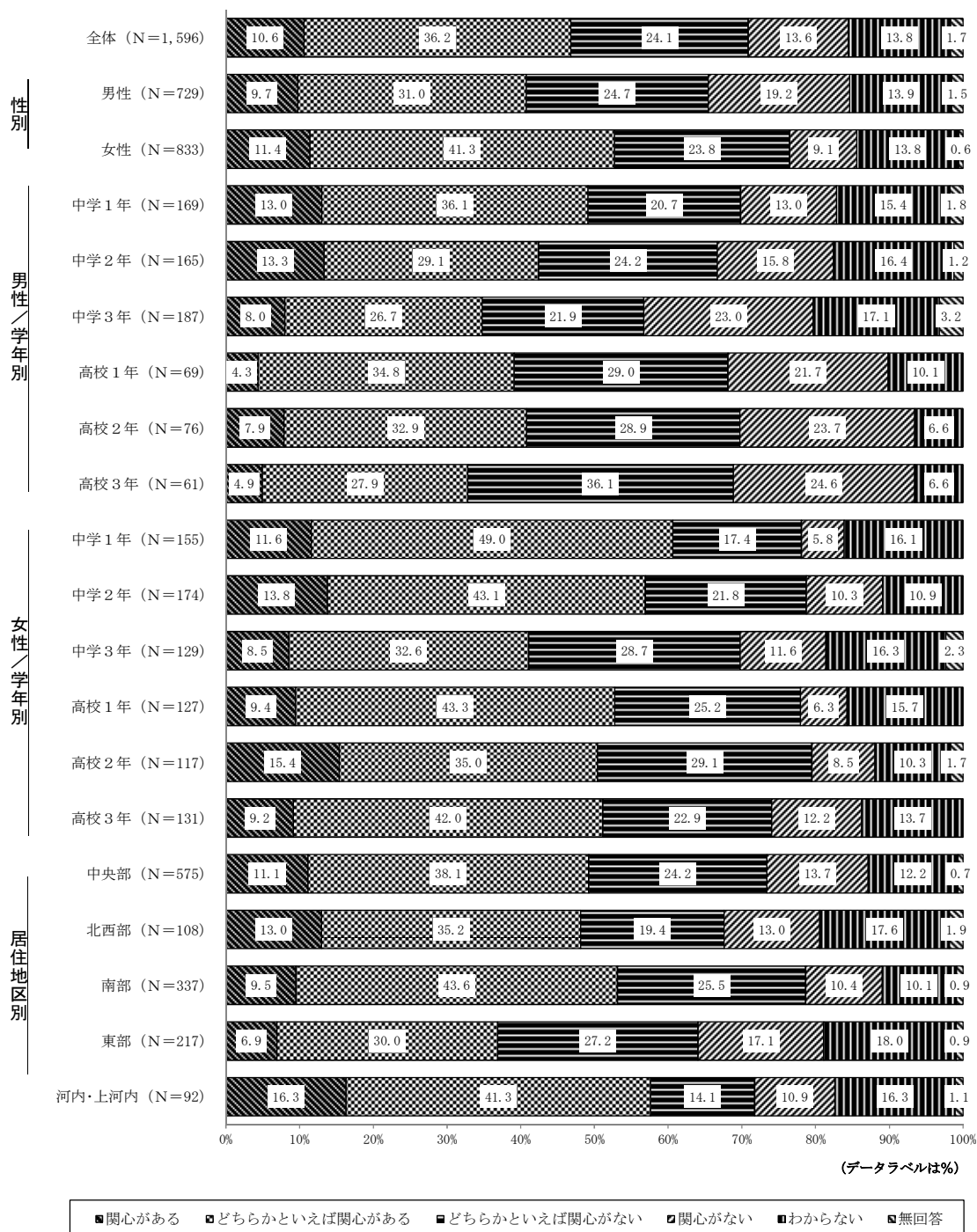
【性別／年齢別／地区別】

性別で見ると、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」は、いずれも女性の方が高く、「関心がある」（「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計）は、12%差が付いている。

性・学年別で見ると、全学年で女性の方が「関心がある」割合が高くなっている。また、男女とも「中学1年」、「中学2年」で「関心ある」の割合が高くなっている。

居住地区別は、「河内・上河内」（57.6%）、「南部」（53.1%）で「関心がある」の割合が高く、逆に「東部」では約37%に留まっている。（図表Ⅱ－3－6）

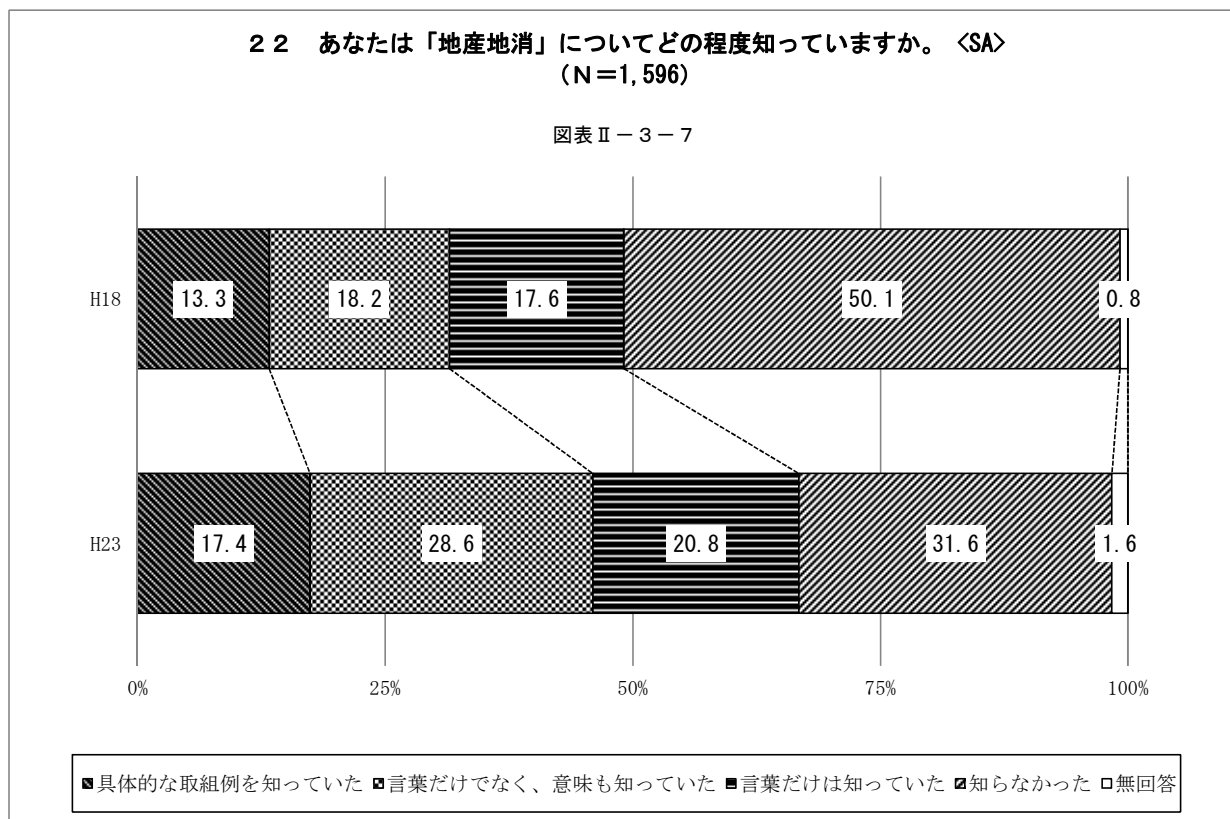
図表Ⅱ－3－6



(3) 地産地消の認知度

22 あなたは「地産地消」についてどの程度知っていますか。

◆「知っていた」割合が増加



「地産地消」については、「知らなかった」(31.6%)が、平成18年度調査では50.1%に上っていたのに対し、31.6%、約19%減少している。「知っていた」に関わる項目については、軒並み増加しており、中でも「言葉だけでなく、意味も知っていた」(28.6%)は10%以上増加している。

(図表Ⅱ-3-7)

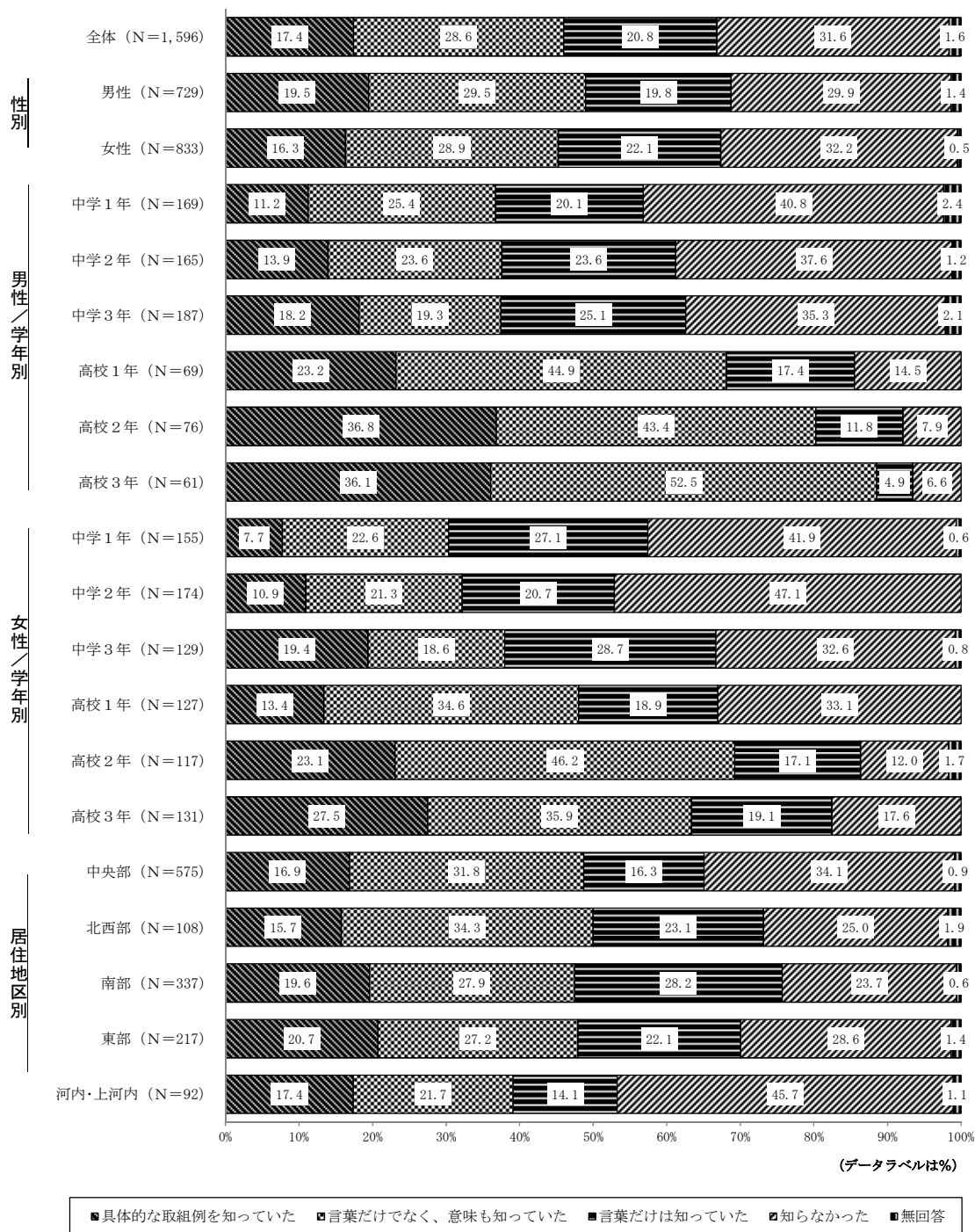
【性別／年齢別／地区別】

性別で見ると、「知っている」割合は、男性（49.0%）の方がやや上回っている。

性・学年別で見ると、男性「高校2年」（80.2%）、男性「高校3年」（88.6%）の「知っている」割合は8割を超えている。一方で、中学生では、男女とも「知らなかった」割合が高くなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」で「知らなかった」（45.7%）が5割近くに上っている。（図表Ⅱ-3-8）

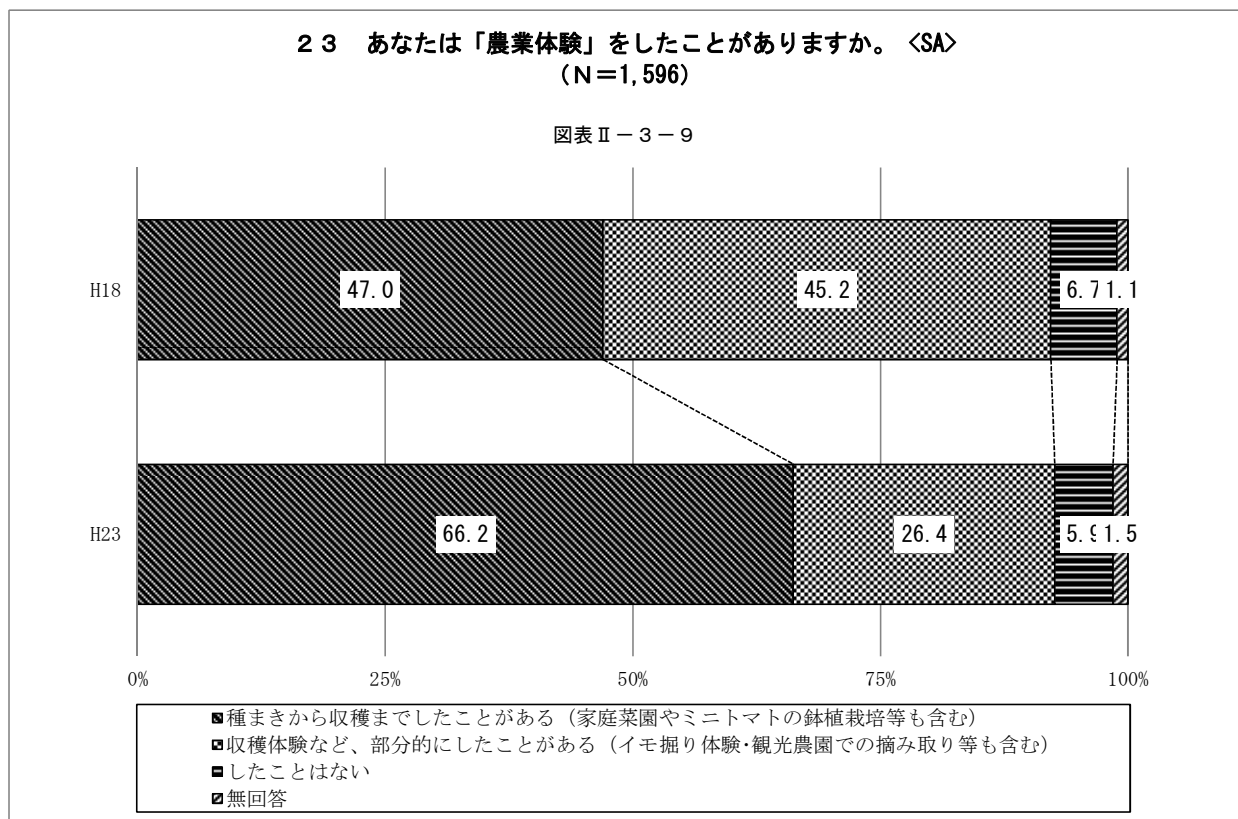
図表Ⅱ-3-8



(4) 農業体験の有無

23 あなたは「農業体験」をしたことがありますか。

◆「種まきから収穫までしたことがある」が6割超



「農業体験」の有無を聞いたところ、「種まきから収穫までしたことがある (家庭菜園やミニトマトの鉢植栽培等も含む)」(66.2%)が平成18年度調査では47.0%であったのに対し、66.2%まで増加している。「収穫体験など、部分的にしたことがある (イモ掘り体験・観光農園での摘み取り等も含む)」(26.4%)は、平成18年度調査から減少しているものの、「種まきから収穫までしたことがある」と合わせると、92.6%に上る。(図表Ⅱ-3-9)

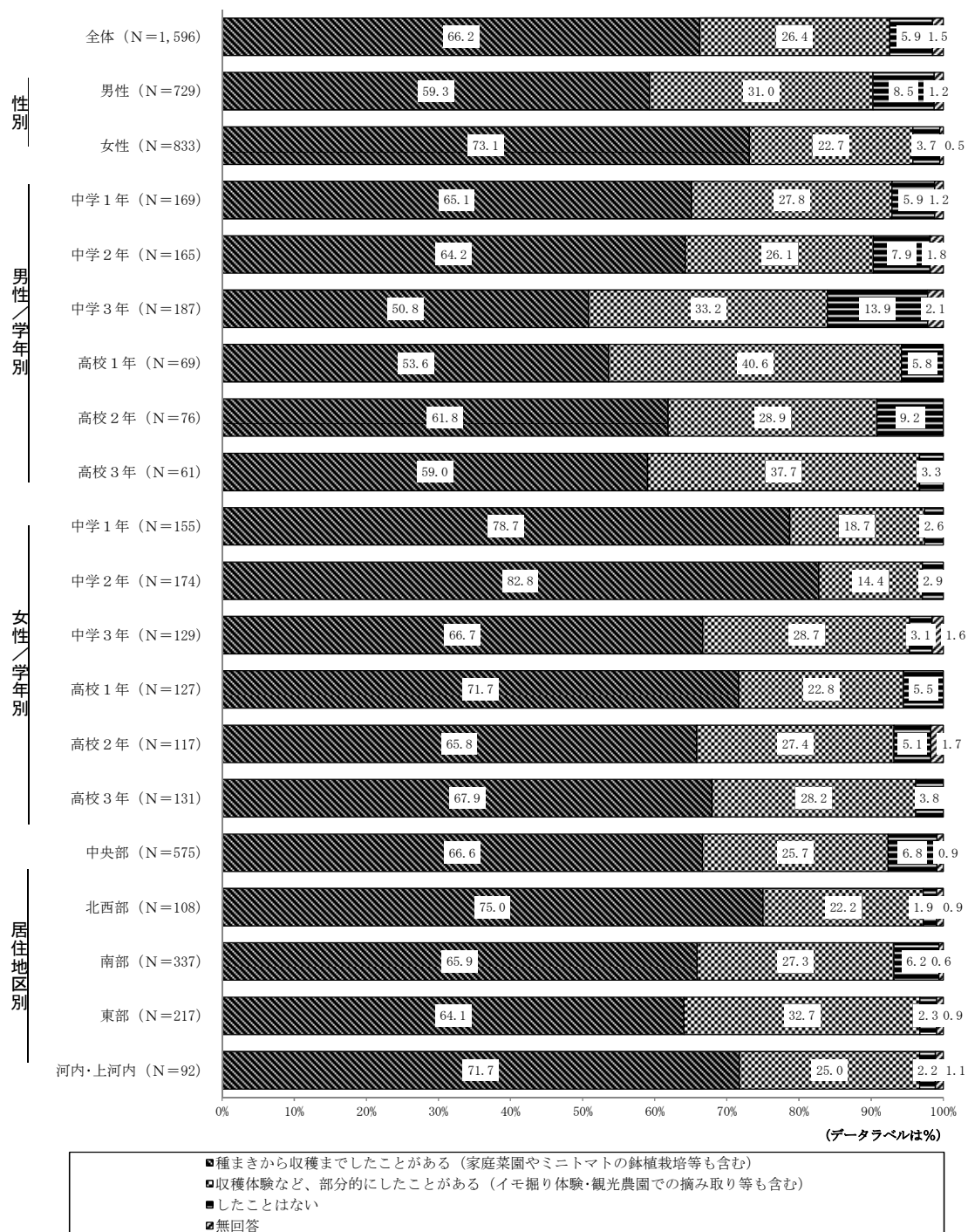
【性別／年齢別／地区別】

性別で見ると、農業体験のある割合は女性の方が高く、女性が95.8%であるのに対し、男性は90.3%となっている。

性・学年別で見ると、女性「中学1年」(78.7%)、女性「中学2年」(82.8%)で「種まきから収穫までしたことがある」が80%前後となっている。逆に、男性「中学3年」、男性高校生全学年では、「種まきから収穫までしたことがある」は、50%～60%程度となっている。

居住地区別では、「北西部」(75.0%)と「河内・上河内」(71.7%)で、「種まきから収穫までしたことがある」が7割を超えている。(図表Ⅱ-3-10)

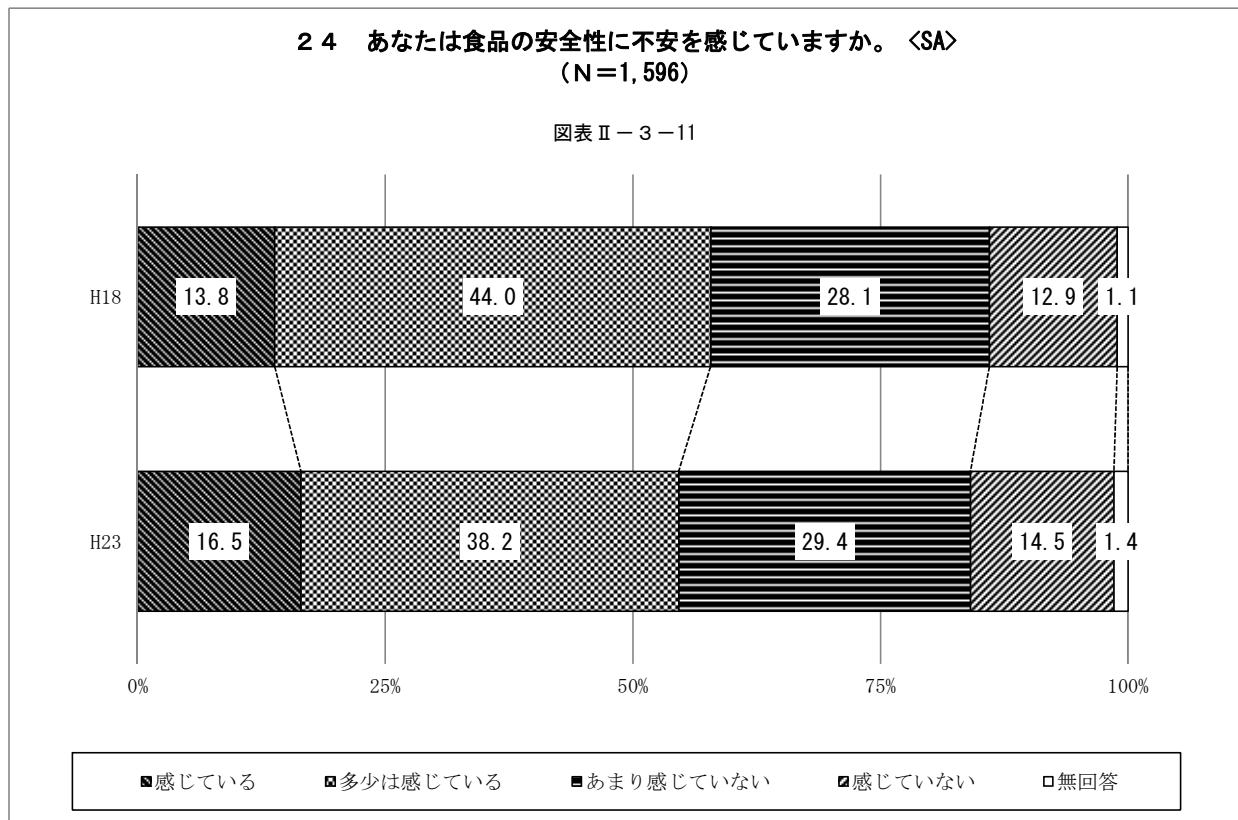
図表Ⅱ-3-10



(5) 食品の安全性への不安

2.4 あなたは食品の安全性に不安を感じていますか。

◆「感じている」が減少



食品の安全性への不安は、「感じている」（「感じている」（16.5%）と「多少は感じている」（38.2%）の合計）は54.7%と、半数を超えるが、平成18年度調査では57.8%となっており、やや減少している。逆に、「感じていない」（「あまり感じていない」（29.4%）と「感じていない」（14.5%）の合計）は43.9%となっており、平成18年度調査（41.0%）から微増となっている。（図表Ⅱ-3-11）

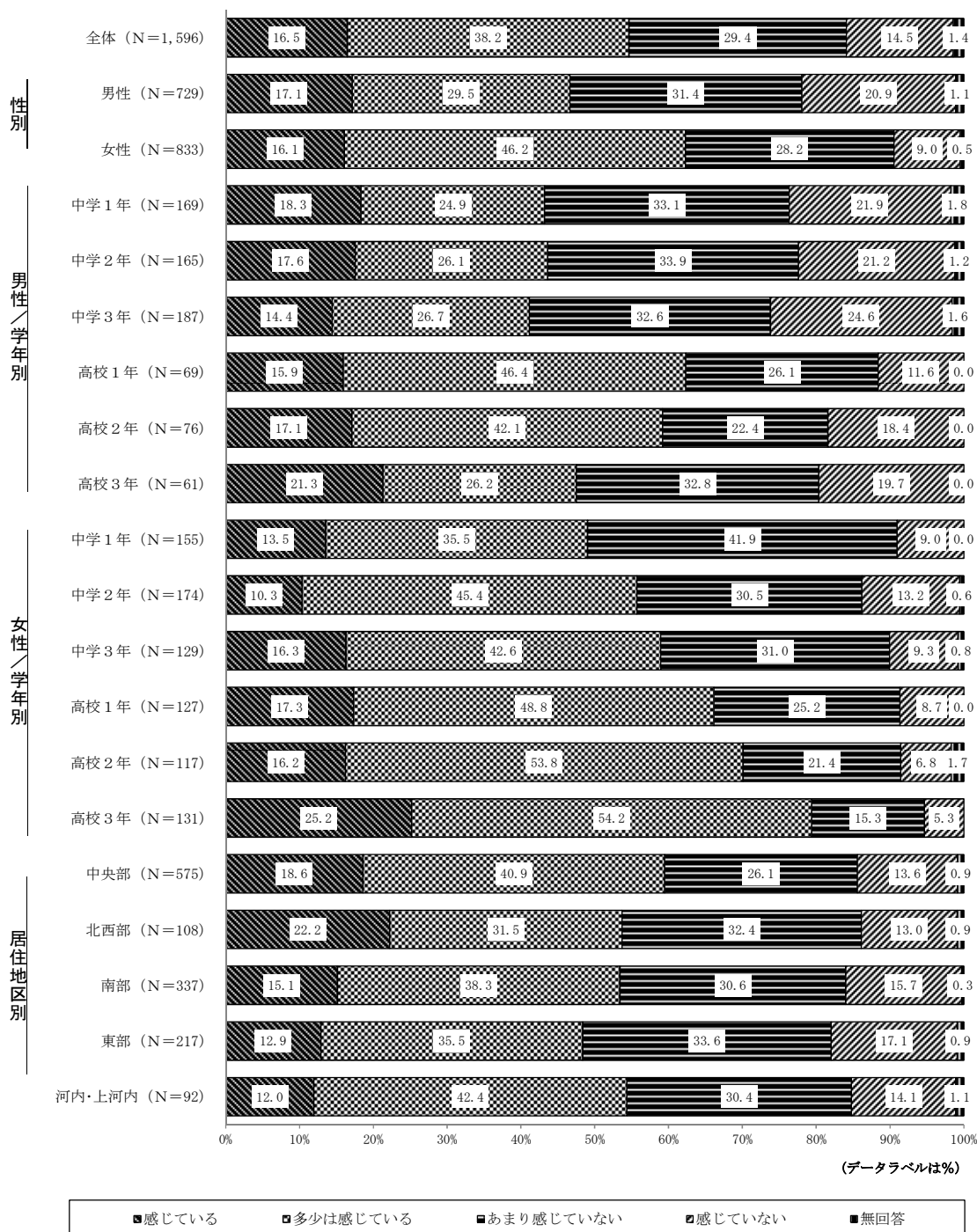
【性別／年齢別／地区別】

性別で見ると、「感じている」（「感じている」と「多少は感じている」の合計）は、女性（62.3%）が男性（46.6%）より約16%高くなっている。

性・学年別では、女性の全学年で、学年が上がるほど「感じている」割合が高くなっている。また、男性「高校1年」（62.3%）、男性「高校2年」（59.2%）で、「感じている」割合が6割前後となっている。

居住地区別では、「南部」、「東部」、「河内・上河内」で「感じている」割合が1割程度となっている。（図表Ⅱ－3－12）

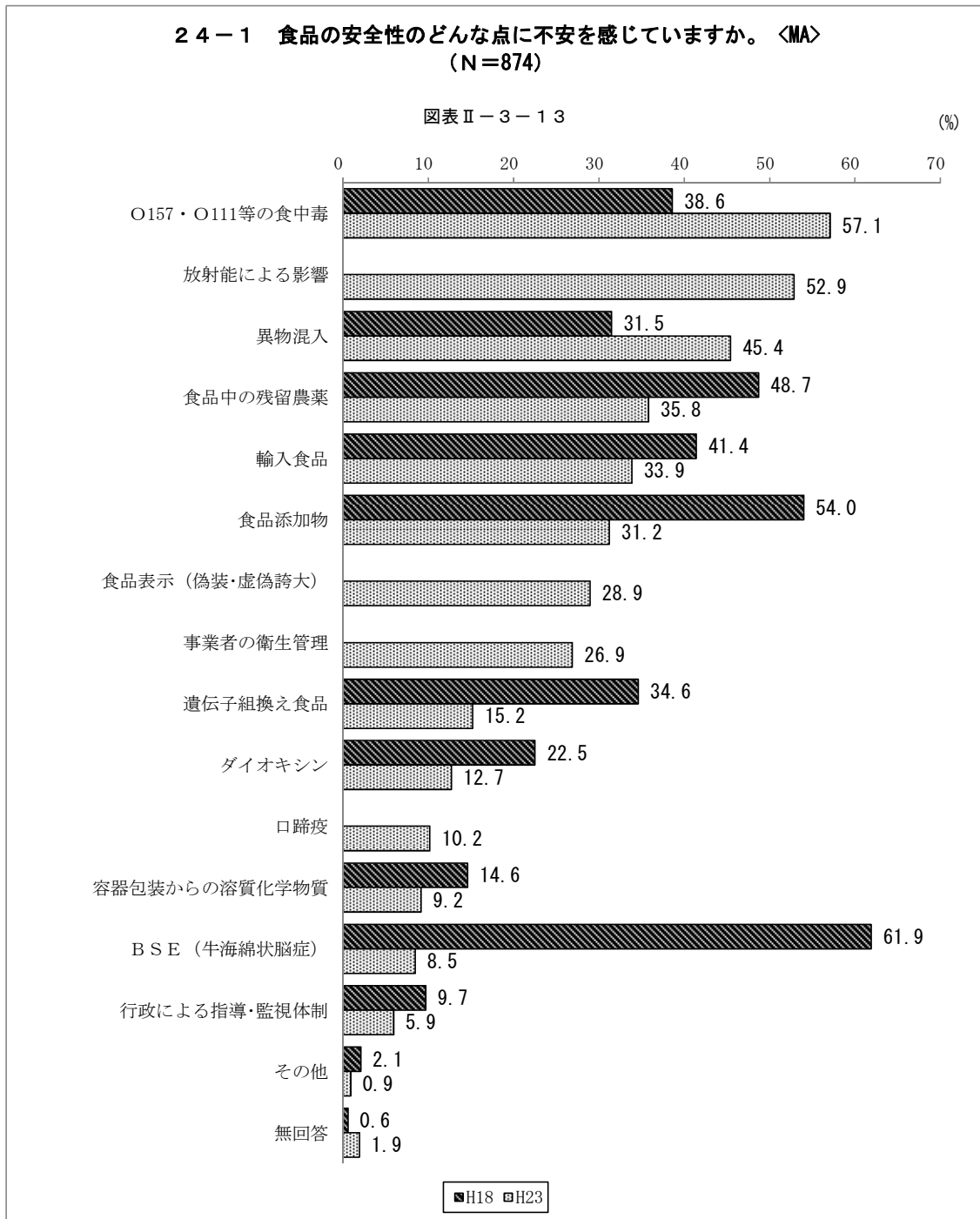
図表Ⅱ－3－12



(5-1) 不安の内容

24-1 食品の安全性のどんな点に不安を感じていますか。

◆「O157・O111等の食中毒」、「放射能による影響」が5割超



前問で食品の安全性に不安を「感じている」と答えた人に、不安な点を聞いたところ、「O157・O111等の食中毒」が57.1%、「放射能による影響」が52.9%と、5割を超えている。平成18年度調査で最も多かった「BSE (牛海綿状脳症)」は8.5%まで減少し、第二位の「食品添加物」も31.2%まで減少している。(図表Ⅱ-3-13)

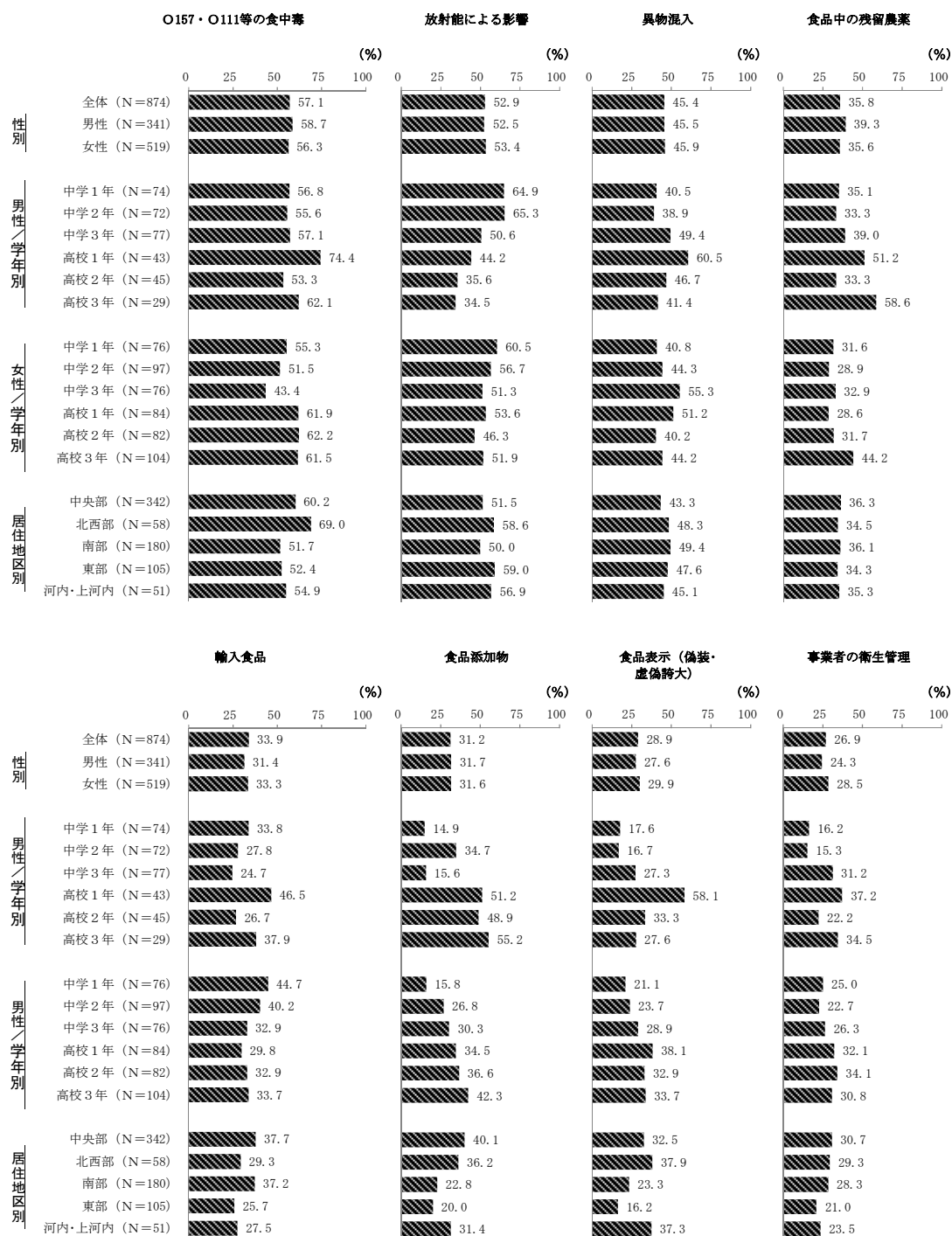
【性別／年齢別／地区別】

上位8項目を性別で見ると、男女間で大きな差は見られない。

性・学年別で見ると、「O157・O111等の食中毒」は、女性高校生で高くなっており、6割を超えている。また、男性「高校1年」(74.4%)は「O157・O111等の食中毒」で7割を超え、突出している。男性「中学1年」(64.9%)、男性「中学2年」(65.3%)は、「放射能による影響」が6割台半ばとなっている。

居住地区別では、「中央部」(60.2%)、「北西部」(69.0%)で「O157・O111等の食中毒」が6割を超えている。(図表Ⅱ-3-14)

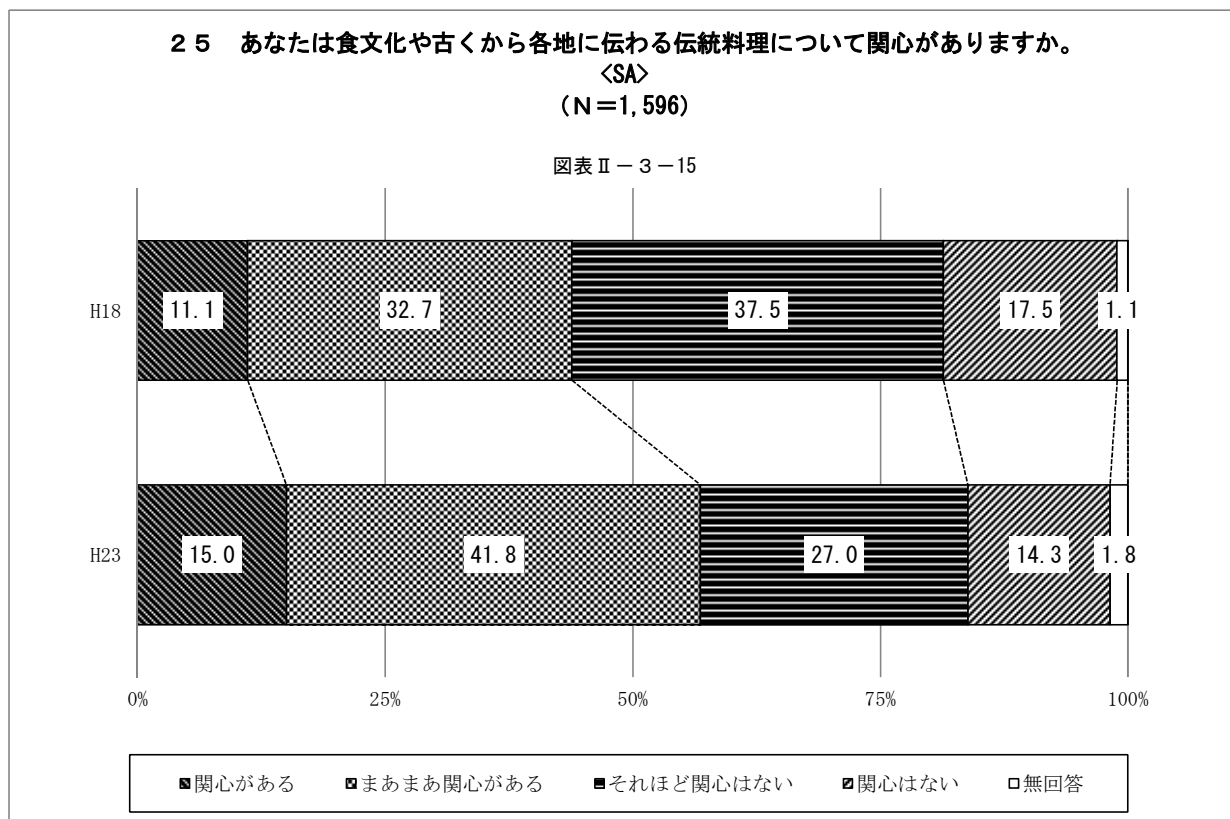
図表Ⅱ-3-14 (上位8項目)



(6) 食文化や伝統料理への関心度

25 あなたは食文化や古くから各地に伝わる伝統料理について関心がありますか。

◆「関心がある」が5割超で増加



食文化や伝統料理への関心度は、平成18年度調査では「関心はない」(55.0%)が半数を超えていたのに対し、今回調査では「関心がある」(「関心がある」(15.0%)と「まあまあ関心がある」(41.8%)の合計)が56.8%と、逆転している。(図表Ⅱ-3-15)

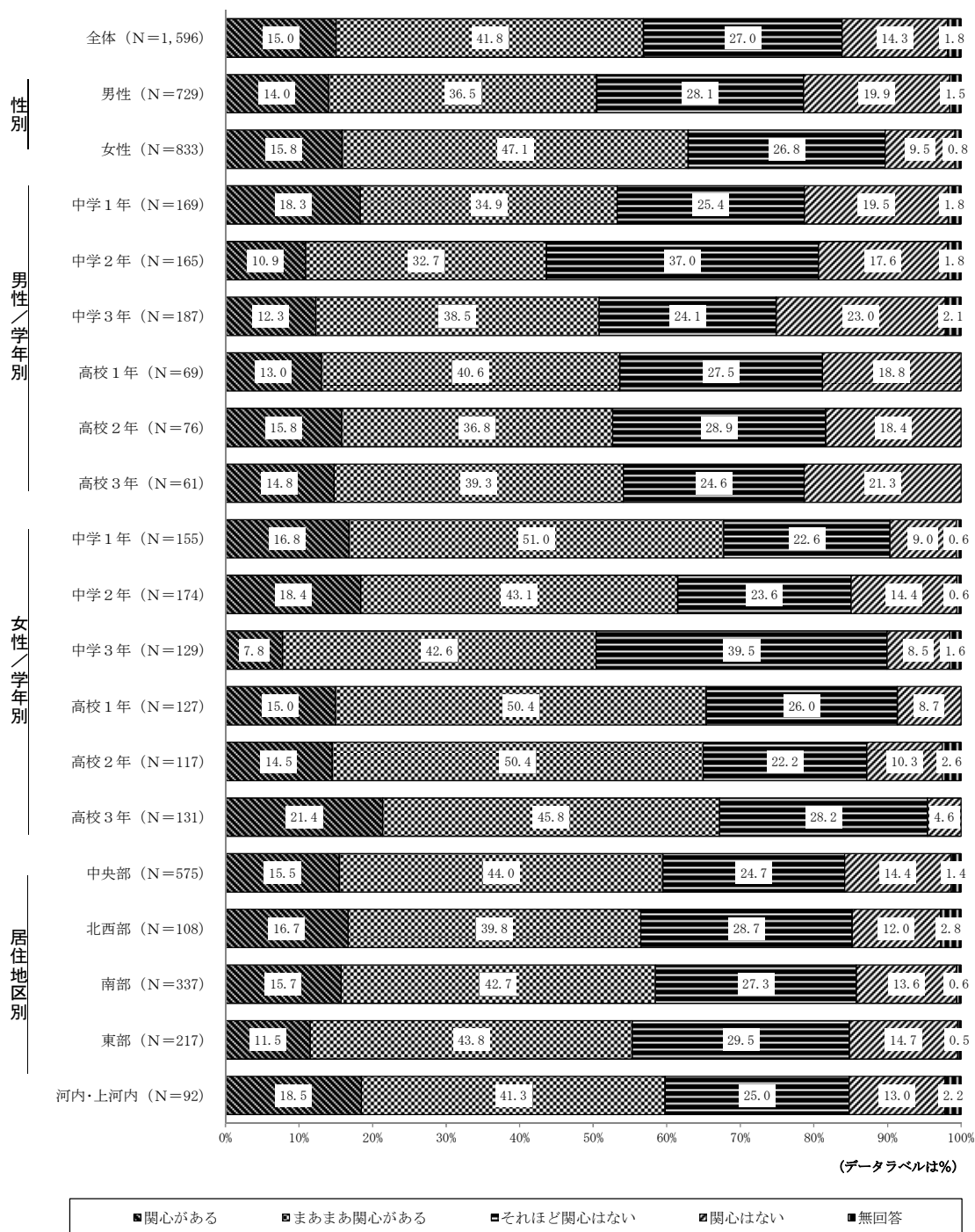
【性別／年齢別／地区別】

性別で見ると、「関心がある」（「関心がある」と「まあまあ関心がある」の合計）は、女性（62.9%）が男性（50.5%）を約12%上回っている。

性・学年別では、女性の方が「関心がある」割合が高くなっているが、「中学3年」では、「それほど関心はない」が4割近くに上っている。男性では、全学年で「関心はない」の割合が高くなっている。

居住地区別では、地区間で大きな差は見られない。（図表Ⅱ－3－16）

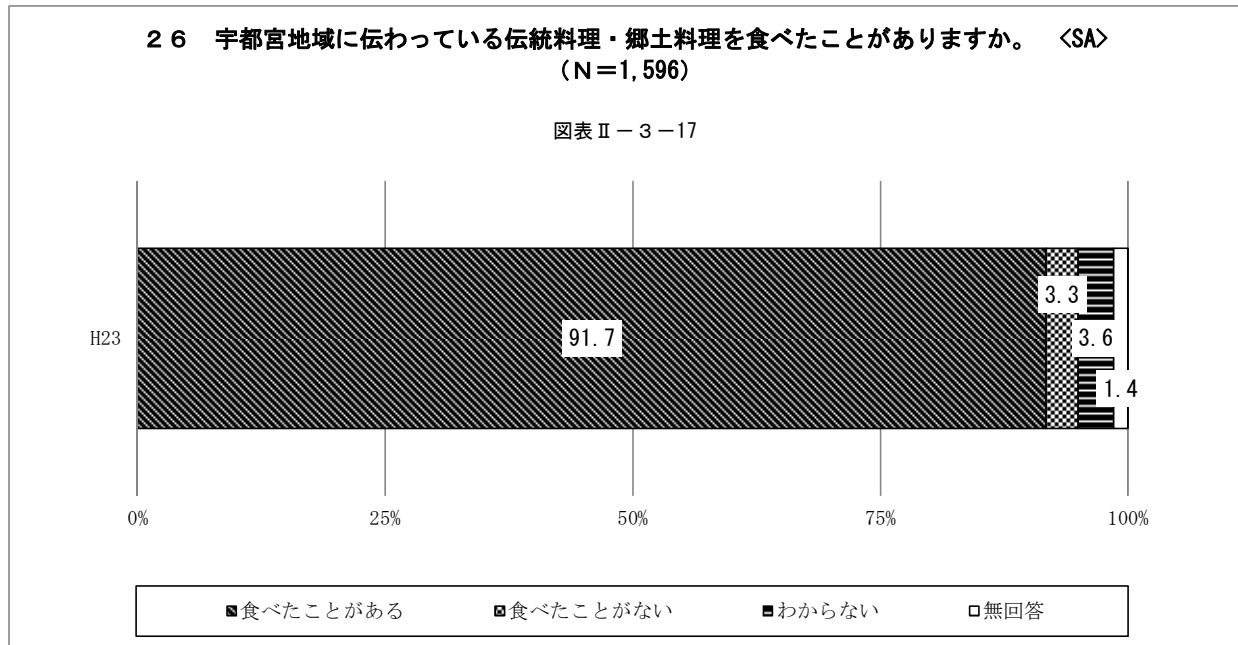
図表Ⅱ－3－16



(7) 伝統料理・郷土料理の食用経験

26 あなたは正月のおせち料理や十五夜の団子などの伝統料理や、「しもつかれ」や「かんぴょう」「ゆず」を食材とする宇都宮地域に伝わっている郷土料理を食べたことがありますか。

◆「食べたことがある」が9割超

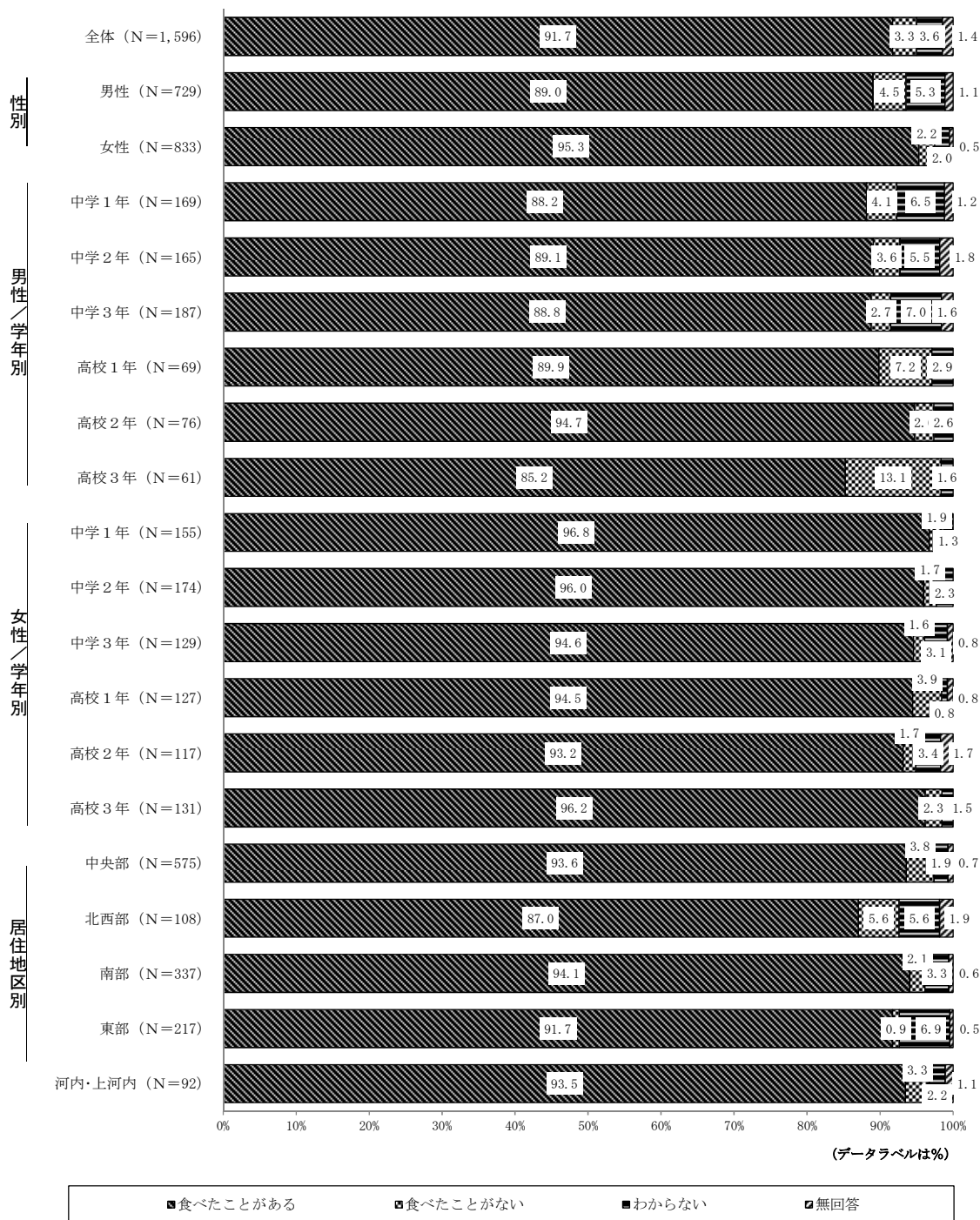


宇都宮地域の伝統料理や郷土料理を食べた経験は、「食べたことがある」が91.7%と圧倒的に多くなっている。(図表Ⅱ-3-17)

【性別／年齢別／地区別】

性別では、「食べたことがある」女性（95.3%）は男性（89.0%）より約6%上回っている。
 性・学年別でみると、全学年で「食べたことがある」が90%前後となっているが、男性「高校3年」のみ85.2%と、8割台となっている。
 居住地区別では、「北西部」が「食べたことがある」（87.0%）割合が8割台となっている他は、9割を超えている。（図表Ⅱ－3－18）

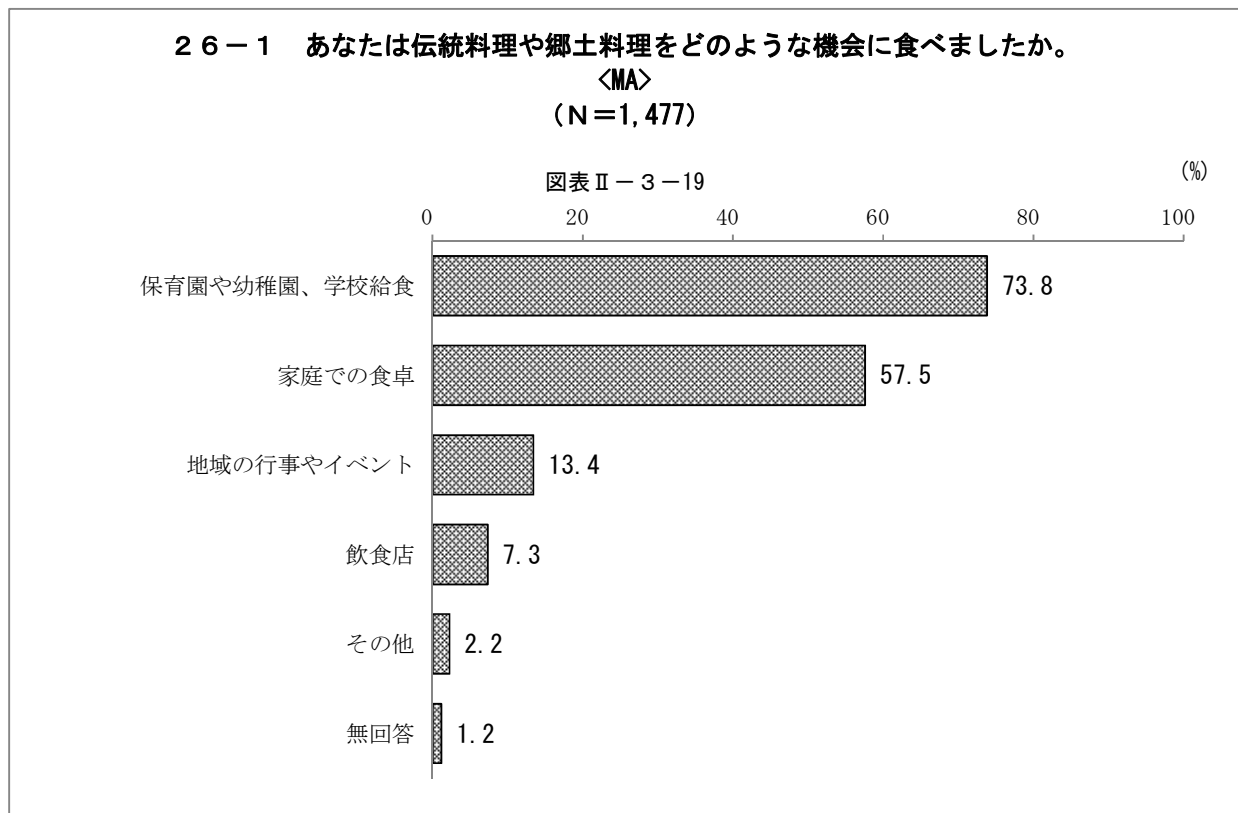
図表Ⅱ－3－18



(7-1) 伝統料理・郷土料理の食用機会

26-1 あなたは伝統料理や郷土料理をどのような機会に食べましたか。

◆「保育園や幼稚園、学校給食」が7割強



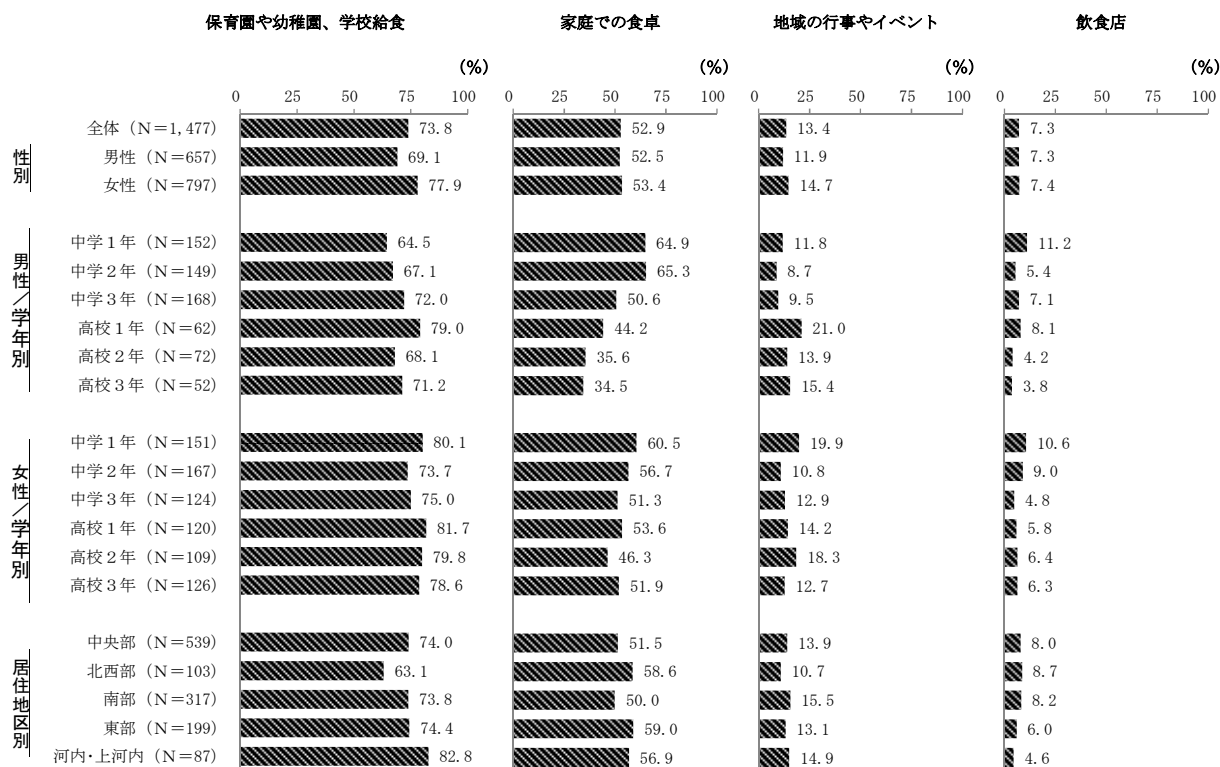
伝統料理や郷土料理を「食べたことがある」と答えた人に、どのような機会に食べたかを聞いたところ、「北緯園や幼稚園、学校給食」(73.8%)が7割強で、次いで「家庭での食卓」(57.5%)が5割を超えている。(図表Ⅱ-3-19)

【性別／年齢別／地区別】

性別で見ると、「保育園や幼稚園、学校給食」は女性（77.9%）が男性（69.1%）より約9%上回っている。

性・学年別でみると、「家庭での食卓」で、男性の全学年で、学年が上がるに従い減少している。居住地区別は、「北西部」で「保育園や幼稚園、学校給食」（63.1%）6割台である一方で、「家庭での食卓」（58.6%）に上っている。（図表Ⅱ－3－20）

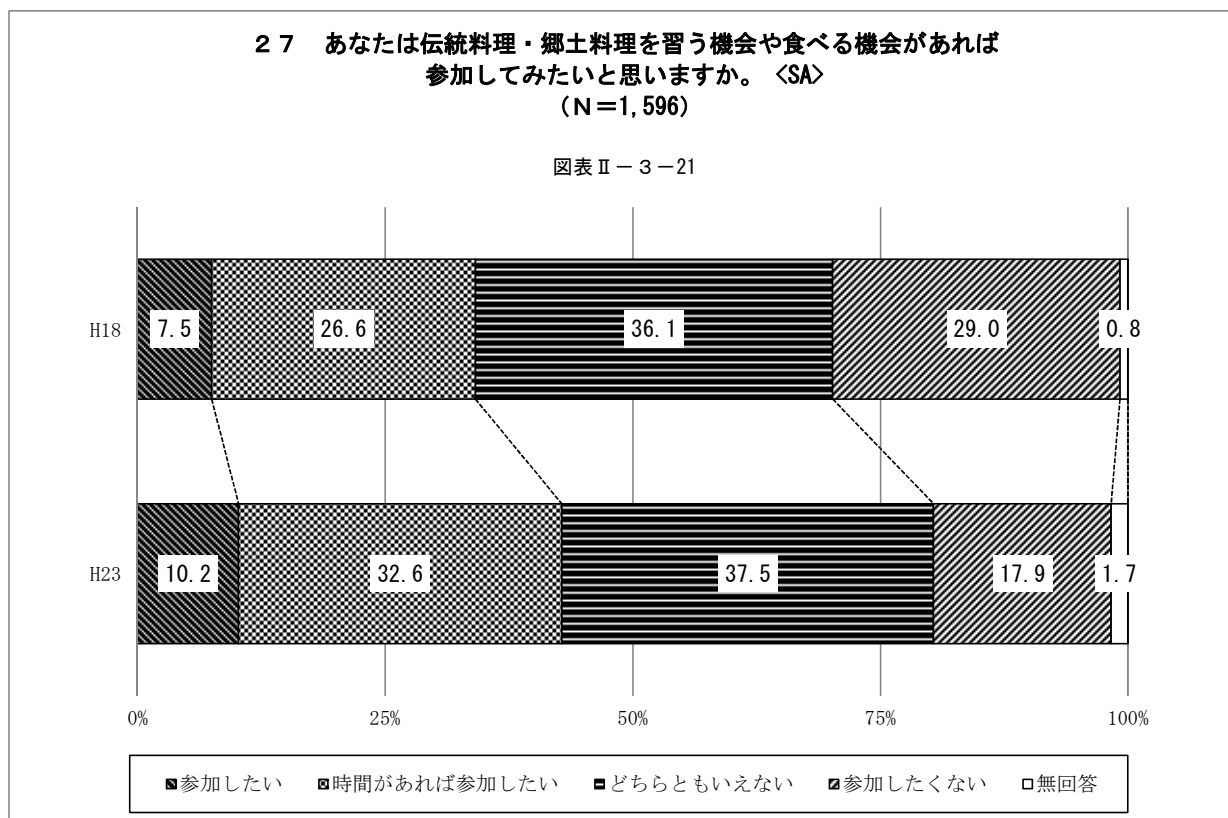
図表Ⅱ－3－20



(8) 料理講習への参加意向

27 あなたは伝統料理・郷土料理を習う機会や食べる機会があれば参加してみたいと思いますか。

◆「参加したい」が増加



伝統料理・郷土料理を習う機会があれば「参加したい」（「参加したい」（10.2%）と「時間があれば参加したい」（32.6%）の合計）と回答した人は4割強となり、平成18年度調査に比べ微増となっている。逆に「参加したくない」（17.9%）は、平成18年度調査に比べ1割程度減少している。（図表Ⅱ-3-21）

【性別／年齢別／地区別】

性別で見ると、「参加したい」（「参加したい」と「時間があれば参加したい」の合計）は女性（49.6％）が男性（36.4％）を大きく上回る。

性・学年別で見ると、男性の全学年で「参加したくない」割合が2割台となっている。一方で、女性高校生では「参加したい」割合が15%前後となっている。

居住地区別では、「東部」で「参加したい」割合が33.2％と、他地区に比べ10%近く低くなっており、「どちらともいえない」（47.0％）が5割近くに上っている。（図表Ⅱ－3－22）

図表Ⅱ－3－22

